

Kalpalatā と Avadānamālā の研究 (3)

— Subhadra, Hetūttama, Pretikā の説話 —

岡 野 潔

南アジア古典学 第7号 別刷

South Asian Classical Studies, No. 7, pp. 257–365

Kyushu University, Fukuoka, JAPAN

2012年7月 発行

Kalpalatā と Avadānamālā の研究 (3) — Subhadra, Hetūttama, Pretikā の説話 —

九州大学 岡野 潔

略号

Avś = Avadānaśataka

Kalpalatā = Bodhisattvāvadānakalpalatā

S16 = the chapter 16 of the Subhāṣitamahāratnāvadānamālā

SMRAM = Subhāṣitamahāratnāvadānamālā

MPS = Mahāparinirvāṇasūtra (ed. WALDSCHMIDT)

本論文は第一部で、『南アジア古典学』前号に引き続き、中世カシュミールの詩人 Kṣemendra 作の『菩薩のアヴァダーナの如意鬘』(Bodhisattvāvadānakalpalatā) の二つの章、すなわち第80章 Subhadrāvadāna『スバドラのアヴァダーナ』と第81章 Hetūttamāvadāna『ヘートウ・ウッタマ仏のアヴァダーナ』の校訂と翻訳を行う⁽¹⁾。

第二部では、前号の第二部に引き続き、餓鬼の説話を取り上げる。中世ネパールのアヴァダーナ・マラー文献である Subhāṣitamahāratnāvadānamālā (『善説・偉大な宝珠アヴァダーナ集成』) の中の第16章 Pretikāvadāna『餓鬼女アヴァダーナ』の校定・和訳を行う。この餓鬼女の話は Avadānaśataka (梵文『撰集百緣經』) の第49章 Putrāḥ に基づいた韻文再話文献であるので、それとの比較を試みたい。

第一部

Avadānakalpalatā 第80章 Subhadra と第81章 Hetūttama

第1節 第80章 Subhadrāvadāna 「スバドラのアヴァダーナ」

ここに校定・翻訳を行う Kalpalatā 第80章は99詩節から成り、第1詩節ならびに最後の第99詩節を除いて、章の内容は次の (A) ～ (J) の10の記事から構成されている。

1 ドイツの Michael HAHN 教授と出本充代博士は、第一部の Kalpalatā 第80章と第81章の最終原稿を入念にチェックをして下さり、多数の修正意見を下さった。いつも変わらぬ御親切をお示しく下さるお二人の先生に心から御礼申し上げる。

- (A) ガンダルヴァの Supriya の回心の話 vv. 2-7, 12-15, 20-28
- (B) Subhadra がウドゥンバラ林の花の開花と凋萎を見る挿話 vv. 8-11, 16-19, 29-40
- (C) 大般涅槃經に由来する、Subhadra が釈尊を訪問する記事 vv. 41-63
- (D) Subhadra が五種の決意に基づき涅槃し、彼の葬儀をめぐる異教徒が騒動した挿話 vv. 64-66
- (E) Kāśyapa 仏の臨終における樹神 (= Subhadra) の誓願話 vv. 67-72
- (F) Krakucchanda 仏の臨終における或る神 (= Subhadra) の誓願話 vv. 73-74
- (G) 王の馬が苦しみながらも王 (= Subhadra) を救った本生話 vv. 75-76
- (H) 鹿王が最後の子鹿 (= Subhadra) を救った本生話 vv. 77-82
- (I) 優婆塞 (= Supriya) がガンダルヴァ王への再生を祈願した誓願話 vv. 83-86
- (J) Vijayanta 王本生話 vv. 87-98

このうち、(A) と (I) がガンダルヴァの Supriya に関する記事、(B) ～ (H) が釈尊の最後の弟子 Subhadra に関する記事であり、最後の (J) の話はシビ王本生的一种である。

この Kalpalatā 第80章の全体の記述のソースに最も近いと思われる資料は根本有部毘奈耶雜事 (Vinayakṣudraka) であり、上記の (F), (I), (J) の記事を除いて、その律雜事の大般涅槃經関連の一連の記事の中に、ほぼ該当する記述が見出せる。第80章の (F), (I), (J) の記事ならびに第19詩節の出来事が、律雜事の大般涅槃經関連の記事の中に相応するものを見出せないことは、Kalpalatā の作者 Kṣemendra が本章の記述にあたって、根本有部の律雜事の記事の上に更に (F), (I), (J) などが増広された、別の recension の律雜事を用いたことを示唆するように思われる。

さて上記の (C) の記事は、[小乗] 大般涅槃經の有部・根本有部伝承の梵文テキスト²⁾とよく内容が合致し、歴史的に他の記事よりも古く成立した、阿含聖典に由来する部分である。異教徒の行者スバドラがクシナガリーで臨終の床に就かれた釈尊に会い、聞法の後、出家を許されて、釈尊の最後の弟子となり、阿羅漢となり、釈尊の涅槃より前に自ら涅槃する³⁾。この阿含經の由緒ある記事が第80章のスバドラの話の形成の出発点になり、その記事のベースの上に様々な説話的な素材が時代と共に追加されてゆき、最終的に律雜事に見られるような複雑な姿になったと思われる。

2 WALDSCHMIDT (1950-1951): *Das Mahāparinirvāṇasūtra*, T. 1-3, Berlin (ADAW 1949, 1; 1950, 2,3).

3 *Ibid.*, S. 366-383 (Vorgang 40.1-49).

阿含經の後に成立した説話文献である *Avadānaśataka* の第40章 *Subhadraḥ* に⁽⁴⁾、そのスバドラの阿含の記事をコアにして有部（根本有部）の内部で説話複合体が形成されてゆく初めの段階を見て取ることが出来る。Avs 第40章は阿含の (C) のテキストをそのまま借用しつつ、そこに (H) と (E) の話を付け加えた形をもつ。(H) の鹿王の本生話は、スバドラが前世においても、鹿王である菩薩によって最後に救済された子鹿であったという話である。また (E) の話は、なぜスバドラが釈尊の最後の弟子になり、そして釈尊より前に涅槃したのかを、スバドラが過去世で樹神であった時になした誓願の結果として説明する話である。

このように Avs 第40章は (C) (H) (E) の記事から成り、それは阿含の記事への追加的説明として出来た説話複合体であったが、そこで仏の臨終をめぐる説話の成長は止まらず、さらにそれがコアになって、有部系伝承の中で雪だるまのように更に他の記事も付加され、因縁話が増加していった。それらの有部系のスバドラの前生話をパーリ上座部は知らず、パーリ上座部は根本有部が形成したものとは全く違うスバドラの前生話をパーリ聖典『アパダーナ』の中に伝えている⁽⁵⁾。

Avs 第40章では、(A) のガンダルヴァ（音楽を好む神）のスプリヤの話は出てこない。しかしスプリヤが琵琶の技で釈尊と競争したという話は、Avs の別の章の、第17章 *Stuṭiḥ* にある。「楽師たちの王」（*gāndharvika-rājan*）であるスプリヤが舍衛城に来て、舍衛城の楽師と音楽で競うことを望む。その挑戦を、音楽によって驕り高ぶるスプリヤを仏教に改宗させるためのよい機会と見た釈尊が、ガンダルヴァの子 *Pañcaśikha* に持ってこさせた瑠璃の琵琶を用いて、自らスプリヤと琵琶の技で競争し、彼の慢心を打ち砕く。そしてスプリヤは釈尊のもとで出家し、阿羅漢となった、という話が第17章である（SPEYER, i.93-101）。その第17章ではスプリヤは恐らくガンダルヴァではなく、人間

4 J. S. SPEYER (1906): *Avadānaśataka*, Vol. I, pp. 227-240. なお漢訳『撰集百緣經』にはこの梵本第40章に相当する章が無いので、Avs の祖型には恐らくこの章は無かったと思われる。出本充代 (1998) が指摘するように、後の Avs の改編の時に、阿含經典を借用した付加改変が一举に大規模になされたと考えられるため、その時に梵本の現在の第40章も、Avs の祖型にあった古い形の章と差し替えられて成立したと推測される。出本充代 (1998): 「*Avadānaśataka* に挿入された阿含經」、『パーリ学仏教文化』11号、31-35頁を参照。

5 パーリ聖典『アパダーナ』 (*Apadāna*, PTS ed. by LILLEY, I, pp. 100-101) によれば、十万劫の昔、*Subhadda* は最後の床に臥す *Padumuttara* 如来の御体を香と花環で覆ったが、その時 *Padumuttara* 如来から「汝は釈迦牟尼のもとで涅槃するだろう」と予言を受けた。*Subhadda* は *Padumuttara* 如来のストウパに幡を擡げた。また *Kassapa* 仏の時代に、*Subhadda* の実の息子は *Kassapa* 仏の一番弟子の *Tissa* であったが、*Subhadda* は *Tissa* に不祥の言葉で悪口をなした悪業により、釈尊に最後に会うことになった。『南伝大蔵經』第26巻、小部經典4、179-183頁参照。

の楽師 (gāndharvika) である。しかし同じ Avś の別の章 (第20章) には、スプリヤを有名な Pañcaśikha や Tumburu と同じ、天界に住むガンダルヴァと見なす伝承があることが確認できる (SPEYER, i.113.5)。

Avś 第17章における、楽師スプリヤが舎衛城で釈尊と琵琶の技を競って破れ、回心させられた話の伝承は、かなり姿を変えて、根本説一切有部の律雜事に説かれる。そこでは、ガンダルヴァ王たるスプリヤが天界でガンダルヴァの姿に化作した釈尊と競争して回心させられた話となっており、これは Kalpalatā 第80章の (A) のスプリヤの話とよく合致する。律雜事でのそのスプリヤの記事は、ちょうどスバドラの話の前に置かれている。そのスプリヤの話は、それに続くスバドラの話と同様に、釈尊がクシナガリーに居る時の、臨終における最後の教化活動を説くものとして、根本有部律雜事における長い一連の大般涅槃經関連の記事の中に置かれている。Avś も律雜事も、どちらも同じ部派に属する文献であるものの、律雜事のスプリヤの伝承は恐らく Avś よりもかなり後の時代の、その説話の発達を示しているのであろう。スバドラとスプリヤの二つの話は、本来は別々に成立したらしいことが Avś を根拠に推測できるが、それらが律雜事では組み合わせられている。律雜事は有部の阿含の大般涅槃經テキストの長大な借用の中に、多くの因縁話を挟みこんでゆくが、その編集においてスバドラの記事の直前に挿入された話がスプリヤの話である。

また律雜事ではスバドラの記事の内部にも、新たな挿入がいくつもなされている。スバドラの記事はすでに Avś の段階で、阿含の記事 (C) に上述の (H) と (E) の話が加えられていたが、律雜事ではさらに (B), (D), (G) の記事が追加されている。また私の憶測であるが、Kṣemendra が利用したであろう11世紀当時のカシュミールにあった律雜事の記事には、更に (F), (I), (J) の記事がそこに追加されていたと思われる。

最後の (J) Vijayanta 王本生話は、王の名称こそ Vijayanta であるが、話の構成から判断して、有名なシビ王本生話の一つの version と見てよい。この (J) の話は内容的に Kalpalatā 第91章の Śibisubhāṣita と Karmaśataka 125話 Śibi (1) の話に近い。しかし第91章等のシビ王伝承では、王の行為は善説を得るためであるが、この Vijayanta 王本生話では、王がインドラ神に化作された羅刹たちに自分の体から切り取った肉と血を与えるのは、食を求める者たちを満腹させるためであり、善説の獲得や鳩の救済が、その行為の目的とはされていない。羅刹のような者の願いであっても、他者からの願いをすべて叶えてやるということが、この本生話のモチーフなのであろう。その点の違いから、この本生話は Kalpalatā 第91章等のシビ王の話とは別話であるとみなされ、王の名もシビとはされないのであろう。

このように、Kalpalatā 第80章の内容は、本来別々に成立した素材を組み合わせた説話複合体として律雜事において発展したスバドラ説話の、11世紀における最終形態を反

映するものと見なすことができる。Kṣemendra が利用した律雑事は現存する漢訳や蔵訳の律雑事よりもっと付加増広が進んだものであったろう。

現存する漢訳と蔵訳の根本有部律雑事における大般涅槃經関連の記事の研究は、WALDSCHMIDT によってなされ、彼の梵文大般涅槃經テキスト MPS の巻末には、Sonder-texte として⁶⁾、阿含の大般涅槃經に追加された、成立の新しいテキスト群が付けられている。それらの部分の漢訳の独訳ならびに蔵訳を WALDSCHMIDT は挙げている。そのうちの、Sondertext III が上記の (A) にあたる。Sondertext IV が (B) にあたる。Sondertext V-I が (D) にあたる。Sondertext V-II が (H) にあたる。Sondertext V-III が (G) にあたる。Sondertext V-IV が (E) にあたる。

綿密に Kalpalatā 第80章との比較を行うために、機会があればこれらの律雑事の記事も蔵訳から訳したいと思うが、さしあたって本論文では、梵本が存在する Avś の第40章の訳を以下に示したい。律雑事に次いで、Kalpalatā 第80章に近い資料は Avś 第40章だからである。Avś 第40章は、梵文大般涅槃經のテキストがそのまま引用されているパート——これは上記の (C) の記事にあたる——と、その聖典記事に新たに追加された話である (H) と (E) のパートから成る。この (C) のパートについてはすでに中村元の和訳がある⁷⁾。そこで (H) と (E) のパートのみを和訳することにしたい。

アヴァダーナ・シャタカ第40章『スバドラ』(Subhadrah) 後半部分の訳

SPEYER ed., i.234.8-239.11

〔末期の世尊において、身体の〕致命的な部位 (marman) を悩害する感受があり、断末魔の苦があり、〔生との〕繋がりが解けつつあった時に、最後の床に就かれた世尊により、スバドラは阿羅漢の位に安立せしめられました。また多くのクシナガリーのマッラ人たちが法に導入されました。

その時比丘たちは疑念を生じたので、あらゆる疑念を晴らす方である仏・世尊にお尋ねしました。「尊師よ、驚くべきことです、〔世尊において〕断末魔の苦があり、〔生との〕繋がりが解けつつある時に、世尊によってこの遍歴行者スバドラが輪廻の捕捉網から解放され、乃至、畢竟・究竟なる涅槃に安立せしめられましたことは。」

世尊は答えました。「比丘らよ、どうしてそれは驚くべきことでしょうか——貪・瞋・痴がなく誕生・老い・病・死・愁い・悲泣・苦・憂悶という〔心の〕悩みから脱した私により、遍歴行者スバドラが、今や輪廻の捕捉網から解き放たれ、乃至、畢竟・究竟なる涅槃において安立させられたということは。」

6 MPS, Teil III, S. 454-496.

7 中村元 (1984-1985): 『遊行経』〈佛典講座1、阿含(壹)〉、大蔵出版、下、632-648頁。

私は過去世においても、[未だ] 貪・瞋・痴があり、誕生・老い・病・死・愁い・悲泣・苦・憂悶という[心の] 悩みから脱しておらず、推察[の能力] を欠いた動物の胎に生まれた時にも、私は自分の命を捨てることで、スバドラを救い、またクシナガリーのマッラ人たちを救ったのです。それを聞きなさい、よくしっかりと[その話に] 思念を向けなさい。話しましょう。――

比丘らよ、往古、過去世に、或る山の裂け目に、博識で聡く賢い鹿が、鹿の群の長として、数千の鹿に取り巻かれて棲んでいました。

一人の猟師がその鹿の群を探って、王に報告しました。そこで王は四部から成る軍隊を伴って出て行き、その鹿の群すべてを囲い込みました⁸⁾。すると鹿の群の頭はこう考えました。「もし私がこれら[の鹿たち] を今護らなければ、今日のうちに彼らは全滅するだろう。」そこで群の頭は周囲をあまねく観察し始めました、「どこかの場所から鹿たちが脱出できないだろうか」と[考えて]。

かの山の裂け目に流れている川を彼は見ました。その川は、運び得ないものを運ぶほどに、激しい流れをもつものでした。そしてかの鹿たちは非力でした。すると鹿の群の長はただちに川の中に入り、[川の] 中央に位置して、声を発しました。「みなさん、こっちへ来なさい。その川岸から跳躍して、私の背中に足を懸けて、向こう岸に降り立ちなさい。この方法によって、あなたたちが命[の活路] を得るのを私は見ます。さもなければ死あるのみでしょう。」

そこで鹿たちはそのように[言われた通りに] しました。するとかの[鹿の群の長] の背は[多くの鹿の] 蹄に打たれたため、皮膚が破れて、肉と血と骨の一塊のようになりました。鹿たちのもとで、彼らへの憐れみをもつ彼はそれでも努力をやめようとはしませんでした。

そしてすべて[の鹿] が跳んだ後、彼は後ろを観察し始めました、「誰か跳んでいない者があってはいけない」と思いながら。すると一匹の鹿の仔が跳んでいないのを見ました。

そこで鹿の群の長は、断末魔の苦があり、[生との] 繋がりが解けつつあった時、貴重な[自分の] 命を省みずに、川を渡って岸边に上がり、鹿の仔を背に乗せて、川を越えさせて、[その仔を] 対岸に立たせました。かの鹿の群が[すべて] 川を越えたのを見届けてから、彼は死の時に誓願を立て始めました。「私がこれらの鹿たちとこの子鹿に[自分の] 貴重な命を捧げて厄災から救ったように、同じように私は未来時に無上の

8 蔵訳 khongs su bcug go に従って訳した。ただし SPEYER は *saṃkaṭīkṛtam (危難に陥れた) と読む。

真の全きさと（無上正等覺）を得た時に、これらの者たちを輪廻の捕網から逃したい」と。――

世尊は言われました。「比丘たちよ、どう考えますか。その時その時節にかの鹿王であつたのが私であり、鹿たちがクシナガリーのマッラ族です。鹿の仔がまさにスバドラなのです。」

疑いを生じた比丘たちは、あらゆる疑いを断たれる方である仏・世尊に尋ねました。「尊師よ、スバドラが〔尊師の〕直接の弟子たちの最後の者になったのは、いかなる業が作られたからでしょうか。

世尊は答えました。――

比丘たちよ、かつて他の多くの前生においても、スバドラによって業が作られ、蓄積されましたが、〔それは、本人の〕外で、地界でも、水界でも、火界でも、風界でも熟すことはありません。〔自分という〕取著された蘊・界・処においてのみ、作られた業は熟するのです。善い〔業〕であろうと、悪い〔業〕であろうと。

〔韻文：〕 百コーティ劫経つても、業は滅びることはない。

〔必要な条件が〕全部揃うことを得て、
適した時を得た時に、必ず結果を人にもたらす。

比丘たちよ、往古、過去時において、この賢劫において、人々が二千歳の寿命を有していた時、カーシャパ（迦葉）という正等覺が世に出られました。明知と行いを具えた人、幸せな人、世間を知った人、人間を調練する無上の人、神々と人間との師、仏陀、尊師でした。その方は、ベナレスの都の近くの、リシパタナの『鹿の苑』に滞在していました。

かの世尊・正等覺カーシャパには、アショーカーという名の甥がいました。彼は世尊のもとで、解脱を目的として、出家しました。しかし彼は『解脱は自分〔の能力〕次第だ（svādhīna）』と考え、努力しませんでした。

そのうち長い時が経った時、アショーカーは地方で雨期を過ごしていました。世尊・正等覺カーシャパは仏としてなすべき事をすべてなし終えて、燃料が尽きた火のように、最後の〔死の〕床に就かれていました。〔その頃〕比丘アショーカーはアショーカー樹の下に〔独りで〕安坐していました。

その時、そのアショーカー樹に宿っている神（devatā）が、世尊・正等覺カーシャパの涅槃を耳にして、泣き始めました。泣いているその〔樹神〕の涙の滴りが、アショーカーの体の上に落ち始めました。そこでアショーカーは顔を上げ、その泣いている神に語りかけました。「神よ、泣かれているのはどんな理由があるのですか。」神は答えました。

「今日の夜、中更に、世尊・正等覺カーシャパが涅槃されるのです。」するとアショ-

カは神の言葉を聞いて、まるで体の致命的な部位を貫かれたかのように、激しく動揺しました。彼は痛ましいほどに、号泣し始めました。

そのため神は尋ねました。「どうしてあなたは泣くのですか。」

アショークは答えました。「親族との別れ、また〔親教師との別れ〕⁽⁹⁾ですから。正等覚カーシャパは私の母方のおじです。私は楽に暮らして⁽¹⁰⁾、努力しませんでした。あの方は遠くにおり、私は凡夫です。遠い道が〔仏と私を〕隔てているので⁽¹¹⁾、私は〔境地の〕格別さ (viśeṣa) に達することができないでしょう。」

神は尋ねました。「もし私があなたを再び世尊の許に連れて行くなら、何が可能になるのですか」と。

アショークは答えました。「世尊と相見えることが出来るならば、私は〔境地の〕格別さに到達することが出来るほどに、そのように私の覚知 (buddhi) は〔すでに〕熟しています。」

すると神はアショークを神通の威力によって、世尊の許に連れて行きました。世尊を見たことで、彼に浄信が生じました。世尊カーシャパは、浄信を生じた〔彼〕のために、そのような〔適した〕法をお説きになったので、その聴聞により、〔彼は〕阿羅漢の境地を証得しました。まず最初に具壽アショークが般涅槃し、その後世尊・正等覚カーシャパが〔般涅槃されました〕。

するとその神は、具壽アショークが般涅槃したのを見て、歓喜心を起こしました。彼は〔次のように〕考えました。『この具壽は〔境地の〕或る格別さに達したが、それは全く私のおかげである。世尊カーシャパによってあのウッタラという婆羅門の子が、
「婆羅門の子よ、あなたは人寿百歳の時に、シャーキャ・ムニ (釈迦牟尼) という名の如来・阿羅漢・正等覚になるでしょう」と予言されたが、未来世に私も〔アショークと〕同じ様に、最後の床に就いた彼にとっての、「来たれ比丘よ」の作法により出家した直接の弟子たちの最後の者になろう。そして世尊よりも先に私は般涅槃しよう。その後に世尊シャーキャ・ムニが〔般涅槃されるだろう〕』と。――

9 蔵訳 mkhan po dang bral ba'i phyir te によって、梵文テキストに *upādhyāyaviyogāt の語を補って読む。ただし SPEYER 本は *guruviyogāt と補う。

10 visrabdha-vihārin を蔵訳は bsod nyams su 'dug 'dug te 「安楽に暮らしてきて」と訳している。bsod nyams が「安楽」 (sukha) の意味であることは NEGL, p. 7471 を参照。

11 蔵訳が lam rings pas 「急ぎの道なので」 (或いは lam *ring pas 「遠い道なので」と修正して読むべきか) と伝える箇所を、梵本写本では apakṛṣṭatvād (or prakṛṣṭatvād) adhvano と伝える。アショークが仏の許に行って格別さに達するためには、行路 adhvan の遠さが障害になっていると解釈した。

世尊はおっしゃいました。「比丘たちよ、どう考えますか。その神であったのがこのスバドラなのです。」 [...]

以上が Avś 第40章の後半部分の部分訳であり、Kalpalatā の本章の内容とは、律雑事ほどではないものの、かなり密接に関連する。

では以下に Kalpalatā 第80章の梵文・蔵訳の校定テキストと和訳を挙げる⁽¹²⁾。蔵訳テキストでは梵文と相違するような注意すべき箇所を太字にしている。

80 Subhadrāvadāna

D: Khe 181a1-189a6 Q: Ge 292a1-296b2 N: Ge 261a7-265b2

G: Ge 368b3-374b4 T: 490b3-497b4

Skt. Mss.: A *316b2-*322a1; B 95b9-99b2; E 82a2-86b2

nodvegam āyānti kdarthyamānāḥ

śikhāgraheṇāpi hitaṃ vadanti /

paropakāreṣu haṭhapravṛttāḥ

santaḥ saḥante bhṛśam ātmapīḍāḥ // 80.1 //

1d pīḍāḥ] A(ante corr.): pīḍām A(post corr.)BE.

/ {D181a1, T490b3} nodbe ga mā yanta ka darthya mā nāḥ śikṣa gra he ṇā pi hi taṃ ba danti /
pa ro pa kā re ṣu ha ṭha pra bṛttāḥ santaḥ sa hente bhṛ śa mātma pī ḍām /

[人に] 虐げられても心乱すことなく、頭の鬘を掴まれても [人々を] 益することを語る。気高い者たちは他者への援助に力強く (haṭha-) 従事し、自分に苦痛があってもとことん耐え抜く。

Metre: Upajāti.

12 使用した略号は前号通り STRAUBE (2006) に従う: D = Derge; Q = Peking; N = Narthang; G = Ganden (or Golden Tanjur); T = グライ・ラマ 5 世木版印刷版 (梵蔵併記版); β = GNQ; δ = DT; Ed. = editio princeps of Dās & Vidyābhūṣaṇa; de JONG = J. W. de JONG (1979) など。ただし全部の版 GNQDT を意味する大文字のオメガの記号は私の作業環境では使えないので、単純に β δ と記した。β と δ を足せば全部の版になるからである。また蔵訳テキストならびにチベットの梵蔵併記版の蔵字梵文の表記において、ネパール伝承の梵文と相違する注意すべき箇所は、目立ちやすいように太字にした。また蔵訳の校定にあたっては、『中華大蔵經』丹殊爾に挙げられた蔵訳諸版の異読情報は不正確なのでそのままでは利用せず、元のそれぞれの版を調べ直した。

/ gdungs par gyur kyang yid 'byung mi 'gyur zhing / / bslab pa bzung ba yis
kyang phan pa brjod /
/ gzhan la phan pa dag la cher zhugs pa / / dam pas mchog tu bdag nyid gdung ba
bzod /

1a gdungs par] δ : gdung bar β .

Note 1b bslab pa bzung ba yis kyang] 梵蔵併記版 T の śikṣa gra he ṇā pi の読みと合致して、蔵訳者は梵文の śikhā を *śikṣā と読んで、bslab pa と訳した。*śikṣāgrahēṇāpi 「学びの堅持のゆえにも」と理解したのであろうが、文脈上 śikhāgrahēṇāpi 「頭の鬘を掴まれても」の読みのほうがよい。

purā puramḍarah śrīmān priyasya priyakāmyayā /
sakhyur gandharvarājasya supriyasya gṛhaṃ yayau // 80.2 //

2c sakhyur] A: Tib.: sādthur Ed. Cf. de JONG.

/ pu ra pu randarah śrī māna pri ya sya pri ya kā mya yā / sa khyurgandha (rbha D: rbba T) rā
ja sya su pri ya sya gṛ haṃ ya yau /

昔、栄誉あるインドラは、親切を欲するが故に、いとしい友であるガンダルヴァ王スプリヤの住まいに行った。

Note 2d supriyasya] このガンダルヴァ王 Supriya の話については WALDSCHMIDT: MPS, III, S. 459-469, Sondertext III ならびに WALDSCHMIDT (1944-1948): *Die Überlieferung vom Lebensende des Buddha*, II, S. 223 を参照。

/ sngon tshe dpal ldan 'byer 'jig ni // dga' bar 'dod pas dga' ba yi /
/ grogs po dri za'i rgyal po ni // rab dga' dag gi khang par phyin /

2b pas] δ : pa β .

sa tatra pūjitas tena bahumānena bhūyasā /
āttāsanas tam avadaḍ devaḥ praṇayivatsalah // 80.3 //

/ sa ta tra pū ji ta te na ba hu mā ne na bhū ya sā / āttā sa nasta ma ba dadde baḥ pra ṇa yi batsa
lah /

かの神はそこで彼に多大の敬意をもって歓待されて、着座したのち、親愛なる者にやさしい神は、彼に語った。

/ de yis der ni mchod pa dag // shin tu che zhing mang bas mchod /
/ mdza' gcugs mnyes gshin ldan pa'i lha // stan la 'khod *de de la smras /

3a yis] δ : yi β . 3c gcugs] δ : bcugs β . 3d stan] δ : bstan β || *de de] ex conī
(gerundive connective particle): des de β δ .

ehi supriya gacchāvah pṛthivīm pṛthivīpateḥ /

jātaḥ śuddhodanākhyasya putraḥ puṇyamahodadhiḥ // 80.4 //

4b pṛthivīpateḥ] ABET: pṛthivīpatiḥ Ed. Cf. de JONG.

/ e hi su pri ya gaccha baḥ pṛ thi bī pṛ thi bī pa teḥ / jā taḥ śuddho da nā khyā sya pu traḥ pu
nya ma ho da {T491a} dhiḥ /

「さあ、スプリヤよ、大地へ行こう。シュッドーダナ王に福德の大海たる息子が生まれた。

/ rab dga' tshur shog sa la 'dong // sa yi bdag po bsod nams kyi /

/ chu gter chen po zas gtsang zhes // bya ba'i sras su rab 'khrungs pa /

4d sras su] sic β ð . Read sras *po?

Note 4b-d] 蔵訳の文は「大地の王にして福德の大海が、浄飯王という者の息子に (sras su) 生まれた」と解釈するのであろうか。その場合、蔵訳者は pṛthivīpateḥ を *pṛthivīpatiḥ と読んだことになる。それとも sras su を sras *po と修正しつつ、「大地の王にして福德の大海である浄飯王という者の息子が (sras *po) 生まれた」と解釈すべきであらうか。その場合は蔵訳者は puṇyamahodadhiḥ を *puṇyamahodadheḥ であるかのように王 Śuddhodana に係る形容詞句として訳したことになる。

prāptaṁ śamāmṛtaṁ tena jagatām kuśalāya saḥ /

tatsaṁvibhāgaṁ kurute kariṣyatya āvayor api // 80.5 //

/ prāptā śa mā mṛ taṁ te na ja ga tāṁ ku śa lā ya saḥ / tata saṁ bi bhā gaṁ ku ru te ka ri ṣya
tyā ba yo ra pi /

寂滅の甘露（悟り）が彼によって得られた。彼は生類の幸福のために、その〔甘露の〕分与を行っている。私たちにも行ってくれるだろう。」

/ de yis rab zhi bdud rtsi thob // dge ba'i slad du 'gro la des /

/ de ni yang dag 'god par mdzad // yu cag la yang mdzad par 'gyur /

5b la] ð : ba β .

Note 5d yu cag] この yu cag は 'u cag と同じ。Cf. NEGI 5831b, yu cag = vayam or āvām.

mayā samprati vīṇāyāṁ yojitā gītisāraṇā /

kathaṁ gacchāmi paścān me duṣkaraiṣā bhaviṣyati // 80.6 //

6b gītisāraṇā] A (cf. T and 80.14b): gītasāraṇā BE (= Ed.).

6d duṣkaraiṣā] corr. (= Ed.): duḥkareṣā A: duḥkaraiṣā BE.

/ ma yā saṁ ti pra bī nā yāṁ yo ji tā gī tī sā rī nā / ka tha gaccha mi paścātye duḥka (rai D:
raṁ T) ṣa bha bi ṣya ti /

「私は今、琵琶で歌の演奏にとりかかっているところだ。どうして〔今〕私が行けよう。後になれば、私がこれをするのは難しい（容易ではなくなる）。」

/ da lta bdag gis rgyud mangs la // glu dbyangs rgyun ni rab tu sbyar /

/ ji ltar bdag 'gro phyi nas ni // bdag la bya ba dka' bar 'gyur /

6a gis] δ : gi β || rgyud mangs] β : rgyud mang δ (also possible). 6c phyi] β :
phyin δ .

ity uktas tena maghavā vīmanāḥ svapadaṃ yayau /

viṣayāsaktacittānāṃ kuśalābhiratiḥ kutaḥ // 80.7 //

/ i tyu kta ste na ma gha bānbi ma nāḥ sva pa daṃ ya yau / bi ṣa yā sakta cittā nām ku śa lā bhi
ra tiḥ ku taḥ /

このように彼が答えたのでインドラは失望し、自分の居場所に戻った。感官の対象に
心が執着している者たちに、どうして〔説法の聴聞という〕善なることが喜べようか。

/ zhes pa des brjod brgya byin ni // yid byung rang gi gnas su song /

/ sems ni yul la chags rnam la // dge la mngon dga' ga la yod /

7a des] δ : de β . 7b gi] δ : gis β .

atrāntare martyaloke kuśipuryāṃ sarastate /

udumbaravane tasthau subhadrākhyo yativrataḥ // 80.8 //

/ a trāṃ ta re martya lo ka ku śaṃ purāṃ sa rasta te / u duma ba ra ba na tasthau su bha drā
khyo ya ti (bri D: bra T) taḥ /

その頃、人界ではクシの都城の湖畔にあるウドウンバラ樹の林に、出家行者の誓戒を
持つスバドラという者が居た。

Note 8c udumbaravane] この行者スバドラとウドウンバラ樹の挿話については WALDSCHMIDT
(1951): MPS, Teil III, S. 469-470 (Vorgang 40a, Tibetisch-chinesischer Sondertext IV) を参照。

/ skabs der sdom brtson brtul zhugs can // rab bzang mi yi 'jig rten gyi /

/ ku sha'i grong khyer mtsho yi 'gram // u dumba ra'i nags na gnas /

8d dumba] β : dumbā δ .

vyāptān navair mukulitaiḥ sa dṛṣṭvodumbaradrumān /

vismayotphullanayanāḥ suciraṃ samacintayat // 80.9 //

/ byaptaṃ na bairmu ku la kaiḥ sa dṛṣṭo dumba ra dru māna / bisma yotphulla na ya naḥ su ci
raṃ sa ma cinta yata /

彼は新しい蕾に満ちたウドウンバラの樹々を見て、驚きに目を見開き、とても長く考
えに耽った。

/ de *yis u dumba ra'i shing // me tog gsar pas khyab pa mthong /

/ mig ni ya mtshan gyis rgyas pas // shin tu yang dag yun ring bsams /

9a de *yis] de yi β δ || dumba] β : dum bā δ .

Note 9d] 梵文から期待される蔵訳の語順は shin tu **yun ring yang dag** bsamsである。そのように訂正すべきか。[Sugg. HAHN]

jinajanmani jāyante cakravartyudbhava 'pi vā /
asminn udumbaravane nānyathā mukulaśriyaḥ // 80.10 //

10b 'pi vā] A: pi B (*omitting* vā): pi ca E.

/ ji na janma ni ja yantre cakra bartyurbha be pi bā / a (smannu D: sminnu T) dumba ra ba ne
nā nya thā mu ku la bhi yaḥ /

「勝者（仏）の誕生か、または転輪王の誕生の際に、このウドゥンバラ林で蕾の荘厳が生じるが、それ以外はあり得ない。

/ u dumba ra'i nags tshal 'di // rgyal ba 'khrungs na me tog dpal /
/ 'byung zhing 'khor los sgyur ba dag // 'byung na yang ngo gzhan du min /

10a dumba] T: dum wa β : dum bā D: dumba wa G. 10c zhing] δ : bzhi β .

10d gzhan] δ : bzhan β .

Note 10a 'di] この pāda a 末の 'di は *dir と読むべきか。次の語 rgyal が r- が始まるので、Haplography によって 'dir の -r が消えた可能性がある。[Sugg. Hahn]

mamaiva puṇyair atha vā saṃjātam idam adbhutam /
subhadraś cintayitveti babhūvānandanirbharaḥ // 80.11 //

/ ma mai ba pu ṇyai ra tha bā saṃ jā ta mi da yadbhu taṃ / su bha draścinta yi tve ti ba bhu bā
nanda nirbha raḥ /

あるいはこの驚異は私自身の福德のせいで生じたのであろう。」スバドラはこうに考え、喜びは限りなかった。

/ yang na bdag gi bsod nams kyis // rmad byung 'di ni yang dag skyes /
/ zhes pa bsams nas rab bzang ni // kun dga' rab tu rgyas par gyur /

11c nas] δ : na β .

athāmartyapatir gatvā supriyaṃ punar abravīt /
nijakāryādhikodyogaḥ parakāryeṣu sādhaṇaḥ // 80.12 //

/ a thā martya pa tiṃ ga tva su pri yaṃ pu na ra bra bīta / {D182a, T491b} ni ja kāryā dhi
kodyo gāḥ pa ra kārye ṣu sa dha baḥ /

さて神々の王は再びスプリヤの所に行って、話した。「高貴な者たちは、他人の仕事に、自分の仕事以上の努力をします。

/ de nas slar yang 'chi med bdag // song nas rab dga' dag la smras /

/ dam pa rang gi bya ba bas // gzhan gyi bya bar brtson pa lhag /

12a 'chi med] ḍ : lha yi β .

ehi supriya gacchāvaḥ kṣitiṃ kṣititalendunā /

saddeśanāṃśubhir viśvaṃ sugatena prakāśitam // 80.13 //

13c °āṃśubhir] BET: āṅubhir A.

/ e hi su pri ya gaccha baḥ kṣi tiṃ kṣi (tiṃ D: ti T) ta lendu nā / **sande** śa nāṃ śu bhirbba śva
su ga te na pra kā śi taṃ /

さあ、スプリヤよ、大地の月である善逝が正しい教えという光線で一切を照らしている
大地へ、私たちは行きましょう。」

/ sa gzhi'i zla ba bde gshegs kyis // bstan pa'i 'od kyis thams cad ni /

/ rab tu gsal ba'i sa gzhi la // rab dga' tshur shog 'u cag 'dong /

13a gzhi'i] β : gzhi ḍ . 13b pa'i] β : pa ḍ || 'od kyis] ḍ : 'od ni β .

Note 13c bstan pa] 藏訳は saddeśanā の sad- を訳していないから、*saṃdeśanā と読んだのかもしれ
ない。梵藏併記版も sande śa nā- の読みを伝える。

taṃ supriyo 'vadad deva vīṇāyāṃ gītisāraṇā /

yojiteyaṃ mayā paścāt sukarā na bhaviṣyati // 80.14 //

/ taṃ pu pri yo ba dedda bi bī nā yāṃ gī ti sā re ṇā / yo ji to yamma yā paśchatsu ka rā ṇa bha
bi (ṣye D: ṣya T) ti /

スプリヤは彼に語った。「王よ、私は今、琵琶でこの歌の演奏にとりかかっているところ
です。後になればこれは容易ではないのです。」

/ de la rab dgas smras pa lha // rgyud mangs la ni glu dbyangs rgyun /

/ bdag gis rab tu sbyar ba 'di // phyi nas bya ba sla mi 'gyur /

14b rgyud mangs] β : rgyud mang ḍ (also possible).

ity ākarṇyāmarapatir yayau mlānāmanorathaḥ /

ayatnopanataṃ hīnapuṇyaḥ pibati nāmṛtam // 80.15 //

15c ayatno°] ex conī (HAHN): a yotna T: aprayatno° A: prayatno° BE (= Ed.). Cf. de
JONG.

/ i tyā karṇyā ma ra pa tīrya yau mlā na ma no ra thaḥ / a yotna pa na taṃ hī na pu ṇyaḥ pi
banti nā mṛ tam /

それを聞いて、神々の王は期待をくじかれて、去った。劣った福德の者は、難なく不
死の甘露が手に入ったとしても、それを飲むことは無い。

Metre: pāda a] na-vipulā.

/ zhes thos 'chi med bdag po ni // yid la re ba nyams par gyur /
/ 'bad med bdud rtsi nyer gnas pa // bsod nams dman rnams 'thung ba min /

Note 15b] 蔵訳の pāda b は梵文に正確に合致する訳ではない。蔵訳者は誤って *[...]ratham / と読んだのか、それとも意識したのか。

utphullakusumāmodasampūritadigantaram /
kālenodumbaravanam subhadro 'pi vyalokayat // 80.16 //

/ utphulla ku su mā mo da sam pū ri ta di ganta ram / kā le no drumā ra ba nam su bha dro pi
bya lo ka yata /

その頃、開花した花々の芳香で大気を充たしているウドウンバラ林をスバドラも見た。

/ dus kyis u dumba ra'i nags // me tog rab rgyas dri bzang gis /
/ phyogs mtshams kun tu khengs gyur pa // rab bzang gis kyang mthong bar
gyur /

16a kyis] D: kyī β T || dumba] β T: dum bā D. 16c gyur pa] δ: par gyur β.

so 'cintayad bhavaty etad vikāsikusumam vanam /
dharmapravartane śāstur jaye vā cakravartinaḥ // 80.17 //

17b vikāsi] corr.: vikāśi ABE (= Ed.)

/ so cinta yadbha ba tye tadbi kā si ku su mam da nam / dharmma pra batte na śāsturjja ye nā
ca kra ba rtti naḥ // 80.17 //

彼は考えた。「師（仏）が法輪を転じた時、あるいは転輪王が勝利した時に、この林は開花した花々をもつ。

/ de yis bsams pa me tog gi // tshal ni nmam par rgyas pa 'di /
/ ston pa dam chos ston pa dang // 'khor los sgyur ba'i rgyal la 'gyur /

17a yis] δ: yi β. 17d ba'i] δ: ba β.

matpuṇyānām prabhāvād vā nikhilam puṣpitaṁ vanam /
iti cintayatas tasya darpaprītir ajāyata // 80.18 //

18a matpuṇyānām] ABE, confirmed by Tib. bdag gi bsod nams: satpuṇyānām Ed.
Cf. de JONG.

/ matpu ṇya nam pra bha ba tvā ni khi lam puṣpi tam ba nam / i ti cintā ya tasta {D182b} sya
darppa prī ti ra jā ya ta /

あるいは、私の福德の力によって林すべてに開花が起こったのか。」このように考えて、驕慢と喜びが生じた。

/ yang na bdag gi bsod nams mthus // ma lus tshal ni me tog rgyas /
/ zhes pa sems pa de la ni // dregs dang dga' ba rab tu skyes /

atha *cundhābhido 'bhyetya *śrāmaṇeratvam āgataḥ /
ṛddhyā cakre parājitya taṃ praśāntamadodayam // 80.19 //

19a *cundhābhido] ex coni (Ed.): cundrābhido A: candrābhido BE: buddhā bhi dho
T (cf. Tib. sangs rgyas zhes bya). **19b** *śrāmaṇeratvam] ex coni (HAHN): śravaṇo rhat-
vam A: śravaṇo rhattvam E: śravaṇārhatvam B (=Ed.): śra ma nārha tvā m T (cf. Tib.
dge sbyong dgra bcom). Cf. de JONG. **19d** madodayam] A: mahodayam BE.

/ a tha **buddhā** bhi dho bhye tya śra ma nārha tvā ma ga taḥ / ṛddhyā cakre pa rā ji tyam taṃ
pra pā da ma yo da yam /

すると沙弥に達したチュンダという名の〔仏弟子〕がやって来て、超自然力をもって
彼を調伏して、〔彼の〕驕慢の増大を鎮めた。

Note **19a-d**] この出来事は、Kalpalatā 本章の記述のソースに最も近いと思われる根本有部律毘奈
耶雜事の該当箇所には無い（漢訳雜事では卷三十八、T24 396a11-b4の箇所にあたる）。しかし出
曜經卷九（T4 658b）には、120歳にして五神通をもつ、クシナガリーに住む婆羅門行者スバドラ
が、Anavatapta 池に行った折に、舍利弗の弟子でありまだ8歳の子供であるチュンダ（cunda 純
頭）という名の、六神通をもつ一人の沙弥に出会って、慢心を挫かれるというエピソードがあ
り、同じ話は Divyāvadāna (pp. 152-153) にも確認できる。そのスバドラの改心のエピソードが本
詩節において言及されていると思われる。それ故、梵文の pāda a の固有名詞は、写本伝承の混乱
によっていくつかの異読があるものの、Dās 本の推測のように *cundhābhido と読むべきであろ
う。チベットの梵蔵併記版と蔵訳の伝承は buddhābhido であるが、それは恐らく A 写本の cun-
drābhido と同じ伝承から派生した特殊な読みであろう（写本の cu の字形は bu と似ており、また
ndra の字形は ddha と似ているからである）。B と E 写本の candrābhido の読みも、A 写本の読
みから派生した二次的なものであろう。

Note **19b**] 梵文の pāda b ではそのチュンダの属性の表現が問題となる。ここでも写本伝承の乱
れが見られる。最古の A 写本は śravaṇo rhattvam āgataḥ と伝える。蔵訳者は梵蔵併記版（T）のよ
うに *śramaṇo rhattvam āgataḥ（阿羅漢に達した沙門）と読んだようであるが、de JONG 博士は A
写本どおりに śravaṇo rhattvam と読むべきではないかと疑う。しかし M. HAHN 博士は上述のエピ
ソードを考慮するならば *śrāmaṇeratvam āgataḥ（沙弥の状態に達した）と読むべきことを提案す
る。

/ de nas dge sbyong dgra bcom thob // **sangs rgyas** zhes bya mngon phyogs te /
/ de ni rdzu 'phrul gyis btul nas // rab zhi **rang bzhin** rgyas par byas /

19a sbyong] β: slong δ. **19c** btul] δ: brtul β (also possible).

19d rang bzhin] δ: ring na β.

Note 19d rab zhi rang bzhin] 蔵訳の rang bzhin (自性) は梵文と一致しないが、梵蔵併記版 T の読みから推測して *maya-、つまり praśānta-mada- を praśānta(or praśānti?)-*maya- と読んだものか。rang bzhin = maya- は NEGI, p. 6144 を参照。

jagatkāryaṃ tataḥ kṛtvā kālena bhagavāñ jinaḥ /
kalayan parinirvāṇaṃ paścime śayane sthitaḥ // 80.20 //

20a kāryaṃ] ABE: kāyaṃ Ed. Cf. de JONG.

/ ja gatkārya ta taḥ kṛ tvā kā le na bha ga bāñji naḥ / {T492a} kalpa ya na pa ri nirbbā ṇaṃ
paści me śa ya ne sthi ta /

その後時が経って、世尊・勝者は世の人々のためになすべき事をし終え、涅槃を考えながら、最後の床に就いていた。

/ de nas dus kyis bcom ldan 'das // rgyal bas 'gro ba'i don mdzad nas /
/ yongs su myang 'das la rtog cing // tha ma'i gzims mal dag la gnas /

20a kyis] D: kyī β T.

pradadhyau vinaye tāvad vineyā viniveśitāḥ /
avaśiṣṭaḥ subhadro me gandharvaḥ sa ca supriyaḥ // 80.21 //

21b vineyā] E: Tib. gdul bya (= Skt. *vineya-): vinayā AB (= Ed.) || viniveśitāḥ] A: viniveśitaḥ BE (= Ed.). Cf. de JONG.

/ pra da dhyau bi ne ye tā bādhi na yā bi be śi tāḥ / a ba śiṣṭaḥ su bha dro me gandha (rbha D: rbba T) sa ca su pri yaḥ /

[仏は] 思いをめぐらした。「さしあたって教化が可能な者たちは〔既に〕 戒の中に導き入れた。私にはスバドラと、かのガンダルヴァのスプリヤが残っている。

/ re zhiḡ gdul bya 'dul ba la // mam par bkod byed rab tu bsams /
/ rab bzang dang ni dri za dag // rab dga' de yang bdag gi lhaḡ /

21b byed] δ: ces β. 21d gi] δ: gis β.

akleśena subhadras tu vinayaṃ pratipadyate /
kṛcchrānuśāsyō gandharvas tāruṇyavibhavaṇmadāḥ // 80.22 //

/ a kle śe na su bha drastu bi na yaṃ pra ti pa dya te / kṛcchā nu śā syo gandha (rbha D: rbba T) stā ru ṇya bi bha bonma daḥ /

スバドラはたやすく戒律を受けるであろう。ガンダルヴァは若さと富財に酔っているので、教化が難しい。」

Note 22a-d] この詩節の内容は雑事卷三十七の次の文にあたる：「爾時世尊。作如是念。善賢外道能至我所而受調伏。樂神善愛無自來法」(T24 395b24-25)。

/ rab bzang tshegs ni chung ngu yis // 'dul ba rab tu thob par 'gyur /
/ dri za lang tsho 'byor pa yis // myos pa tshegs kyis 'dul bar 'gyur /
22d kyis] δ : kyī β .

iti saṃcintya gandharvapuraṃ gatvā tathāgataḥ /
gandharvarājam aparaṃ nirmame 'bhyadhikadyutim // 80.23 //

23d 'bhyadhikadyutim] A: ppadhikadyutiḥ BE: tya dhi ka dyu taṃ T (< *tyadhika-dyutim?).

/ i ti saṃ ciṃ tya gandha (rbha D: rbba T) pu raṃ ga tvā ta thā ga taḥ / gandha (rbha D: rbba T)
rā ja ma pa raṃ nirmmi me tya dhi ka dyu taṃ /

このように考えて、如来はガンダルヴァの都城に行き、[スプリヤに] 勝る光輝ある姿をもつ別のガンダルヴァ王[の姿]を化作した。

/ zhes pa bsams nas de bzhin gshegs // dri za'i grong khyer dag tu byon /
/ dri za'i rgyal po gzhan pa ni // mdzes pa lhag par mngon par sprul /

Note 23d mngon par sprul] この sprul の前の mngon par の語は不審であるが、mdzes pa (=dyuti-) lhag par (=adhika-) mngon par (=abhi-) と分解して abhy-adhika-dyutiṃ を訳したものか。

sahasratantrīvaiḍūryadaṇḍāṃ vīṇāṃ avādayat /
supriyasya madocchedaṃ spardhayā kartum udyayau // 80.24 //

24a sahasratantrī-°] ABET: sahasratantrīm Ed.

/ sa ha sra taṃntri bai ḍūrya daṇḍāṃ bī ṇāṃ sa bā da yata / su pri ya sya ma da cche da spard-
ha ya karttu mu dya yau /

千弦と瑠璃の撥をそなえた琵琶を[彼は]演奏しながら、競争によって、スプリヤの傲りを断ち切らんとした。

Note 24a sahasratantrī-°] Dās 本のように sahasratantrīm と、わざと anusvāra を付加する必要はない。tantrī は弦 (tanti) の意味である。

/ bai ḍūrya yi dbyug pa can // rgyud mangs rgyud stong sbreng byed cing /
/ 'gran pas rab dga'i rgyags pa ni // nyams par byed la brtson par gyur /

24a ḍūrya yi] δ : ḍūrya'i β . 24b mangs] β : mang δ (also possible).

24c 'gran pas] δ : 'gran pa'i β .

krameṇa tantrīcchede 'pi tau sarvasvaramūrchanāḥ /
darśayantau prabhāveṇa nirviśeṣau babhūvatuḥ // 80.25 //

25b mūrchanāḥ] A: mūrchanā BE.

kra me ṇa tantrī cche {D183a} de pi tau sarba so ra mūccha nāḥ / darśa yaṃ tau pra bhā be ṇa
nirbbi śe ṣau ba bhū ba tuḥ /

次第に「一本ずつ」弦が切れていっても、二人は超自然力により、あらゆる音色を示しながら、勝劣が無かった。

/ rim gyis rgyud ni bcad gyur kyang // de dag sgra dbyangs kun rdzogs pa /
/ ston par byed pa mthu yis ni // khyad par med pa dag tu 'gyur /
25a gyis] ḍ : gyi β. 25c pa] β : la ḍ. 25d 'gyur] ḍ : gyur β.

chedena sarvatantrīṇām api gandharvanāyakaḥ /
adarśayat *svaragrāmaṃ na śaśāka ca supriyaḥ // 80.26 //

26c *svaragrāmaṃ] ex conī: T (sva ra gra maṃ): Tib. dbyangs kyi tshogs (= Skt. *svaragrāma?): varajño pi (or parajño pi?) A: parajño pi BE: pañajño 'pi Ed.

/ che de na sarbba tantrī ṇa ma pi gandha (rbha D: rbba T) na ya kaḥ / a darśa yatsva ra gra
maṃ na śa śā ka ca su pri yaḥ /

あらゆる弦が切れたにもかかわらず、ガンダルヴァ「に扮した」師はあまたの音を示したが、スプリヤは「それが」出来なかった。

Note 26c *svaragrāmaṃ] 文の動詞 adarśayat の目的語となる語を、チベットの梵蔵併記版と蔵訳の読みから推測した。ネパール系写本 ABE の読みは理解できないが、損なわれた読み (corrupt readings) と思われる。

/ rgyud ni thams cad bcad gyur kyang // dri za'i 'dren pa dag gis ni /
/ dbyangs kyi tshogs ni rab tu bstan // rab dga' yis ni nus ma gyur /

saṃtyaktamānadarpasya tasyātha bhagavān jinaḥ /
pratyakṣavigrahaś cakre *śuddhaḥ saddharmadeśanām // 80.27 //

27d *śuddhaḥ] ex conī (cf. Tib. dag pa *yis): śuddha- ABE (= Ed.).

/ saṃ tyakta mā na darppa sya tasyā tha bha ga bāñji naḥ / pra tyakṣa bi gra ha śca kre buddha
saddharma de śa nām /

するとうぬばれ・驕慢を捨てた彼に、世尊・勝者は清浄なる者として「実の」体を示現し、正法を説かれた。

Note 27d] 梵文写本どおりに śuddhasaddharmadeśanām と読めば、「清浄な正法を説かれた」となる。しかしその場合 śuddha-「清浄な」という形容詞はなくてもよい、詩として無駄で余分な語になる。Kṣemendra はそのような陳腐で平凡な表現をしないはずである。蔵訳の pāda c で梵文の śuddha- にあたる訳が dag pa であると見なし、yi を *yis と修正するなら、蔵訳者は śuddha- ではなく *śuddhaḥ と梵文を読んだ可能性が出てくる。つまり蔵訳の pāda b-d は「彼に世尊・勝者は、清らかなる (dag pa) 示現した (mngon byung) 身体 (lus) をもって (*yis) 正法を説かれた」と

読むのではないか。この推測を根拠にして梵文の修正を試みた。またもし yi を修正しないで、そのまま dag pa yi と読むなら、推測される梵文は śuddha-saddharmadeśanām ではなく *śuddhām saddharmadeśanām になるはずである。

/ de nas khengs dang dregs btang ba // de la bcom ldan rgyal ba yis /
/ lus ni mngon byung **dag pa** *yis // dam pa'i chos ni bstan pa mdzad /
27c byung] ḍ : phyung β || *yis] ex con: yi β ḍ . 27d pa] ḍ : par β .

jñānavajreṇa satkāyadrṣṭīśaile vidārite /
srotaḥprāptiphalam sākṣāt sa cakāra praśāntaye // 80.28 //
28c srotaḥ] corr.: śrotaḥ ABE.

/ jñā na bajre {T492b} ṇa sa **tva** kā ya drṣṭi śai la bi dā ri te / śro taḥ prāpti pha lam sākṣātsa ca
kā ra pra śānti ye /

『智慧』という金剛石 (vajra) によって『有身見』という岩山は破碎され、彼は寂滅に至るための、預流の獲得という果を体験した。

/ 'jig tshogs lta ba'i ri bo ni // ye shes rdo rjes nam bcom ste /
/ de yis rgyun zhugs 'bras bu ni // rab tu zhi slad mngon du byas /
28b ste] ḍ : te β . 28c de yis] ḍ : de yi β .

kālenodumbaravane ramyaḥ kusumasamcayaḥ /
saṃbhoga iva vṛddhasya śanakair mlānim āyayau // 80.29 //

/ kā le no dumba ra ba ne ra myaḥ ku su mā saṃ ca yaḥ / saṃ bho ga i ba bṛddha sya śa na
kairmla ni mā ya yau /

[その後] 時が経ち、ウドウンバラ林の美しい多量の花々は次第に萎れていった。まるで老人の享楽のように。

/ dus kyis u dumba ra yi // nags kyi rab dga' me tog tshogs /
/ rgan po dag gi longs spyod bzhin // dal bus rab tu nyams par gyur /
29a kyis] ḍ : kyi β || u dumba] β : u dum bā ḍ .

mlānapuṣpaṃ tad ālokya subhadraḥ śokamudritaḥ /
acintayad apuṇyānām nūtanodbhavam ātmanaḥ // 80.30 //

30a tad ālokya] AB : tam ālokya E: sadālokya Ed. Cf. de JONG.

/ mlā ni puṣpaṃ ta dā lo kya su bha draḥ śo ka mu dri taḥ / a cinta ya da pu ṇyā naṃ nu ta
nodbha ba mātma naḥ /

萎れた花々をもつその [林] を見て、スバドラは悲しみに閉ざされ、自分に不徳が新たに生じたのではないかと心配した。

/ me tog nyams pa de mthong nas // rab bzang mya ngan rgya yis thebs /
 / nges pa nyid du bdag nyid kyi // bsod nams min las skyes par bsams /
 30b rgya yis] ཏ : brgya yi བ . 30c kyi] བ : kyis ཏ .

Note 30b rgya yis thebs] 梵語の mudrita (印刻せられた；封じ込められた) を藏訳は rgya yis thebs 「印を被った」と訳した。

Note 30c nges pa nyid du] この藏訳は梵文の nūtana- にあわない。

taṃ cintānalasamtaptam udumbaravanaśriyā /
 uvāca devatābhyetya viṣādaṃ mā vṛthā kṛthāḥ // 80.31 //

31a taṃ cintā] ABE: taccintā Ed. Cf. de JONG. 31d mā vṛthā kṛthāḥ] BE: mā vṛthā kṛthā A: mā kṛthā vṛthā Ed. Cf. de JONG.

/ taṃ cintā na la saṃ taptā mu dumba ba ra na {D183b} śri ya / u bā ca de ba tā bhye tya bi ṣā dammā bṛ thā kṛ thā /

懸念の火に焼かれた彼に、ウドゥンバラ林の輝きである [林の] 神 (devatā) が来て語った。「無意味に悲歎するのはやめなさい。

/ bsam pa'i me yis gdungs de la // u dumba ra'i nags kyi dpal /
 / lha mos mngon phyogs rab smras pa // don med mya ngan yongs ma byed /
 31a bsam] བ : bsams ཏ || yis] ཏ : yi བ . 31b dumba] བ : dum bā ཏ .
 31c mos] བ : nams ཏ .

nedam tava *prabhāvāḍhyaiḥ puṇyaiḥ kusumitam vanam /
 na ca mlānaṃ tavāpuṇyaiḥ śrūyatām atra kāraṇam // 80.32 //

32a *prabhāvāḍhyaiḥ] ex conī: prabhāvāḍraiḥ (or prabhāvāḍhraiḥ) A: prabhāvāḍraiḥ BE (=Ed.): Tib. mthu ldan.

/ ne daṃ ta ba pra bhā bā draiḥ puṇyaiḥ ku su mi taṃ ba naṃ / na ca mlā naṃ ta bā pu ṇyaiḥ śru ya tā ma tra ka ra ṇaṃ /

この林は、あなたの威神力に満ちた福德によって開花したのではありませんし、あなたの不徳によって萎れたのでもありません。その原因をお聞きなさい。

/ mthu ldan khyod kyi bsod nams kyis // tshal 'di me tog rgyas pa min /
 / khyod kyi bsod nams ma yin pas // nyams min 'di yi rgyu dag nyon /
 32b tshal 'di] བ : tshal ni ཏ .

puṣpāṇy etāni jāyante sugatasyaiva janmani /
 anuttarajñānalābhe vikasanti samantataḥ // 80.33 //

33b sugatasyaiva] BE: sugatasyeva A.

/ puṣpā nye tā ni ja yante su ga ta syai ba janma ni / a nutta ra jñā na lā bhe bi ka santi sa manta
taḥ /

これらの花々は善逝の誕生時のみに〔蕾として〕生じます。無上の智慧を達成した時に、至る処で開花します。

/ bde gshegs nyid ni 'khrungs pa na // me tog 'di dag 'byung 'gyur te /
/ bla med ye shes brnyes pa na // kun nas rab tu rnam par rgyas /

āsanne parinirvāṇe mlāyanti nipatanti ca /
īhate parinirvāṇaṃ kuśipuryāṃ tathāgataḥ // 80.34 //

34c *īhate] ex conī (de JONG), inferred from Tib. bzhed: iha te ABE (= Ed.).

/ ā sanne pa ri nirbbā ṇe mlā yanti ni panti ca / i ha te pa ri nirbbā ṇaṃ ku śa puryā ta thā ga
taḥ /

涅槃が近い時に、萎れ、落花します。如来はクシの都城で涅槃することを望んでいます。」

/ mya ngan 'das la nye ba na // nyams pa dang ni ltung bar 'gyur /
/ ku *shi'i grong na de bzhin gshegs // yongs su mya ngan 'da' bar bzhed /

34c ku *shi'i] ex conī (cf. Skt. kuśi-) : ku sha'i β ḍ || grong] ḍ : drung β .

etad ākarṇya vacanaṃ subhadraḥ kānanaśriyaḥ /
dīrgham uṣṇaṃ viniśvasya suciraṃ samacintayat // 80.35 //

35c viniśvasya] corr.: viniśvasya ABE (= Ed.).

/ e ta dā karṇya ba ca ṇaṃ su bha draḥ kā na na śri yaḥ / dīrgha muṣṇaṃ bi ni {T493a} śva
sya su ci ra sa ma cinta yata /

林の光輝のその言葉を聞いて、スバドラは熱い長いため息を吐き、久しい間沈思した。

/ nags kyi dpal mo'i tshig 'di dag // rab bzang gis ni thos gyur nas /
/ ring zhing dro ba'i shugs btang ste // shin tu yun ring yang dag bsams /

yāsyāmi dharmavinaye śāstur bhājanatām aham /
ity eṣa hr̥daye nityam āśābandho mamābhavat // 80.36 //

/ yā sya mi dharmma bi na ye śāsturbhā ja na tā ma haṃ / i tye hr̥ da ye ni tya mā sā ba ndho
ma mā bha bata /

「師（仏）の教法と戒律を受ける器に私はなりたい。これが私が心にいつも抱いてきた希望であった。

/ ston pa'i chos ni 'dul ba la // bdag ni snod du 'gyur bar shog /

/ ces pa 'di ni bdag snying la // rtag tu re ba bcings par gyur /

dhanyās te viratakleśāḥ sampūrṇakuśalotsavāḥ /
dharmapravacane śāstur yair dr̥ṣṭam vadanāmbujam // 80.37 //

37b kuśalotsavāḥ] ABE: kuśalodbhavāḥ Ed. Cf. de JONG.

/ dha nya ste bi ra ta kle śāḥ sam pūrṇa ku śa lotsa bāḥ / dharmma pra ba ca ne {D184a} śāstu
rye dr̥ṣṭa ba dā nam bu jam /

説法場で、蓮のような尊顔を仰ぎ見て、煩惱を離れ、善行の喜びに満ちた人々は恵まれている。

/ gang gis ston pa'i zhal gyi pad // mthong zhing chos kyi gsung rab la /
/ dge ba'i dga' ston yongs rdzogs pa // nyon mongs bral ba de dag bsngags /

kasyedānīm vadanaśaśinaḥ sampravṛttāḥ pravṛddha-
jñānālokaprasararucirāḥ puṇyapīyūṣadhārāḥ /
lokaḥ śokaprasāmasuhr̥das tīvratṛṣṇārtabandhor
vācas tapte bhavamarutaṭe pāsyati śrotrapātraiḥ // 80.38 //

38b °pīyūṣa°] E (= Ed.): °peyūṣa° AT: °paiyūṣa° B.

/ ka sye dā nī ba da na śa śi naḥ sam pra bṛttā pra bṛddha jñā nā lo ka pra sa ra ru ci rāḥ pu nya
pe yū śa dhā rāḥ / lo kaḥ śo ka pra śa ma su hṛ dastī bra ṛṣṇārtta bandho bā castapte bha ba ma ru
ta ṭe pā sya ti śro ta pā teḥ /

今や [仏が亡くなってしまうのなら]、生存という暑い砂漠の丘陵において、いかなる方の、激しい喉の渇きに悩む友の苦しみを消してくれる親友として [語って下さる言葉を] — 月の容から生じた、[まるで] 広大な『智慧』の月光の流れ [のように] 美しい、福德の甘露の流れである言葉を、耳（聴聞）という器から、人々は飲んだらよいのだろうか。

Metre: Mandākrāntā.

/ da ni mya ngan rab zhi'i grogs po mi bzaḍ sred pas gzir ba'i gnyen // su yi
bzhin ras ri bong can las rab 'khrungs rab tu rgyas pa'i gsung /
/ ye shes snang bas dkrigs shing rab mdzes bsod nams bdud rtsi dag gi rgyun //
srid pa'i mya ngam gdung bar 'jig rten nyan pa'i snod kyis 'thung bar 'gyur /

38a zhi'i] β: zhi ḍ || gnyen] ḍ: gnyer β.

38d ngam] ḍ: ngan β || kyis] ḍ: kyi β.

Note **38b** rab tu rgyas pa'i] 蔵訳者は pravṛddha- (Tib. rab tu rgyas pa'i) を恐らく *pravṛddhāḥ と読んで、vācas (Tib. gsung) に係る形容詞として読んだ。

gacchāmy ahaṃ kuśipuram yatrāste bhagavāñ jinaḥ /
prāpsyāmi sulabham tasya paścimam yadi darśanam // 80.39 //

/ gaccha mya haṃ ku śi pu raṃ ya trāsti bha ga bāñji naḥ / prāppyā mi su la bhaṃ ta sya paśca
ma ya di darśa naṃ /

世尊・勝者がおられるクシの都城に私は行こう。ひょっとしたら容易に彼に最後にお
目にかかることが出来るかもしれない。」

39d yadi] この yadi の用法 (perhaps ひょっとしたら) については、SPEIJER (1886): *Sanskrit Syn-
tax*, Leiden, p. 371 (§ 482) を参照。

/ gang na bcom ldan rgyal ba bzhugs // ku *shi'i grong du bdag 'gro'o /
/ tha mar de mthong bdag gis ni // gal te rnyed slar thob par 'gyur /

39b ku *shi'i] ex conī (cf. Skt. kuśi-) : ku sha'i β δ .

iti saṃcintya sotsāhaḥ so 'ntarhitatanuḥ kṣaṇāt /
mallāśrayāṃ kuśipurīm āsasāda manojavaḥ // 80.40 //

/ i ti saṃ cintya sotsā haḥ sontarhi ta ta nuḥ kṣa ṇāta / malla śra ya ku śi pu rī mā sa sā da ma
no ja baḥ /

このように考え、熱望を抱いた彼は、たちまち [その場から] 姿を消し、マッラ族の
住み処であるクシの都城に、心のような速さで達した。

/ zhes bsams spro ldan de yis ni // lus mi snang bar skad cig las /
/ yid ltar mgyogs pas gyad kyi gnas // ku *shi'i grong khyer dag tu phyin /

40a de yis] δ : de yi β . 40d ku *shi'i] ex conī: ku sha'i β δ .

vane yamakaśālākhye kusumārāmaśāyinaḥ /
jinasya dvāḥstham ānandaṃ sa praveśam ayācata // 80.41 //

41a vane yamaka] ABE: vaineyamarka Ed. Cf. de JONG.

41b kusumārā°] ET (= Ed.): sukumārā° AB.

/ ba ne ya ma ka śā la khye ku su mā rā ma śā yi na / ji na sya dvāraḥ stha mā nandaṃ sa pra
{T493b} be śa ma ya cata /

沙羅双樹という林の中、花の園林に横たわる勝者のために門に立つアーナンダに、彼
は中に入ることを乞い求めた。

/ me tog dga' tshal sā la zung // zhes pa'i tshal na rab gzims pa /
/ rgyal ba'i sgor gnas dga' bo la // de yis nang du 'jug pa zhus /

41a sā] D: sa β T. 41c sgor] β : sgo δ . 41d de yis] δ : de yi NQ: de G.

ānandas taṃ jagādātha mandamandasvanaḥ śanaiḥ /

nivārayan praveśāsām unnatāṅgulidolayā // 80.42 //

42c praveśāsām] BET (= Ed.): praveśam A.

/ ā nanda staṃ ja gā dā tha manda manda sva naḥ śa (niḥ D: naiḥ T) / ni bā ra {D184b} yana
pra be śā śā muna tāṃ gu li do la yā /

アーナンダは立てた指を振って、中に入りたいという希望を遮りつつ、小さなささや
き声で彼にゆっくり語った。

/ de nas dal gyis kun dga' bos // sor mo gdangs shing g.yo ba yis /

/ nang 'jug bsam pa zlog byed cing // chung chung sgra yis de la smras /

42a gyis] *ḍ* : gyi *β*. **42b** shing] *ḍ* : zhing *β*. **42d** yis] *ḍ* : yi *β*.

subhadrāvasaro nāyaṃ praśnavyākaraṇe tava /

viśrāmyati pariśrāntaḥ kāyaśāntyai tathāgataḥ // 80.43 //

/ su bha drā ba sa ro nā yi praśna byā ka ra ṇe ta ba / bi śrā mya ti pa ri śrāntaḥ kā ya śāntyai ta
thā ga taḥ /

「スバドラ、今はあなたの質問に答えるのに適した時ではありません。如来はお疲れ
になり、身体の安静のために、休まれています。

/ khyod kyi dri dang lung ston la // rab bzang da lta gnas skabs med /

/ de bzhin gshegs pa zhi ba'i slad // sku ni yongs su mnyel zhing bzhugs /

43a la] *ḍ* : pa *β*. **43d** mnyel] *β* : bsnyel *ḍ*.

na cintayaty avasaram sarvathaiva yathā tathā /

paravyathānabhijñō 'yaṃ svārtham arthayate janah // 80.44 //

44a avasaram] T (a ba śa raṃ, cf. Tib. gnas skabs dag): avasarīm A: avasārī BE.

44b sarvathaiva] E: sarvatheva A: sarvarthaiva B.

/ na cinta ya **da** ba śa raṃ sarbba the ba ya thā ta thā / pa ra byā thā na bhi jñō yaṃ svārthā
marthā ya te ja naḥ /

適した時というものを全く考慮しないため、他人の労苦を理解しないこの人は、自分
の事を要求するのです。

/ skye bo 'di dag pha rol gyi // gdung ba mi shes rang don gnyer /

/ kun tu ji lta de lta yang // gnas skabs dag ni mi sems so /

44a gyi] *β* : ni *ḍ*.

deśaṃ kālam avijñāya yāti yaḥ sahasārthitām /

sa *samīhitam utsrjya lajjām ādāya gacchati // 80.45 //

45c *samīhitam] ex conī (HAHN), inferred from Tib. bzhad; samāhitam ABE (= Ed.)

/ de śa ka le ma bi jñā ya yā ti yaḥ sa ha sā rthi tām / sa ma hi taṃ sa mutsṛ jya lajja mā dā ya
gaccha ti /

時と場所をわきまえずに、性急に要求をなす人は、得ようとするのをやめて、羞恥を持って、去るものです。

Note 45c] この pāda c をチベットの梵蔵併記版の梵文伝承 T (sa ma hi taṃ sa mutsṛ jya) では samāhitam *samutsṛjya と伝承していたらしい。しかし蔵訳 (pāda c) はその読みを支持しない。チベットで蔵訳作成の際に使われた梵文と、梵蔵併記版の梵文は恐らく同じものでなく、ずれがある。

/ gang zhig yul dus mi shes par // 'phral la slong ba nyid gyur pa /
/ de dag bzhed don rab btang nas // ngo tsha blangs te 'gro ba nyid /

vegaṃ vihāya vinatāḥ saritaḥ prayānti
vānti prasahya ca turam na tathā samīrāḥ /
ete 'pi naiva tanusaṃśamane jinasya
saṃsuptapallavalatātaravaś calanti // 80.46 //

46d saṃsupta] ABE: saṃtapta Ed. Cf. de JONG || latātaravaś] AT (= Ed.): latās taravaś
BE.

/ be gā bi hā ya bi na tāḥ sa ri ta pra yānti banti pra sa jya ca tu raṃ na ta thā sa mī rāḥ / e te pi
ne ba ta nu rga sa ma ne ji na sya saṃ supta palla ba la tā ta ra caśca lanti /

[ご覧なさい。] 諸川は身をかがめ、水の勢いを落として、流れています。風も同様に、勢いよく吹いたりしません。勝者（仏）のお体の安静時には、これらの眠る枝や蔓草や樹々はざわついたりしません。」

46d pallavalatātaravaś] 写本 BE のように pallavalatā の語を bahuvrīhi にして、pallavalatās taravaś と読むことも可能であるし、蔵訳もその bahuvrīhi による解釈を支持するように思われるが、古写本 A と梵蔵併記版 T の読みを優先した。

Metre: Vasantatilaka.

/ rgyal ba'i sku ni zhi ba'i tshe na ljon pa 'di dag kyang // yal 'dab 'khri shing rab
tu nyal zhing nges par mi g.yo la /
/ chu klung dag ni rnam par dud cing mgyogs pa btang nas bgrod // rlung yang
de bzhin 'phral la rab tu g.yo zhing bgrod ma yin /

46b par] β: pa ḍ. 46c btang] ḍ G: gtang NQ. 46d yang de bzhin] β: yang ḍ.

Note 46b nges par] 梵文の pāda c の eva が nges par と訳されている。

ānandeneti yatnena vāryamāṇaḥ punaḥ punaḥ /
āśābhaṅgasamudbhrāntaḥ subhadras tam abhāṣata // 80.47 //

47c samudbhrāntaḥ] A (= Ed.): samuddhāntaḥ B: samudrāntaḥ E.

/ ā nande ti yatne na bārya mā ṇaḥ pu ṇaḥ pu ṇaḥ / ā sā bhaṃ ga sa mu drāṃ taḥ su bha dras-
tambhā ṣa ta /

このようにアーナンダが努力して何度も押し止めると、希望が絶たれたため惑乱した
スバドラは、彼に語った。

/ de ltar kun dga' bo yis ni // 'bad pas yang dang yang du bzlog /

/ re ba nyams pas rab 'khrugs pa // rab bzang gis ni de la smras /

47a yis ni] ḍ : yi ni β.

jānāmy avasaraṃ nārtaḥ prasīda dayayārthināḥ /

sulabhaṃ darśaya jinaṃ mā *maivaṃ bhava niṣṭhuraḥ // 80.48 //

48d *maivaṃ] ex conī (HAHN), inferred from Tib. 'di ltar: maiva T: meva ABE.

/ jā nā byā ba sa ra nārtaḥ pra sī da da yārthi ṇaḥ / su la bhaṃ {D185a} darśa tha ji namṃā
(me D: mai T) ba bha ba niṣṭha raḥ /

「苦しむ者として、私が適した時を知ることはありません。憐れみにより、乞い求める者に仁愛をお示しください。〔誰もが〕容易に近づける者として、勝者に会わせてください。このように酷薄にならないでください。」

/ gzir ba yis ni skabs mi shes // slong la dang zhing brtse bar mdzod /

/ rgyal ba rnyed sla rab tu ston // rtsub po 'di ltar *yong ma mdzad /

48b la] ḍ : ba β. 48d ltar] β : lta ḍ || *yong] ex conī (cf. yong ye): yongs β ḍ.

chāyāyām upaviśya śītalatayā labdhapramodotsavair

āruhyāṭṭaphalaiḥ sadā navanavaiḥ sampīḍitasyādhvagaiḥ /

jānāty āsritavatsalasya sulabhādhārasya sarvārthinām

śākhābhañjanamoṭanaprasaraṇakleśāvalīṃ kas taroḥ // 80.49 //

49a pramod°] A (= Ed.): prasādo° BE. 49c sarvārthinām] ABE, confirmed by Tib.
slong ba kun gyi: sarvārthinā Ed. Cf. de JONG.

/ cha yā yā {T494a} mu pa bi śya sī ta la ta yā labdha pra mau dautsa bai rā ru hyārta pha laiḥ
sa dā na ba na baiḥ saṃ pī ṇi ta syā dhva gaiḥ / jā nā tya śrī ta batsa la sya su labdha dha sarb-
bārthi nām sā khā bhā ja na mo ṭa la pra sa ra ṇa kle śā ba lī kasta (roḥ D: raḥ T) /

「蔭に坐って、涼しさによって喜び・歡喜を得ている、また上に登って果実を取る、いつも新しくやって来る旅行者たちによって絶えず圧される（悩まされている）〔樹〕——頼る者に親切であり、乞い求める人たちが容易に近づける依り処 (ād-hāra) である樹の、枝を折ったり破壊することでもたらされる多くの苦しみを、誰が知るでしょうか。」

Note 49a-d] この詩節は、アーナンダがスバドラに語った言葉であろうが、どちらがどちらに語った言葉かを作者が明かさず、読者に考えさせる「判じ物」としての遊びが仕掛けられていると思われる。

Metre: Śārdūlavikrīḍita.

/ grib bsil dag la nye bar 'khod cing bsil bas rab dga'i dga' ston thob gyur pa //
rtag tu gsar pa gsar pa'i lam 'gron 'dzegs shing 'bras bu 'dzin pas gzir ba'i shing /
/ brten pa dag la mnyes gshin slong ba kun gyi gzhi ni mnyed slar gyur pa yi // lo
ma dag ni bcom dang dkrugs dang rab tu drangs pa'i nyon mongs 'phreng ba su
yis shes /

49b gsar pa] δ : gsar pa'i β . 49c brten] β T: bstan D || mnyes] D: gnyes β : mnyen
T. 49d drangs] δ : grangs NQ: grags G || su yis] δ : su yi β .

iti yatnāt subhadreṇa yācito 'pi punaḥ punaḥ /
taṃ nirānandam ānandaḥ pratiṣedhaśatair vyadhāt // 80.50 //

50d pratiṣedhaśatair] ET: pratiṣedhamśater A: prativedhaśatair B: pratiṣedham gater
Ed. Cf. de JONG.

/ i ti yantāta su bha dre ṇa yā ci to pi pu naḥ pu naḥ / ni rā nanda ma nandaḥ pra ti ṣe dha śa
tairbya dhāta /

スバドラに懸命に何度も懇願されたが、それでもアーナンダは百の拒絶によって彼を悲しませた。

/ de ltar 'bad pas rab bzang *gis // yang dang yang du zhus gyur kyang /
/ dgag pa brgya yis kun dga' bos // de ni kun dga' med par bsgrubs /

50a *gis] ex conī (cf. Skt. subhadreṇa): des δ : gi β . 50c brgya yis] β : rgya yi δ .

50d med par] δ : med pas β .

bhagavān api sarvajñaḥ śayyām etya surālayāt /
uccair ānandam avadat subhadraḥ praviśatv iti // 80.51 //

51b etya] ABET, confirmed by Tib. mngon phyogs te: prāpya A(in the margin written) (=Ed.). Cf. de JONG.

/ bha ga bā na si sarbba jñaḥ śayyā me tya su rā la yāta / uccai rā nanda ma ba datsu bha draḥ
pra (bri D: bi T) śa ti hi /

[その時] 世尊・一切智は天界より臥所に戻り、大声でアーナンダに告げた。「スバドラを入らせなさい。」

Note 51b] 「天界より臥所に戻った」とは、天界におけるガンダルヴァのスプリヤの教化を終えて、地上に戻ったのである。

/ bcom ldan kun mkhyen gzims mal du // lha yi gnas las mngon phyogs te /
/ rab bzang nang du thong zhig ces // kun dga' bo la gsung cher gsungs /

labdhapraveśaḥ sugataṃ dr̥ṣṭvā nidhim ivādhanāḥ /
jagāda sāsruvadanāḥ subhadraḥ praṇipatya tam // 80.52 //

/ labdha pra be śaḥ su ga taṃ (dr̥ṣṭa D: dr̥ṣṭvā T) ni dhi mi bā dha naḥ / ja gā da sā sru ba da
naḥ su bha draḥ pra ṇi pa tya ta /

まるで宝蔵に入った一文無しの者のように、中に入ることが出来たスバドラは、善逝
を見、顔中に涙を流し、頂礼して、彼に語った。

/ 'jug pa thob ste nor med kyis // gter bzhin bde gshegs mthong gyur nas /
/ rab bzang gdong ni mchi ma dang // bcas pas phyag 'tshal der gsol pa /

bhagavan bhuvanasyādyā keyaṃ bhāgyadaridratā /
saṃtyaktasyādyā bhavatā nirālokasya kā gatiḥ // 80.53 //

53a bhuvanasyādyā] AT, confirmed by Tib. de ring 'jig rten (= Skt. *bhuvanasyādyā)
: bhuvanasyāsyā BE (= Ed.). **53b** bhāgya] A, confirmed by Tib. skal ba (= Skt. *bhā-
gya) (= Ed.): bhogya BE.

/ bha ga banbhu ba na sya {D185b} dya ke yaṃ bhā ga da ri dra tā / saṃ tyakta syā dya bha ba
tā ni rā lo ka sya kā ga tiḥ /

「世尊よ、今日、世界がもつこの幸の薄さは何なのでしょう。今日、あなた様に見捨て
られた光無き世界は、いかなる [進むべき] 道をもつでしょうか。

/ bcom ldan **de ring** 'jig rten ni // skal bas dbul ba nyid 'di ci /
/ de ring khyod kyis btang gyur pa // snang med dag gi 'gro ba *ci /

53c kyis] ḍ: kyī β. **53d** 'gro ba *ci] ex conī (HAHN), inferred from Skt. kā gatiḥ:
'gro ba ni β ḍ.

ko nāma tvāṃ vinā mitraṃ jñānālokaiḥ kariṣyati /
mohanidrāptamudrasya jagatpadmasya bodhanam // 80.54 //

/ ko nā ma tvāmbi nā mi traṃ jñā nā lo kaiḥ ka ri ṣya ti / mo ha ni drāpta mu drā sya ja ga ta
padma sya bo dha naṃ /

[生類にとって] 親友のあなた様なくして、一体誰が、智慧という光によって、愚癡
という眠りに封じ込められた世界という蓮華を、目覚めさせる（開花させる）でありま
しょうか。

/ bshes gnyen khyod dang bral ba na // su *yis ye shes snang ba yis /
/ 'gro ba'i padma rmongs pa yi // gnyid kyī rgya ldan rgyas byed 'gyur /

54a bshes] ḍ N: gshes GQ || khyod] ḍ : khyad N: khyed GQ.

54b su *yis] ex conī (cf. Skt. kaḥ): su yi β ḍ .

Note 54b su *yis] 蔵文としては su yi でも意味が通るが、梵文の構文を考慮すると、su *yis と訂正することが望ましい。

kṛtvā samastajagatām upakāram akāraṇam /

prayāsi sarvasulabhāḥ katham durlabhatām mama // 80.55 //

55d durlabhatām] E: dullabhatām A: durlabhatā B.

/ {T494b} kṛ tva sa mapta ja ga tā mu la kā ra ṇam / pra yā si sarbba jña su la bhāḥ ka tham
durla bha tām ma /

理由なしにあらゆる生類への利益をなしてこられて、すべての者にとって会うのが（利益を得るのが）容易であられた [あなた様] は、どうして [今や] 私にとって会うのが困難な状態に入られるのでしょうか。

/ mtha' dag 'gro la rgyu med du // phan pa dag ni rab mdzad nas /

/ kun la myed pa sla ba khyod // bdag la myed dka' ji ltar gyur /

55c kun la] β : kun mkhyen ḍ .

ity uktaḥ praṇayāt tena samunnāmya mukhāmbujam /

prasannakāntir bhagavān sasmitas tam abhāṣata // 80.56 //

/ i tyuktaḥ pra ṇa yāte na sa munnā mya su khāmbu jam / pra sanna kānti bha ga bāna sammi
tasta ma bhā ṣa ta /

このように親愛の思いをもって彼が申し上げると、淨らかに澄んだ美しさをおもちになる世尊は、蓮の顔をあげて、微笑して、彼に語った。

/ zhes pa de yis gus pas gsol // de la bcom ldan 'dzum ldan zhing /

/ bzhin gyi chu skyes gzengs bstod de // rab dang mdzes pas bka' stsal pa /

56a zhes D: ces β T || de yis] ḍ : de yi β . 56d dang] β : dangs ḍ .

imām vatsa na vetsi tvam kiṃ nu nityām anityatām /

kṣaṇikāḥ sarvasaṃskārāḥ ko 'yaṃ dehagrahāgrahaḥ // 80.57 //

57b kiṃ nu] ABT: kiṃ tu E (= Ed.) || nityām] ABE (= Ed.): nityam T (ni tya m), confirmed by Tib. rtag tu.

/ i mām batsa la betsi tvam kinnu ni tya ma ni tya tām / kṣa ṇi kāḥ sarbba saṃ skā rāḥ ko yande
ha gra hā gra haḥ /

「わが子よ、あなたはこの、恒久なる無常性を一体ご存知ないのですか。あらゆる事象の形成（一切諸行）は刹那的であり、肉体を持つというこのことにこだわることは何でしょうか。

Note 57b nityām] もう一つの異読の nityam を採るなら、「わが子よ、あなたは一体この無常性を常にご存知ないのですか」の意味になろう。音を揃える美しさからも nityām の方がよい。

Note 57d dehagrahāgrahaḥ] 蔵訳者は graha- を魔（gdon）と訳したが、そのようにこの句を理解することも可能である。その場合「肉体という魔物に対するこのこだわり」となる。しかし私は graha- を「把持、執持」の意味で訳してみた。

/ mnyes gshin rtag tu mi rtag nyid // 'di khyod rig pa min nam ci /
/ 'du byed thams cad skad cig la // lus kyi gdon 'di su zhig 'dzin /

57a mnyes] D: gnyen β : mnyen T. 57b rig] δ : rigs β .

57d gdon] δ : gdong β || 'di] β : ni δ .

dūraṃ prayānti dinakṛdbhramanirgatāni

yāni kṣapāśabalitāni sadā dināni /

etāni tāni nipatatpṛthukālacakra-

saṃśātītāni kuśalāni nṛjīvitānām // 80.58 //

58b kṣapā] ABE, confirmed by Tib. mtshan mos: kṣatā Ed. Cf. de JONG. 58d saṃśātītāni kuśalāni] ABE, confirmed by Tib.: saṃśāntitāni śakalāni Ed. Cf. de JONG.

/ dū raṃ pra yānti di na kṛtbhra ma nirga tā ni yā ni kṣa yā śa ba li tā ni sa dā di nā ni / e tā ni
tā ni ni pa tītṛ thu kā la cakra saṃ śa ti tā ni ku śa lā ni nṛ jī bi tā nām /

太陽が巡ることで過ぎ、夜によって白黒の雑色となった日々は、いつまでも恒常に流れてゆきます。しかし人間の命がもつ、幸せのこの日々は、落下する巨大な時の車輪によって、粉碎されてしまうのです。

Metre: Vasantatilaka.

/ gang dag rtag tu nyin byed 'khor bas rab bzlas pa'i // mtshan mos bkra ba'i nyin
*pa ring du rab 'gro ba /

/ mi yi 'tsho ba rnams kyi dge ba 'di dag ni // rgya che dus kyi 'khor lo lhung bas
gcod pa nyid /

58b nyin *pa] ex conī (cf. Skt. dināni): nyin par β δ . 58d lhung] δ : ltung β .

dalanty ete śailā jaladhivalayaḥ śuśyati param

sahodbhūtair bhūtair bhuvanasaraṇīr bhraśyatitarām /

asāre saṃsāre cakitahariṇīlocanacale

cirasthāyī nāyaṃ bahuparicayaḥ kāyanicayaḥ // 80.59 //

59b saraṇir] BE: śaraṇir A.

/ da laṃ tye te śai lā ja la dhi ba la yaḥ śu {D186a} śya ti sa raṃ sa hodbhū tairbhu te bhu bana
śa ra **paī su sya** ti ta rāṃ / a sa re saṃ sā re ca ki ta ha ri nī lo ca na ca le sthā sī nā yaṃ ba hu pa
ri ca yaḥ kā ya ni ca yaḥ /

これら岩山も砕け、海という〔陸を囲む〕環も完全に干上がるでしょう。生まれた生類と一緒に、世界という通路（saraṇi）も、全く滅びます。臆病な鹿の目がたえまなく動くように〔移り変わる〕、実体が無い（空ろな）輪廻界において、数多く繰り返されるこれらの肉体のすべては、永続するものではありません。」

Note **59b** bhuvanasaraṇiḥ] そのまま訳せば「世界という路」であり、蔵訳もそう訳す（srid pa'i lam）。この表現でも「輪廻の通路となる世界」と理解できなくもないが、あるいは bhuvana-**saraṇaṃ* 「世界という住みか（庇護所）」と読むべきか（A 写本は śaraṇir である）。しかし出本充代博士は saraṇir は **dharāṇir* の誤記である可能性を考え、bhuvana-**dharāṇir* 「世界の大地」の読みを提案する。sa の字と dha の字は間違えることがありうる。

Metre: Śikhariṇī.

/ ri 'di snyil 'gyur chu gter 'jing ni mchog tu bskam // rab skyes 'byung po dang
bcas srid pa'i lam rab 'jig /

/ ri dwags skrag mig ltar g.yo snying po med 'khor bar // mang du yongs 'dris lus
kyi tshogs 'di brtan gnas min /

59a 'jing] T: 'dzing D: 'jigs β || bskam] δ: skam β. **59b** rab skyes] D: rab kyes
β: rab skyas T || 'jig] δ: 'jigs β. **59c** ri dwags] corr.: ri dags β δ || 'khor bar] δ:
'khor ba β. **59d** 'di] β: ni δ.

abhidhāyeti bhagavān subhadrasya praśāntaye /

prasādānandinīm cakre vyaktasatyapathāṃ kathāṃ // 80.60 //

60c °nandinīm]] °nandinī B. **60d** satyapathāṃ] AET: satyapathā B (= Ed.). Cf. de JONG.

/ a bhi dhā ye ti bha ga bāna su bha dra sya pra śānta ye / pra sā dā nandi nīm cakre byakta sa
tya pa thām ka thām /

このようにおっしゃって、世尊はスバドラの寂滅の〔獲得の〕ために、真理の道が明瞭な、淨信と歓喜を与える法話をされた。

/ zhes pa gsungs nas bcom ldan gyis // rab tu zhi slad rab bzang la /

/ bden pa'i lam ni gsal ba'i gdam // rab dang kun dga' ldan par mdzad /

tridaṇḍakuṇḍīsaṃbhāraṃ tyaktvā bhāraṃ ivādhvagaḥ /

pravrajyāṃ śāsane śāstuh subhadro 'py ādade tataḥ // 80.61 //

61d 'py ādade] A (= Ed.): mpādade B: bhyādade ET.

/ tri daṇḍa kuṇḍī saṃ bha raṃ tyaktvā bhā ra bi bā dhva {T495a} gaḥ / pra bra jyāṃ sâ sa ne
śāstuḥ su bha dro **bhyā** da de ta taḥ /

旅行者が重荷を捨てるように、スバドラは三岐杖と水瓶と〔遊行者の〕日用品を捨てて、師の教誡において出家〔戒〕を授かった。

Note **61a** tridaṇḍakuṇḍī-] Dās 本のように、もし tridaṇḍakuṇḍī で一度切るなら「三岐杖と水瓶を有する者は (-kuṇḍin, nom. sg.) 」と訳せるであろう。しかし私は saṃbhāra まで繋がった三語の複合語として読んだ。

/ dbyig pa gsum dang ril ba'i tshogs // lam 'gron gyis ni khur bzhin btang /
/ ston pa'i bka' la rab byung ni // de nas rab bzang dag gis blangs /

61c bka' la] β : bka' las ḍ .

arhatpadam athāsādyā sa sarvakleśasaṃkṣayāt /
acintayad aho neyam ucitā śiṣyatā mama // 80.62 //

/ arha te pa da ma thā sâ dya sarbbā kle śa saṃ kṣa yāt_ / a cinta ya da ho ne ya mu ci tā śi ṣya
tā ma ma /

彼はすべての煩惱を滅ぼして、阿羅漢の境地を得てから、考えた。「ああ、この弟子たることは私に相應しいことではない。

Note **62cd**] この箇所にあたる梵文大般涅槃經の文は次のとおり：「私が、師が般涅槃されつつあるのを見るということは、私には相應しくない。私がまず第一に般涅槃しよう」（na mama pratirūpaṃ syād yad ahaṃ śāstāraṃ parinirvāyantaṃ paśyeyaṃ yannv ahaṃ prathamataraṃ parinirvāyeyam, MPS, III, S. 382, 40.48）。

/ de nas nyon mongs kun bcom pas // dgra bcom gnas ni thob gyur nas /
/ bsams pa kye ma bdag gi ni // slob ma nyid 'di 'os pa min /

62a bcom pas] β : bcom pa ḍ .

paśyāmi parinirvāṇam agre bhagavataḥ katham /
tasmāt pūrvam ahaṃ dehaṃ vihāya svapadaṃ bhaje // 80.63 //

/ pa śyā mi pa ri nirbbā ṇa ma gre bha ga ba taḥ ka thaṃ / tasmātpūrbba ma haṃ (da D: de T)
haṃ bi hā ya svā sa daṃ bha je /

世尊が前に涅槃されるのをどうして私は見られようか。彼よりも先に私は肉体を捨てて、自らの境地を得よう。」

/ bdag *gis mdun du bcom ldan 'das // mya ngan 'da' ba ji ltar blta /
/ de slad sngon du lus btang nas // bdag ni rang gi gnas dag bsten /

63a bdag *gis] ex conī: bdag gi β ḍ . 63d bdag ni] ḍ : bdag gi β || bsten] ḍ : br-
tan N: brten GQ.

Note 63a bdag *gis] 文を bdag gi のままで読んでも蔵文としては意味が通るが、bdag *gis と読むと構文が梵文に近づく。

iti saṃcintya sa śanaiḥ pañcādhiṣṭhānasamśrayaḥ /
phaṇinirmokakalayā parinirvṛtim āptavān // 80.64 //

/ i ti saṃ cintya sa śa naiḥ pañca dhiṣṭha na saṃ śra yaḥ / pha ṇi normma ka ka la yā pa ri
[D186b] nirbṛ ti māpta bāna /

彼はこのように考えて、五種の決意（誓い）に基づき、蛇が脱皮する有様で、般涅槃を得た。

Note 64c pañcādhiṣṭhāna] この五種の決意（pañcādhiṣṭhāna 五種加持）の詳細については、根本説一切有部毘奈耶雜事卷三十八、T24 397a12-19 (= MPS, III, S. 471-472, Sondertext V-I, 40d.12-18) を参照。

/ zhes bsams byin brlabs lnga dag ni // bsten pa de yis dal bu yis /
/ gdengs can shun pa dor ba ltar // yongs su mya ngan 'das pa thob /

64a zhes bsams] ḍ : ces bsam β . 64b de yis] D: de yi β T || bu yis] ḍ : bu yi β .

tasyātha dehasatkāre bhikṣūṇāṃ saha tīrthikaiḥ /
kasya sa brahmacārīti vivādaḥ samajāyata // 80.65 //

/ ta syā tha de ha satkā re bhi kṣu ṇāṃ sa ha tīrthi kaiḥ / ka sya saṃ brahma cā rī bāna nā ma
bi bā da saṃ ja taḥ /

その後〔スバドラの〕葬儀の時に、比丘たちと異教徒たちとの間で、「その梵行者〔の遺体〕は誰のものか」と諍いが生じた。

Note 65a-d] スバドラの葬儀をめぐって異教徒の者たちが諍いを起こした出来事については、雜事卷三十八、T24 397a19-b5 (= MPS, III, S. 472-474, Sondertext V-I, 40d.19-31) を参照。

/ de nas de yi lus sbyong la // dge slong rnamdang mu stegs dag /
/ su yi tshangs spyod dang ldan zhes // rnam par rtsod pa yang dag skyes /

tasyātha śibikāṃ voḍhum asakteṣu kriyāvidhau /
tīrthikeṣu prayāteṣu sarvabhikṣugaṇo *vyadhāt // 80.66 //

66d *vyadhāt] ex conī (de JONG), inferred from Tib. bsgrubs: bhyadhāt ABET (= Ed.): akarot A(*marginalia*, as glosse written for bhyadhāt). Cf. de JONG.

/ tasyā tha bi śi kām boṭṭa ma sakte ṣu kri yā bi dhau / tīrthi ke ṣu pra yā te ṣu sarbba bhikṣu ga
ṇo bhya dhāta /

そして葬儀の執行において、彼の棺架を運ぶことが出来なかった異教徒たちが立ち去り、すべての比丘の集まりが「葬儀を」執り行った。

/ de nas mu stegs byed nmams kyis // de yi sgrub byed cho ga la /

/ khyogs khyer ma nus song ba'i tshe // dge slong tshogs kun dag gis bsgrubs /

66b yi] δ : yis β . 66d gis] δ : gi β .

śārīranicayastūpaṃ kṛtvā tasyātha bhikṣavaḥ /

papracchuḥ sugataṃ pūrvaparinirvāṇakāraṇam // 80.67 //

67a śārīranicaya] ABE,Tib.: śārīranicaye Ed. Cf. de JONG. 67c papracchuḥ] A: papraccha BE. 67d pūrvaparinirvāṇa°] A: pūrvam parinirvāṇa° BE (= Ed.).

/ śa rī ra ni ca yastu saṃ kṛ tvā ta syā tha bhikṣa baḥ / sa pracchaḥ su ga taṃ pū rbbam pa ri nirbbā ṇa kā ra ṇam /

彼の遺骨の集積の塔（ストゥーパ）を作って、比丘たちは「仏の」前に般涅槃した原因を善逝に質問した。

Note 67cd pūrvaparinirvāṇa°] B と E 写本は明白に pūrvam と書いてあるが、最古の A 写本は anusvāra が明白ではなく、pūrva- と読んだ。もし pūrvam と読むと、「比丘たちは「彼の」前世の（pūrvam）般涅槃の原因を善逝に質問した」という意味になる。

/ de nas de yi gdung gi tshogs // mchod rten byas nas dge slong *gis /

/ sngon la mya ngan 'da' ba yi // rgyu mtshan bde bar gshegs la dris /

67a yi] δ : yis β || gi tshogs] δ : tshig gis β . 67b *gis] ex coni: gi β δ .

67c la] β : las δ || 'da' ba] δ : 'das pa β (also possible).

sa tān uvāca vipro *yo vārāṇasyām abhūt purā /

aśokaḥ kāśyapākhyasya śāstuh prāṇasamaḥ suhṛt // 80.68 //

68a vipro *yo] ex coni: vipro sau ABE (= Ed.).

/ sa tā nu ba ca bi pro pau bā (rā ṇa D: ra nā T) syā ma bhūtpu ra / a śo kāḥ kā śya pā khyā sya śāstuh prā ṇa sa maḥ su {T495b} hṛta /

かの「仏」は彼らに語った。「昔、ベナレスに、師（仏）・カーシャパの命に等しい親友である、婆羅門がいました。

Note 68a-d] 梵文写本は揃って pāda a を sa tān uvāca vipro 'sau と伝えるが、その場合、本詩節は「かの「仏」は彼らに語った。この婆羅門は昔、ベナレスで、師（仏）・カーシャパの命に等しい親友でした。」という意味になり、この婆羅門とは当然 Subhadra ということになるが、以下の話の展開から、Subhadra ではありえない。Subhadra の前生は後で出てくる神（devatā）である。梵蔵併記版の梵文も pau（恐らく sau の書き誤り）と伝えており、'sau の読みを支持しないのは蔵訳の δ の伝承しかない。蔵訳の δ は asau の語を無視して訳している。私は 'sau を *yo と修

正して読んでみた。この神の記事については、WALDSCHMIDT: MPS, III, S. 483-488, Sondertext V-IV
ならびに WALDSCHMIDT (1944-1948): *Die Überlieferung vom Lebensende des Buddha*, II, S. 235 を参照。

/ de dag la ni des gsungs pa // bā rā ṇa sīr sngon bram ze /

/ mya ngan med pa ston pa ni // 'od srungs srog mtshungs grogs su gyur /

68a ni des gsungs pa] δ : de gsungs pa sngon β . 68b bā rā ṇa sīr] D: ba ra ṇa sir
 β T || sngon bram ze] δ : bram ze 'di β . 68c med pa] β : med de δ .

Note 68ab] ここで δ (デルゲ系) の読みと β (ナルタン・北京系) の読みの間に対立がある。
 β の文では、「彼らに彼は語った。昔、ベナレスにこの ('di) 婆羅門 [がおり] 」となり、'di (= Skt. asau) の訳語があるのに対して、'di が δ の読みには無い。 β のほうが 'di が付いている点で梵文写本伝承に近い。それに対して δ は文脈を配慮する観点から、'di が文にない形にしたのかもしれない。この 'di の語があると、読者は「この婆羅門」とは Subhadra と誤解するが、しかし「この婆羅門」は Subhadra と無関係なのである。(そもそも梵文写本に 'sau の指示代名詞があること自体が奇妙なので、'sau を *yo と私は修正してみた)。無くてもよい 'di の語によるその誤解を防ぐため、'di の語を削って修正を施したのが δ の読みであり、梵文に近い β はその修正が施される前の読みではないだろうか。ここでは文脈を重視した良い読みとして δ の伝承を採用した。

sa tasmād dharmavinayaṃ paryantaśayanasthiteḥ /

*devatāprāpitaḥ prāpya ślāghyaṃ arhattvaṃ āptavān // 80.69 //

69b sthiteḥ] AT (= Ed.): sthitaiḥ BE. 69c *devatāprāpitaḥ prāpya] ex conī (de JONG, cf. Tib.): devatām prāpitām prāpya A(ante corr.): devatām prāpitaṃ prāpya A(post corr.): devatāprārthitaṃ prāpya BE: devatāprāpitaṃ prāgraṃ Ed.

/ tasmata ta sya dharmma bi na yaṃ paryanta śa ya nasthi teḥ / de ba tā pra pī tāṃ pra sya
ślā ghyā marha tva māpta bān_ /

[仏のもとに] 神によって到達させられた (devatā-prāpitaḥ) 彼は、臨終の床にいるかの [仏] から教法と戒律を得て、称賛されるべき阿羅漢位に達しました。」

Note 69c] 写本伝承が乱れている pāda c については、文脈から判断して、de JONG の提案に従い、*devatāprāpitaḥ prāpya と読むのがよいように思われる。神によって仏のもとに運ばれた彼は、という意味である。しかしもし *devatāprāpitaṃ prāpya と読むなら、次のような意味になろう：「彼は、臨終の床にいるかの [仏] から (tasmāt)、神 [の助力] によって得させられた (devatā-prāpitaṃ) 教法と戒律を得て、称賛されるべき阿羅漢位に達しました。」

/ mtha' yi mal stan la gnas pa // de las de yis 'dul ba'i chos /

/ lha yis 'thob par byas thob nas // bsngags par 'os pa'i dgra bcom thob /

69b de yis] δ : de yi β . 69c 'thob par byas] N: 'thob par bya GQ: mthong bar byas
 δ .

sa bhaktiśīlaḥ svaguror agre vighrahaṁ atyajat /
taṁ dṛṣṭvā devatā tatra praṇidhānam athākarot // 80.70 //

/ sa bhakti śī laḥ sva gu ru ra gre bi gra ha ma tyā jata / taṁ dṛṣṭa de ba tā ta tra pra ṇi dhā na
ma thā ka rota /

[仏を] 深く敬愛する心情をもつ彼は、自分の師（仏）の前に [己が] 肉体を捨てましたが、その彼を見ながら、神はその場で誓願を立てました。

/ gus pa'i ngang tshul de yis lus // rang gi bla ma'i mdun du btang /
/ de nas *de ni lha yis der // mthong nas smon lam rab tu btab /

70a de yis] NQ: de yi ḍ G. 70b btang] ḍ : gtang β.

70c *de ni] ex coni (cf. Skt. taṁ): der ni β ḍ || lha yis] ḍ : lha yi β.

yathāyaṁ kāśyapasyāgre sukrīṭī parinirvṛtaḥ /
tathāham api bhūyāsaṁ guror ante 'gragāminī // 80.71 //

71d ante] AB: Tib. mthar (= Skt. *ante): agre E (= Ed.). Cf. de JONG.

/ ya thā yaṁ kā śya pa syā gro su kṛ ti ma ri nirvṛ {D187a} taḥ / ta thā ha ma pi bhū yā saṁ gu
ro raṁ te gra gā ma nī /

『この善行者が、カーシャパ仏の先に般涅槃したように、同様に私も師の臨終の時に、先行者になりたい（先んじて死にたい）』。

/ ji ltar legs byas ldan pa 'di // 'od srungs sngon du yongs 'das pa /
/ de bzhin bdag kyang bla ma'i mthar // sngon du 'gro ba por gyur cig /

71a pa 'di] ḍ : pa yi β.

sā devatā subhadro 'yaṁ mamāgre tyaktavighrahaḥ /
tena śraddhāviśuddhena praṇidhānena satkṛtaḥ // 80.72 //

/ sa de ba su bha dro yaṁ ma mā gre tyakta bi gra haḥ / te na śraddhā bi śuddhe na pra ṇi dhā
(ne D: na T) satkṛ taḥ /

その神こそ、このスバドラです。敬重された [彼] は、信心によって清らかな、その [前世からの] 誓願によって、私の先に肉体を捨てたのです。

/ lha de rab bzang 'di nyid de // rnam par dag pa'i smon lam dang /
/ dad pa de yis legs byas pa // bdag gi mdun du lus dag btang /

krakucchandasya śāstuś ca paścime śayane purā /
prāptārhatpadam ālokya munīnāṁ śatapañcakam // 80.73 //

73a krakucchandasya] ABE: kakutsandasya Ed. Cf. de JONG.

/ kra kucchanda sya śāstuśca paści me śa ya ne pu rā / prāptārḥata pa da mā lo kya mu nī nām
śa pañcam ka /

[73-74詩節:] 昔、師・クラクッチャンダの臨終の床で、阿羅漢の境地を得ている五百の牟尼たちが、或る神 (devatā) によって導かれて [仏の許に行き]、[仏への] 敬愛心 (bhakti) から自ら欲して [師の] 先に肉体を棄てたのを見て、その神が同じ種類の誓願 [を立てたこと] で、[今世の] スバドラとなったのです。

/ ston pa log par dad sel gyi // mtha' yi gzims mal dag la sngon /
/ lha *yis rang gis khrid gyur pa'i // thub pa brgya phrag lnga dag ni /

73c de *yis] ex coni (cf. Skt. devatayā): lha de β ḍ || gis] ḍ : gi β.

Note 73c] 藏訳 73c は、梵文 74a に相当する。

svayaṃ devatayānītaṃ bhaktyāgre tyaktavigrahaṃ /
tadvidhapraṇidhānena saiva yātā subhadratām // 80.74 //

74a svayaṃ devatayānītaṃ] AT (= Ed.): devatā svayaṃ ānītaṃ A(*marginalia, secunda manu*)BE. 74d yātā] ET: yātā AB.

/ sva yaṃ de ba ta yā nī tāṃ bhaktyā gre tyakta bi gra haṃ / tadbi dha pra ṇi dhā ne na se ba yā
tā su bha dra tā /

/ dgra bcom gnas thob gus pa yis // sngon du lus btang mthong gyur nas /
/ rnam pa de lta'i smon lam gyis // de nyid rab bzang nyid du gyur /

74b btang] ḍ G: gtang NQ.

Note 74ab] 藏訳 74a の dgra bcom gnas thob と 74b の mthong gyur nas の語句は、梵文 73c の prāptārḥatpadam ālokya に相当する。

dehasvabhāvajām etāṃ paryantopanatām vyathām /
mayā sa sahamānena nirvyatham prāpitaḥ padam // 80.75 //

75a deha] ABE: dehe A(*secunda manu*) (= Ed.). Cf. de JONG. 75b paryantopanatām] ABE, confirmed by Tib.: paryyantāyatanām Ed. Cf. de JONG. 75c sa sahamānena] ABE, confirmed by Tib.: prasahamānena Ed. Cf. de JONG. 75d nirvyatham] A(ante corr.), confirmed by Tib.: nirvyathaḥ A(post corr.)BE. Cf. de JONG.

/ de ha sva bhā ba ja ma tāṃ sa ra yanto pa na tāṃ bya thām / ma yā sa sa mā ne na ni rbya
tham prā ti taḥ pa dam /

肉体の自性から起きる、臨終において近づくこの苦しみを耐え忍びつつある私（釈尊）によって、彼（スバドラ）は苦しみのない境地を得させられました。[この事についても以下の過去世の因縁があります。]

/ lus la rang bzhin gyis skyes pa // mthar thug nye ba'i gdung ba 'di /

/ bzod par byed cing bdag gis de // gdung ba med pa'i gnas su bkod /
75c cing] δ : cig β || gis de] δ : gis deng β .

brahmadatto nrpaḥ so 'bhūd aham aśvaś ca saṃśaye /
sa mayā śatruvitṛastaś chinnāntreṇāpi tāritaḥ // 80.76 //

/ brahma da tto nr po so bhuta a ha ma śvaśca saṃ śa ye / {T496a} saṃ ma bā śa tru bi **bhaṣṭa**
śchinnāntre nā pi tā ri taḥ /

彼がブラフマダッタ王で、私が馬であった時、危難の中で敵におびやかされた彼を、
私は内蔵を切り裂かれながらも救いました。

Note 76a-d] この馬本生がある雑事の記事については、MPS, III, S. 478-483, Sondertext V-III なら
びに WALDSCHMIDT (1944-1948): ÜLB, II, S. 235 を参照。

/ de ni mi bdag tshangs byin dang // bdag kyang rtar gyur the tshom la /
/ bdag ni rgyu ma dral bas kyang // de ni dgra yis bcom pa bsgral /
76b rtar] δ : ltar β .

Note 76d bcom pa] 蔵訳者が bcom pa と訳したのは vitṛasta の語を *vibhraṣṭa (破滅した) と読ん
だためだろうか。梵蔵併記版の梵文は bi bhaṣṭa と伝える。

kanyakubjavane pūrvam abhavaṃ mṛgayūthapaḥ /
abhūn mṛgaḥ subhadraś ca yūthamadhye mamānugaḥ // 80.77 //

77c abhūn mṛgaḥ subhadraś ca] T (a bhūnmṛ ga su bha draśca): abhūt subhadraś ca
mṛgo ABE (= Ed.; metre!). 77d mamānugaḥ] ABE, confirmed by Tib. bdag gi rjes
'brang: mṛgānugaḥ Ed. Cf. de JONG.

/ ka nyā kubja ba ne pūrbbaṃ ma bha baṃ mṛ ga yu thā saḥ / a **bhūnmṛ** ga su bha draśca yū
tha ma dhye ma {D187b} mā nu gaḥ /

また昔、カンヤ・クブジャの森で、私は鹿の群の頭でした。スバドラも群の中で、私
の従者たる鹿でした。

Note 77a-d] この鹿王本生の雑事の記事については、MPS, III, S. 476-478, Sondertext V-II ならび
に WALDSCHMIDT (1944-1948), ÜLB, II, S. 234-235 を参照。またこの説話の並行話として Haribhaṭṭa
の Jātakamālā, 22 Mṛgajātaka と六度集経の第57話 (T3 32c-33a) などがある。

Note 77c] abhūt subhadraś ca mṛgo というネパールの梵文写本伝承に対し、チベットの梵蔵併記
版の梵文 T は a bhūnmṛ ga su bha draśca であり、元は abhūn mṛgo subhadraś ca という文であつたら
う。語順が少し変わるだけで、韻律的にこちらの方がよい。

/ kanyā kub dza'i nags su sngon // nga ni ri dwags khyu bdag gyur /
/ rab bzang khyu yi nang nas ni // bdag gi rjes 'brang ri dwags gyur /

77a kanyā kub dza'i] ḍ : kā nya kub dzā'i β. 77b ri dwags] G: ri dags ḍ Q: ra dags
N. 77d bdag gi] ḍ : bdag gis β || ri dwags] G: ri dags ḍ NQ.

mṛgayāptena saṃruddhe vane kaṇṇena bhūbhujā /
trastānāṃ taṭinīṭire mṛgāṇāṃ nābhavad gatiḥ // 80.78 //

78d nābhavad gatiḥ] A: nāgatir bhavet BE (= Ed.): Tib. dga' ba med par gyur (= Skt.
*nābhavad *ratiḥ): na bha ba hu bhiḥ T. Cf. de JONG.

/ mṛ ga yāpte na saṃ ruddhe ba ne kaṇṇe na bhū bhu jaṃ / trastā nāṃ tā ṭa ni tī re mṛ gā ṇāṃ
na bha ba hu bhiḥ /

狩に來た (āpta) カルナ王によって囲われた森において、川岸でふるえる鹿たち
に [逃れる] 道はありませんでした。

Note 78d nābhavad gatiḥ] このネパールの梵文伝承と違って、藏訳 dga' ba med par gyur 「喜びが
無かった (悲しんだ)」から推測される梵文伝承は nābhavad *ratiḥ である。梵文写本の ga の字
が dra に似ているために起こった読み誤りであると思われる (藏訳の dga' が *gro の書き誤りで
ある可能性はあまりないであろう)。梵藏併記版 T は na bha ba hu bhiḥ と音写するが、hu bhiḥ の
箇所、前の hu の字は dra か ga の字の誤り、後ろの bhiḥ の字は tiḥ の字の誤りとみなしてよ
い。

/ nags su sa bdag kaṇṇa ni // rṅgon la 'ongs pas bkag gyur te /
/ chu klung ngogs su ri dwags mams // skrag cing dga' ba med par gyur /

78a kaṇṇa] ḍ : kāṇya β. 78b la] ḍ : pa β. 78c ri dwags] G: ri dags ḍ NQ.

avatīrya sarinmadhye niścalena mayā tataḥ /
matpr̥ṣṭhanyastacaraṇās te bhītās tāritā mṛgāḥ // 80.79 //

/ a ba tīrya sa rinma dhyam niśca (le D: lam T) na ma yā ta taḥ / matpr̥ṣṭha nyasta ca ra ṇāsti
bhī tāstā ra tā mṛ gā /

そこで私は川の中に降り立ち、不動でいて、恐れるその鹿たちに私の背を踏ませること
により、[川を] 渡らせました。

/ de nas chu klung nang du ni // g.yo med bdag gis rab tu babs /
/ bdag gi rgyab tu rkang bkod pas // ri dwags 'jigs pa de dag bsgral /

79c bdag gi] ḍ : bdag gis β. 79d ri dwags] G: ri dags β ḍ || dag] ḍ : dags β.

tatkhurāpātadalite yāte mayi mumūrṣutām /
ekaḥ sa eva hariṇaḥ plavann evaṃ tadāptavān // 80.80 //

80a tatkhurāpāta] ABE: tatkhurāghāta Ed. Cf. de JONG.

/ tatkhū rā pā ta li te yā te ma yi mu mūrṣu tām / e ka sa e ba ha ri ṇaḥ sla baṃ ne baṃ ta dāpta
bana /

彼らの蹄に打たれて私は〔体が〕砕かれ、死にそうになっていると、その時に〔最後の〕一匹の泳ぎ漂う、他ならぬその鹿が、その様にやって来ました。

80d evaṃ] この evaṃ は蔵訳に訳されていない。*eva と読むべきか。

/ de dag rmig pa bkod pas bdag // nyams shing 'chi ba 'dod gyur tshe /
/ ri dwags de nyid gcig pu ni // de tshe rkyaḥ zhing 'ongs par gyur /

80b 'chi ba] ḍ : 'tsho bar β. **80c ri dwags]** G: ri dags ḍ NQ || gcig pu] ḍ : cig po
β.

tam ahaṃ trāsataralaṃ vyathāṃ saṃstabhya duḥsahāṃ /
tūrṇaṃ saṃtārya kārūṇyāt puline nidhanaṃ gataḥ // 80.81 //

/ ta ma haṃ tra sa ta ra le bya thāṃ saṃ staṃ bhya duḥ sa haṃ / tūrṇa saṃ tārya kā ru ṇyāt_
su li ne dha naṃ ga taṃ /

憐れみにより、耐えがたい苦しみをこらえながら、私は恐怖に震える彼をすみやかに救った後、岸辺で死んだのです。

/ skrag pas nyen pa de *bdag gis // gdung ba bzod dka' brnags byas te /
/ myur bar snying rjes yang dag bsgral // 'jug ngogs der ni shi bar gyur /

81a nyen] ḍ : nyes β || *bdag] ex con: dag β ḍ. **81b gdung ba]** ḍ : gdung bas β
|| brnags] ḍ : nags β.

Note **81b brnags]** この蔵語には、本来梵語の saṃstabhya に相当する「こらえる」の意味はなく、むしろ *brnags (息をつまらせた、こらえた) の語の誤用とみなすべきか。

sa eva savyathenādyā subhadras tārito mayā /
ity uktvā bhagavān maunam ālalamba śamonmukhaḥ // 80.82 //

/ sa e ba bya the nā dyā pi su bha drastā ri to ma yā / i tyukṭva bha ga bānmau na mā la lamba
śa monmu khaḥ /

その彼こそスバドラであり、今世においても〔苦痛に〕苦しむ私によって救われたのです。」と〔このように〕世尊はおっしゃって、寂滅に心に向けて、沈黙された。

Note **82a]** チベットの梵蔵併記版の梵文 T (sa e ba bya the nā dyā pi) から、sa eva vyathenādyāpi と伝承していたことがわかる。api が付いているが、蔵訳もその読みを支持する (de ring yang = *adyāpi)。しかし T の伝承は韻律上問題がある。

/ de nyid rab bzang de ring yang // gdung ba dang bcas bdag gis bsgral /
/ zhes gsungs bcom ldan zhi ba la // mngon phyogs mi gsung nyid la brten /

bhikṣubhiḥ kuśalāvāptau supriyasyāpi kāraṇam /
prṣṭaḥ provāca sarvajñaḥ śanaiḥ prañayivatsalaḥ // 80.83 //

/ bhikṣu bhiḥ ku śa la bāptau su pri ya sya pi kā ra ṇam / prṣṭa pro bā ca sarbba jñaḥ śa naiḥ pra
ṇa yi batsa laḥ /

[ガンダルヴァの] スプリヤも幸いを得たことの原因を比丘たちに尋ねられると、懇
願者たちを愛しまれる方である一切智は、おもむろに話された。

Note 83d prañayivatsalaḥ] この複合語には「敬慕する者（愛する者）たちに愛しまれる方」
と「請願者たちを愛しまれる方（かわいがられる方）」の、二つの解釈があり、私は後者を取っ
たが、蔵訳は gus pas mnyes gshin と訳し、pas の -s 具格助辞があるので、前者の解釈で読んだの
であろう。

/ dge slong nams kyis rab dga' yang // dge ba thob pa'i rgyu mtshan dris /
/ gus pas mnyes gshin kun mkhyen gyis // dal bu yis ni rab tu gsungs /

83d rab tu gsungs] δ : rab gsungs pa β .

kāśyapasya sudhīr nāma śāstur āsīd upāsakaḥ /
tatprasādāptaparyāptaśikṣāpadaniṣaṇṇadhīḥ // 80.84 //

84d niṣaṇṇadhīḥ] ABE, confirmed by Tib. blo gnas gyur: prasannadhīḥ Ed. Cf. de
JONG.

/ {T496b} kā śya pa sya su dhīr nā {D188a} ma śāstu rā sī du pā sa kaḥ / tatpra sā dāpta
ryyānte śikṣā pa da ni ṣaṇṇa dhīḥ /

師・カーシャパのもとにスディーという名の優婆塞がいました。かの[仏の]恩恵に
よって得られた学処（戒条）の上に安坐する知性をもつ人でした。

/ ston pa 'od srungs dag gi ni // dge bsnyen blo bzang zhes bya ba /
/ de yi drin gyis bslab gnas ni // yongs rdzogs thob cing blo gnas gyur /

sa drṣṭvā gīṭikuśalaṃ gāndharvikagaṇottamam /
praṇidhānaṃ pravidadhe gandharvādhipatāṃ prati // 80.85 //

85d °dhipatāṃ prati] A(ante corr.)T, confirmed by Tib. bdag po nyid *kyi:
°dhipatimprati A(post corr.): °dhipatim prati BE (= Ed.).

/ sa drṣṭa gī ti ku śa laṃ gārdharbi ka ga ṇotta maṃ / pra ṇi dhā naṃ pra bi da dhe gandha
(rbhā D: rbbā T) dhi pa tāṃ pra ti /

彼はガンダルヴァたちの最高の群が、歌に巧みであるのを見て、[将来] ガンダル
ヴァの王たることを望んで、誓願を立てました。

Note 85d gandharvādhipatāṃ prati] 新しい写本伝承 BE の読み -adhipatim prati（王に対して）より
も、接尾辞 -tā をつけた -adhipatāṃ prati（王たることに対して）の、古い伝承の読みの方がよい。

/ de yis dri za'i tshogs kyi mchog // glu dbyangs mkhas pa mthong gyur nas /
/ dri za'i bdag po nyid *kyi ni // ched du smon lam rab tu bsgrubs /

85a de yis] β : de yi δ . 85c nyid *kyi] ex con: nyid kyis β δ .

sa tena praṇidhānena supriyatvam upāgataḥ /
saṃprāptadharmavinayaḥ śikṣāpadaparigrahāt // 80.86 //

/ sa te na pra ṇi dhā ne na su pri ya tva mu pā ga taḥ / saṃ prāpta bharmā bi na yaḥ śi kṣā pa da
pa ri grā hāta /

彼はその誓願によって、[今世の] スプリヤとなったのです。[前世で] 学処を保持した故に、[今世で] 教法と戒律を獲得しました。

/ de ni smon lam de nyid kyis // rab dga' nyid du nye bar gyur /
/ bslab pa'i gnas ni yongs bzung nas // 'dul ba'i chos ni yang dag thob /

86b gyur] δ : bsgrubs β . 86c nas] δ : bas β .

subhadrasupriyāv etau kṛtau kuśalinau mayā /
parābhimatakrtyeṣu nirvyathāḥ sarvathā vayam // 80.87 //

/ su bha dra su pri yā be tau kṛ to ku śa li nau ma yā / pa rā bhi ma ta kṛ tye ṣu nirbbya thāḥ
sarbba thā ba yaṃ /

私はこれらスバドラとスプリヤを幸ある者にしました。他者の願いを叶える行為をすれば、私たちは完全に苦しみを逃れるのです（幸せになるのです）。

/ rab bzang rab dga' 'di dag ni // bdag gis dge ba ldan par byas /
/ gzhan gyi mngon 'dod byas pa la // kun tu bdag ni gdung ba med /

87a bzang] δ : bzangs β .

ajitaṃjayasaṃjñe 'bhūn nagare svargasaṃnibhe /
śatakratur iva śrīmān vijayantābhidho nṛpaḥ // 80.88 //

88a ajitaṃjaya] A(post corr.): ajitodaya BE (= Ed.): pū ji to ca ta T, cf. Tib. mchod 'os. Cf. de JONG.

/ pū ji to ca ta saṃ jñō bhūtna ga re svarga sanni bhe / śa ta kra tu ri ba śrī māna bi ja yan-
tā bhi dhe nṛ paḥ /

[昔] 天界に似たアジタンジャヤという名の都城に、インドラ神のような光輝あるヴィジャヤンタという名の王がいました。

Note 88a ajitaṃjaya-] 王都の名を写本 A では一応 ajitaṃjaya と読める。ただし A の筆写生はその箇所の字を筆写するのに苦労したらしく、書いた字を消して再び書き改めた跡があり、とても読みにくい。A の ajitaṃjaya の字は ajitodaya と読めるため、B と E 写本の ajitodaya の伝承は、

ajitaṃdaya → ajitodaya の修正から生じたのであろう。そのネパールの伝承と大きく異なり、チベットの梵蔵併記版の梵文転写では pū ji to ca ta とその都の名を伝承しており、それにあたる蔵訳は mchod 'os である。pū ji to ca ta は *pūjitocita (pūjita = mchod; ucita = 'os) かも知れないが、mchod 'os にあたる梵語は通常 pūjya, pūjārha, pūjanīya であるため、確かではない。今のところこの王都の名を確定できない。並行資料である Avś 第40章 Subhadra に、この前生譚は無い。

/ grong khyer mchod 'os zhes bya ba // mtho ris dag dang mtshungs par ni /

/ mi bdag dpal ldan brgya byin bzhin // mnam par rgyal ba zhes pa byung /

88a zhes] δ: ces β. 88b ris] δ: rigs β. 88d zhes pa] δ: zhes bya β (also possible).

tasya puṇyappravṛttasya dharmamārgānuyāyibhiḥ /

vrajadbhis tridivam pauraḥ pūritāḥ surabhūmayah // 80.89 //

89b dharma] ABE: dharmya Ed.

/ ta sya pu ṇya pra brtta sya dharma mārgā nu sā ri bhiḥ / bra jadbha stri di bam pau reḥ pū ji tā su ra bhū ma yaḥ /

彼が福德ある行いに従事したため、正法という道の上を共に旅しながら天界にやってくる彼の都民たちによって、神々の諸国土が満たされました。

/ bsod nams la ni rab zhugs de'i // chos lam rjes su 'brang ba yi /

/ grong pa mtho ris bgrod nams kyis // lha yi sa gzhi khengs par gyur /

89b 'brang ba yi] δ: 'brangs pa yis β. 89d lha yi] δ: lha yis β.

rājñah puṇyānubhāvena svargam āpūritam naraiḥ /

dr̥ṣṭvā yuktiṃ cakārāsyā sattvaṃ jñātuṃ sureśvaraḥ // 80.90 //

/ rā jā pu ṇyā nu bhā be na svarga mā pū ra tam na raiḥ / {D188b} dr̥ṣṭā yuktiṃ ca kā ra sya sa tvaṃ jñā tu su re śva raḥ /

王の福德の力で、天界が人々で満たされたのを見て、神々の王（インドラ）は、彼の剛勇心を知ろうとして、策を考えました。

/ rgyal po de yi bsod nams mthus // mi *yis mtho ris kun gang ba /

/ mthong nas lha yi dbang po yis // snying stobs shes 'dod sbyor ba byas /

90a de yi] δ: de yis β. 90b mi *yis] ex coni: mi yi β δ.

tatas tannirmitāḥ krūrasattvās tam pṛthivīpatim /

māmsam śarīraṇiṣkṛtaṃ rudhiram ca yayācire // 80.91 //

91b pṛthivīpatim] BE (= Ed.): pṛthvīpatim A. 91c niṣkṛtaṃ] corr.: niḥkṛtaṃ AB: niḥkṛtaṃ E.

/ **tasta sminni** rmmi tāḥ **ku raḥ** sa tvāstaṃ pṛ thi bī pa tiṃ / māṃ saṃ śa {T497a} rī ra niḥ
kṛttaṃ ru dhi ra ca ya yā ci re /

そして彼によって創られた（化作された）残忍な生き物たち（羅刹）が、その王に身体から切り取った肉と血を乞い求めました。

/ de nas **brgya byin gyis** sprul pa'i // sems can gdug pas sa yi bdag /

/ de la lus ni bcad pa yi // sha dang khrag dag rab tu bslangs /

91b gdug pas] δ : gdung bas β . **91c** de la] δ : de ni β .

91d bslangs] β : blangs δ .

nirvikāramatis tebhyaḥ sa dattvābhimataṃ nṛpaḥ /

asthiśeṣaṃ pravidadhe praṇidhānaṃ *mahāśayaḥ // 80.92 //

92d *mahāśayaḥ] ex conī, inferred from Tib. bsam pa chen pos (= Skt. *mahāśaya):
mahāyaśaḥ ABE: ma hā ya śaḥ T: mahāyaśāḥ Ed.

/ nirbba kā ra ma ti ste bhyaḥ sa da tvā bhi ma ta nṛ paḥ / asthi śe ṣaṃ pra bi da dhe pra ṇi dhā
naṃ ma hā ya śaḥ /

変わるものがない信念をもつかの王は、求められた骨の残り [まで] 彼らに与えて、偉大な心性をもつ [彼] は誓願を立てました。

Note **92c** asthiśeṣaṃ] 「望まれた骨の残りを与えて」という意味になることを避けて、もし *asthiśeṣaḥ と読むならば、「骨のみが残った王は、望まれたものを彼らに与えて」という意味になる。ただ、その読みを支持する伝承はない。ここでは一応現存する梵文伝承に従った。

Note **92d** *mahāśayaḥ] 蔵訳 bsam pa chen pos の原語は *mahāśayaḥ（偉大な心性をもつ cf. BHSD, s.v. āśaya）であろう。梵文写本 ABE が mahāyaśaḥ (m. 大名声をもつ者) ではなく mahāyaśaḥ (n. 大名声) と記していて、おかしいことも、śa ya → ya śa の書き間違いが起ったという推測を支持する。文脈上、*mahāyaśaḥ よりも *mahāśayaḥ の読みの方がよい。

/ mi bdag blo gros nam 'gyur med // de *yis mngon 'dod rus pa'i lhag /

/ de dag nam la byin nas ni // **bsam pa** chen pos smon lam btab /

92b de *yis] ex conī: de yi β δ .

śarīradānapuṇyena tāraṇāya śarīriṇām /

etenānuttarāṃ samyaksambodhim aham āpnuyām // 80.93 //

93c °nuttarāṃ] corr. (= Ed.): nu tta raṃ T: °nuttarā ABE.

/ śa rī ra dā na pu ṇyā na tā ra ṇā ya śa rī ri ṇām / e te nā nu tta raṃ samyaksam bo dhi ma hā
māśna yām /

「肉体の布施のこの功德によって、肉体ある者たち（生類）を救済するため、無上の正しい完全な悟りを私は獲得できますように。」

/ lus kyi sbyin pa'i bsod nams 'dis // lus can nams ni bsgral ba'i slad /
/ bla med yang dag rdzogs pa yi // byang chub **chen po** thob par shog /

Note **93d** byang chub chen po] この chen po は梵文と合致しない。saṃbodhim aham を saṃbodhi mahām (= saṃbodhiṃ mahatīm?) と読んだことに chen po の訳は起因するものか。梵蔵併記版の梵文を見ると saṃ bo dhi ma hā m とある。

ūce śakras tam etyātha rājan pravvyathitasya te /
api dehapradāne 'bhūd vikāraḥ satyam ucyatām // 80.94 //

/ u ce śa kra sta ma **bhye tyā** tha rā janpra bya tha mi ta sya te / a si de ha pra dā ne bhūdbi kā
raḥ sa tya mu cye tām /

シャクラ（インドラ）は彼に近づき、言いました。「王よ、苦しめられたあなたが肉体を与える時に、心変わりが無かったかどうか、真実を告げられよ。」

/ de nas brgya byin der phyogs smras // rgyal po rab gdung khyed kyi ni /
/ lus ni rab tu byin pa la // rnam 'gyur byung ngam bden par smros /
94b khyed kyi] β : khyed kyis ḍ .

iti prṣṭaḥ surendreṇa narendras tam abhāṣata /
arthisaṃpūraṇodbhūtaprahaṣotphullalocanaḥ // 80.95 //

/ i ti prṣṭaḥ su re ndre ṇa na rendrapta ma bhā ṣa ta / arthi saṃ su ra ṇodbhū ta pra haṣotphulla
lo ca naḥ /

[食を] 求める者たちを満腹させたことから生じた喜びによって目を大きく見開いた [かの] 人間の王は、このように神々の王から問われると、彼に語りました。

/ zhes pa lha yi dbang pos dris // slong ba rdzogs pas rab bskyed pa /
/ dga' bas mig ni rab rgyas pa'i // mi yi dbang pos de la smras /
95a zhes] ḍ : ces β || lha yi] ḍ : lha'i β . **95c** rab rgyas pa'i] ḍ : rgyas pa yi β .
95d pos] β : po ḍ .

Note **95b** bskyed pa] むしろ bskyed *pa'i の読みが期待される。

vyathāyāṃ nirvikāro 'haṃ yadi satyena tena me /
saṃrūḍhavraṇasacchāyāṃ svastham evāstu vigrahaṃ // 80.96 //

96b tena me] ABET, confirmed by Tib.: tena te Ed. Cf. de JONG. **96c** sacchāyāṃ] A: macchāyāṃ BE: saccha yaṃ T: sacchāyaḥ Ed. **96d** svastham evā°] ABET: svastha evā° Ed || vigrahaṃ] ABE: grhaṃ T: vigrahaḥ Ed.

/ bya thā yaṃ nirbi kā ro haṃ ya di sa tye na te na me / saṃ rū ḍha bra ṇa saccha yaṃ svastha
me bāstu gra {D189a} haṃ // 80.96 //

「もし苦しみの中で、私に心変わりが無かったのなら、その真実によって、私の身体は傷が平癒し、美しさを取り戻し、健康となれ。」

Note 96cd] この pāda cd の文は、vighraha（身体）の名詞が中性 neuter とみなされて作られている。もし必ず vighraha の語が男性 masculine としてだけ使われるのであれば、pāda cd の文は三箇所を同時に修正しなければならない。その場合、Dās 本が示す修正のように samrūḍhavraṇasacchāyaḥ svastha evāstu vighrahaḥ という文になろう。しかしそれは過剰な修正かもしれない。性の問題が三箇所も繋がって出てくる場合は、筆写生の誤写としては説明できない。確かに vighraha の語は一般的に男性だが、「戦い」という意味で使われる時には土着の lexicographes によって中性の使用が認められている。Cf. PW, s.v. vighraha, "5) Uneinigkeit, Zwist, Hader, Streit, Krieg [...] Nach den Lexicographen in dieser Bed. auch n., welches wir nur durch R. [= Rāmāyaṇa] 6.34,19 belegen können." 本詩節では「戦い」ではなく「身体」の意味で使われているが、vighraha の語の中性での使用を考察する時の一典拠となりうる。そのためあえて修正せずに写本伝承のまま読む。

/ gal te bdag ni gdung ba na // rnam 'gyur med na bden pa des /
/ bdag gi lus ni rma bsos shing // mdzes ldan rnal du gnas gyur cig /
96c lus ni] GN: lus 'di ḍ : lus Q.

ity udīritamātreṇa kāntaṃ svasthaṃ abhūd vapuḥ /
tasya meghavinirmuktaṃ bimbaṃ tārāpater iva // 80.97 //

/ i tyu dī ri ta mā tre ṇa kānti svastha ma bhū ba suḥ / ta sya me gha bi ni rmuktaṃ bimbaṃ tā
rā pa te ri ba /

そう言うときたちまち、雲が離れ去った月の円盤のように、彼は美しく、健康な身体になりました。

/ ces pa rab tu brjod tsam gyis // de lus rab mdzes rnal gnas gyur /
/ sprin dang rnam par bral ba yi // rgyu skar bdag po'i gzugs bzhin no /

vijayanto nṛpaḥ so 'haṃ parakāryeṣu nirvyathaḥ /
ity uktvā bhagavān dhyānanilīnanayano 'bhavat // 80.98 //

98b kāryeṣu] ABE, confirmed by Tib. don la: kāyeṣu Ed. Cf. de JONG.

/ bi ja ya (nto D: nta T) nṛ pa so haṃ pa ra kārye ṣu nirbya thaḥ / i tyuktvā bha ga bāndhyā na
ni lī na na ya no bha {T497b} bata /

他者のための行いをして、苦しみが失せたヴィジャヤンタ王が、[今世の] この私です。こう世尊はおっしゃると、瞑想に没入した目つきになられた。

/ mi bdag rnam rgyal de nyid nga // gzhan gyi don la gdung ba med /
/ ces pa brjod nas bcom ldan 'das // bsam gtan la chags spyān ldan gyur /

98a nga] ḍ : dang β.

acalacalanair manthakleśacchaṭām amṛtāmbudhiḥ
 suragaṇakṛte tām tām sehe prasahya mahāśayaḥ /
 vimalamanasām kāyāpāyakṣaṇe 'py avikāriṇām
 parahitavidhau saṃnaddhānām vyathāpi sukhāyate // 80.99 //

99a acalacalanair] A (=Ed.): acalavalanair BE.

/ a ca la ca la nairmmantha kleśaccha ṭā ma mṛ tām bu dhiḥ su ra ga ṇa kṛ te tām tām sā he prā
 sa hya ma hā śa yaḥ / bi ma la ma na sī kā yā pā yakṣa ṇe pya bi kā ri ṇām pa ra hi ta bi dhau san-
 naddhā nām bya thā pi su khā ya te /

不死の甘露の海たる、偉大な心情をもつ方（偉大な器 mahāśaya）は、神々のために、
 山を徘徊する〔羅刹〕たち（山の運動 acala-calana）によって攪拌がなされて〔生じた〕
 苦の流れ（chatā = dhārā）を大いに耐え忍んだ。利他の実践をする用意がある、清らか
 な心をもつ、心変わりがない者たちにおいては、身体が減じる瞬間における苦しみす
 ら、快いものとなるのだ。

Note **99a-d**] 本詩節は、涅槃時の釈尊によるスプリヤとスバドラの教化ならびに釈尊の前生にお
 ける救済行為を、乳海攪拌の神話に重ね合わせる。

Metre: Hariṇī.

/ 'phral la ri bo bskyod pas bsrubs pa'i nyon mongs gzer ma de dang de // lha
 tshogs ched du bdud rtsi'i chu gter bsam pa chen pos bzod par byed /
 / dri med yid ldan lus ni gnod pa dang bcas tshe yang nram 'gyur med // gzhan
 phan bsgrub par chas pa rnams la gdung ba dag kyang bde bar spyod /

99a gzer] δ : zer β (also possible) || dang de] δ : dang der β .

99d bsgrub] δ : sgrub β .

iti kṣemendraviracitāyām bodhisattvāvadānakalpalatāyām subhadrā-
 vadānam aśītitamahā pallavaḥ //

/ i ti kṣe mendra bi ra ci tā yām bo dhi satvā ba dā na kalpa la tā yām su bha drā ba dā na ma śī
 ti ta mahā palla vaḥ //

以上、クシェーメンドラ作『菩薩のアヴァダーナの祈願成就の蔓草』における「ス
 バドラのアヴァダーナ」という第80の小枝（章）。

/ ces pa dge ba'i dbang pos byas pa'i byang chub sems dpa'i rtogs pa brjod pa
 dpag bsam gyi 'khri shing las / rab bzang gi rtogs pa brjod pa'i yal 'dab ste br-
 gyad cu pa'o //

第80章の非重要な異読の報告

1. チベット訳の諸版の正字法上の異読

以下、Jの記号より前にある語形が、校訂テキストの語形であり、その記号の後ろにある語が、或る版の正字法上の異読を示す。

20c yongs su] yongsu G. **34d** yongs su] yongsu G. **40c** mgyogs] mgyoḍ G. **43d** yongs su] yongsu G. **49d** 'phreng] ḍ : phreng β. **64d** yongs su] yongsu G. **68d** grogs su] grogsu G. **77a** nags su] nagsu G. **89b** rjes su] rjesu G.

2. チベット訳の諸版の特殊な異読 (Sonderlesungen)

以下、Jの記号より前にある語形が、校訂テキストの語形 (正しい語形) であり、その記号の後ろにある語が、或る一つの版の特殊な異読を示す。例えば、**5d** 'gyur] gyur G. という記述は **5d** 'gyur] DNQT: gyur G と表現するのと全く同じであり、それは STRAUBE (2006), S. 245 の記述の仕方なら gyur st. 'gyur G と表現される。

2c za'i] ze'i N. **3c** mnyes] mnyen T. **4a** 'dong] 'dod D. **5d** 'gyur] gyur G. **6c** 'gro] om. G. **7c** yul] gul N. **19a** bcom] om. G. **21a** gdul] bdul G. **22a** ngu yis] ngu yi T. **27b** ba yis] ba yi T. **38a** sred] srid N. **41c** rgyal ba'i] rgyal po'i G. **42d** smras] smra G. **44c** lta] ltar G. **46d** bgrod] bgod Q. **50d** kun dga'] kun la dga' G. **55a** med du] mad du Q. **58d** che] ches G. **73a** gyi] gyis T. **76d** yis] om. G. **82c** zhes] ces T. **83a** kyis] kyi T. **83c** mnyes] mnyen T. **83d** bu yis] bu yi G. **85a** kyi] kyis G. **85c** za'i] ze'i N.

3. 梵文写本における特殊な異読 (Sonderlesungen)

以下、Jの記号より前にある語形が、私の校訂テキストにある語形 (正しい語形) であり、その記号の後ろにある語形が特殊な異読を示す。これは写本の中に沢山ある無意味な書き誤り等の異読をすべて本文の異読注として挙げると、真に重要な異読がそれらの無視してよい異読の中に埋もれてしまい、見えづらくなってしまうので、そうならないようにする配慮として、本文の異読注とは別に記するものである。本文の異読注には重要な異読のみを挙げた。

3b bahu] bahra B. **5d** kariṣyaty ā°] kariṣyāṣā° B. **6a** mayā saṃprati] prati B. **10b** cakravartyu°] cakravattyu° A. **11a** mamaiva] mameva A. **13b** °dunā] °dunām B. **14a** supriyo 'vada] supriyo bhavad B. **19a** 'bhyetya] metya B. **20d** śayane] śayano B. **21d** supriya] supriyeḥ B. **24b** daṇḍām] daṇḍa B || vīṇām avādayat] vīṇām savādayat E. **29d** śanakair] śanakai B. **29d** āyayau] āgamat E. **37d** yair] yai B. **39b** bhagavān] bhāgavān A. **40b** tanuḥ] tanu A. **41a** śālākhye] śālākhye A. **42b** svanaḥ] svarah E. **44a** na cinta°] no cinta° A. **46a** vegam viḥāya] vegam vigam viḥāya B. **46c** naiva] vaiva B. **47c** āśābhaṅga] āśāmaṅga B. **57c** saṃskārāḥ] saskārāḥ B. **57d** deha] deva E. **58c** °prthu°] °prathu° A. **59a**

dalanty ete] dalamṭete B || śailā] śailāḥ E. 59b °bhūtair bhūtair] °bhūtai bhūtai B || °titarām] °titarā B. 59c saṃsāre] sasāre B. 62d mama] mamaḥ A. 63d svapadaṃ] svaṣadaṃ E. 64a saṃcintya] sañcitya A. 65d vivādaḥ samajāyata] vivāda samajāyataḥ B. 66b kriyāvidhau] kriyābhidhau B. 67b bhikṣavaḥ] bhikṣava B. 71c bhūyāsaṃ] bhūyāsa B. 73b purā] puro B. 76d °ātreṇāpi] °ātreṇāpi B. 77b yūthapaḥ] yauthapaḥ B. 79a sarin°] sarīn° B. 80a dalite] dalita B. 81b saṃstabhya] saṃstaṃbhya B. 82d °nmukhaḥ] °nmukha B. 87a subhadra] samudra B. 87d nirvyathāḥ] nivyaṭhāḥ A. 88c śatakratur iva] śatakratunibhaḥ E. 92a matis] mayis B. 95d °praharṣo°] °prahaṣo° A. 99b tāṃ tāṃ] tāsāṃ B. 99d saṃnaddhānāṃ] sannadhānāṃ B.

第2節 第81章 Hetūttamāvadāna 「ヘートウ・ウッタマ仏のアヴァダーナ」

本アヴァダーナの内容は次のごとくである。

パートリプトラの商人たちが牛頭栴檀を採取するために、栴檀が生える島まで航海し、帰りに嵐に遭った。危うく船が沈みそうになった時、ブンヤセーナという名の隊商長が、故国のヘートウ・ウッタマという名の仏（恐らく辟支仏）の存在を思い出し、彼に帰依を誓った。そのおかげで全員が命拾いし、無事に自国に帰り着いた。隊商長は仏を篤く信奉した。その時ヘートウ・ウッタマ仏に、前世の業の残余により、熱病が現れた。熱病には牛頭栴檀を体に塗って治療するとよいので、チャンドラ・アヴァローカという王が仏の治療のため、牛頭栴檀を探し求めた。王は隊商長ブンヤセーナが航海で得た牛頭栴檀を高値で買いたいと申し出るが、ブンヤセーナは王に売らず、それを自ら仏に寄進し、体に塗ってさしあげた。そのおかげで仏は恢復し、ブンヤセーナは大きな福德を得て、全身に輝きと芳香を有する者となった。そこで或る侍者がヘートウ・ウッタマ仏に、ブンヤセーナの福德のことを質問した。かの仏は答えて、ブンヤセーナが未来世にチャンダナ・シュリーという名の如来になることを予言した。――

この第81章「ヘートウ・ウッタマ仏のアヴァダーナ」の説話は、現存する仏教文献の中にその原話にあたるものが見つからないが、恐らく原話は有部系の説話であろう。憶測するに、11世紀のカシュミール有部の律文献の伝承中に存在した同名のアヴァダーナを Kalpalatā の作者 Kṣemendra が源泉資料として利用したのではないだろうか。

アヴァダーナの話型として、「ある篤信の者が仏や辟支仏に布施や供養を行い、誓願を行うと、その仏等によって、未来世に本人が誓願時に希望した或る理想の状態に達することを、あるいは阿羅漢・仏・辟支仏になることを、予言される」という話型があり、この第81章はその型に納まる話である。根本説一切有部律や Avadānaśataka の説話

の中には、この話型に属するいくつかの**アヴァダーナ**がある。有名な**燃燈仏授記**の話も、この話型を土台にしている。

Avadānaśataka の第4章 **Sārthavāha** は、特にこの第81章の**アヴァダーナ**に近似する説話と見なしうる⁽¹³⁾。話の途中の流れがやや複雑であるが、話の筋の基本は上記の話型に納まるものであるし、また大海中に宝を求める商人たちというモチーフが第81章と共通する。

根本説一切有部毘奈耶藥事の中にも、上記の話型、ならびに大海の商人たちのモチーフという観点において、第81章と似ている話がある⁽¹⁴⁾。

その他の文献を探すと、商人たちが牛頭栴檀を採るため大海を渡り暴風雨に遭った時に、仏の力で命拾いし、帰国後に仏を供養するという、この第81章が有する話の展開の仕方は、**Divyāvadāna** の第2章 **Pūrṇāvadāna** の中の話の部分にも見出される (pp. 40-43)。

中世ネパールの **avadānamālā** 文献の一つである **Aśokāvadānamālā** の第23章 **Puṇyāsenāvadāna** は、この **Kalpalatā** 第81章を原話として、多くの詩節を引用しつつ作られた韻文の再話文献である。

では以下に梵文と蔵訳の校定テキストを挙げる。蔵訳テキストでは梵文と相違するような注意すべき箇所を太字にしている。

81 Hetūttamāvadāna

D: Khe 189a5-192a2 Q: Ge 296b2-297b8 N: Ge 265b2-267b7

G: Ge 374b4-376b4 T: 497b2-499b6

Skt. Mss.: A *322a1-*323b3; B 99b2-100b4; E 86b2-88a2

kṣetre sukrṣṭe 'lpataraṃ yad uptaṃ
 kṛtaṃ kṛtajñasya hitāya yac ca /
samarpitaṃ yac ca guṇonnatāya
 śākhāsahasrais tad upaiti vṛddhim // 81.1 //

13 この **Avadānaśataka** の第4章 **Sārthavāha** の再話文献として、**Ratnāvadānamālā** 第12章 **Sārthavāhāvadāna** がある。高昌 (1954) の **Ratnamālāvadāna** 出版本の第12章にあたる。

14 毘奈耶藥事巻第七 T24 29b17-c10 (Licchavi 族前生譚)。Cf. Jampa Losang PANGLUNG (1981): *Die Erzählstoffe des Mūlasarvāstivāda-vinaya*, Tokyo, S. 23-24.

/ {D189a5, T497b3} kṣe tre su kṛṣṭālpā ta raṃ ya du ptaṃ kṛ taṃ {D189b} kṛ ta jñā sya hi tā
yaccha / sa marpi ta yaccha gu ṇonna tā ya sâ khā sa ha praista du pe ti brddhaṃ /

もし [果樹の種が] ごくわずかであっても、よく耕された畑に播かれたならば、それは、千の枝を拡げて大きくなる。 [布施等の行為が] 恩を知る人の利益のためになされ、あるいは徳性が偉大な人のためになされたなら、それも千の枝を拡げて大きくなる (業果という大きな実りをもたらす)。

Metre: Upajāti.

/ legs rmos zhing la rab nyung gang btab dang // byas shes dag la phan pa gang
byas dang /

/ yon tan dag gis mtho la gang byin pa // de ni lo ma stong phrag 'phel bar 'gyur /
ld lo ma] ð : lo mang β.

śrāvastyāṃ bhagavān bhavye purā jetavane jinaḥ /

kathāprabandhopagataṃ bhikṣusaṃgham abhāṣata // 81.2 //

2c kathāprabandhopa°] A (= Ed.): kathābrataṃgopa° B: kathāprasamṅgopa° E.

/ śrā bastyāṃ bha ga bāna bha bya pu rā je ta ba ne ji naḥ / ka thā pra bandho sa ga (ti D: taṃ
T) bhi kṣu saṃ gha ma bhā ṣa ta /

昔、シュラーヴァステイー（舎衛城）の美しいジェータ林において、世尊・勝者は一
続きの法話に参加した比丘僧伽に語った。

/ legs ldan mnyan yod rgyal byed kyi // tshal du bcom ldan rgyal bas sngon /
/ gtaṃ gyi zhar la nyer 'dus pa'i // dge slong tshogs la bka' stsal pa /

viphalam sarvam evaitat svabhogāya yad arjyate /

tad eva saphalam loke yat samarpitam arhate // 81.3 //

/ bi pha lam sarbba me ba ta sva bho gā ya ya darjya te / ta de ba sa pha lam lo ke yatsa marpi
ta marha te /

得られたものは、もし自分の享受のために工面されるなら、そのすべては果をもたら
さない。しかし聖者に贈られたなら、それは世界で [大きな] 果を実らせる。

/ gang zhig rang gis spyad 'os pa // de dag thams cad 'bras bu bral /
/ 'jig rten du ni dgra bcom la // gang phul de nyid 'bras bur ldan /

Note 3a 'os pa] この 'os pa (価する) の訳語は梵文 arjyate を意識したか、あるいは pāda d の
arhate (聖者に) の語に引っ張られて *arhati と読んだものか。

dakṣiṇā dakṣiṇatayā satpātrapratipādītā /

asamkhyaguṇatām eti satsaṃgatir ivākṣayā // 81.4 //

/ dakṣi nā dakṣi ṇa ta yā satpā tra pra ti pā di tā / a saṃ khyā gu ṇa tā me {T498a} ti patsaṃ ga
ti ri bākṣa yā /

[選別の] 適切さをもって、善き器 [たる人] に贈られた施物は、まるで善人との交際のように、不壊不尽のものとして、無数の功德を産み出す。

Metre: pāda a] na-vipulā.

/ dam pa'i snod la yon nyid kyis // yon ni rab tu phul ba dag /
/ dam pa'i grogs bzhin mi zad *pa // yon tan grangs med ldan par gyur /
4c zad *pa] ex coni (HAHN): zad pas ḍ : bzad pas β. 4d gyur] ḍ : 'gyur β.

purā pāṭaliputrīyā vaṇijaś candanārthinaḥ /
mahāpravahaṇārūḍhās candanadvīpam āyayuh // 81.5 //

/ su rā pā ṭa li pu trā yāṃ ba ṇi jaścanda nārthi naḥ / ma hā pra ba ha ṇa ru ḍhāścanda nā dvi pā
mā ya yuh /

昔、パーティプトラの商人たちが梅檀を求めて、大きな船に乗り、梅檀の島にやって来た。

/ grong khyer pā a li pu tra'i // tshong pa tsan dan don gnyer sngon /
/ gzings chen dag la zhon nas ni // tsan dan gling du phyin par gyur /
5a tra'i] β : ṭa'i ḍ.

gośīrṣacandanacayaṃ samādāya tatas tataḥ /
hr̥ṣṭāḥ pratinivṛttās te prāpur madhyaṃ mahodadheḥ // 81.6 //

/ go śīrṣa canda na ca yaṃ sa mā dā ya ta tasta taḥ / hr̥ṣṭāḥ pra ti ni bṛttāste prā purmma
dhyamma ho da dheḥ /

そして多くの牛頭白檀を取って、歓喜した彼らは、その [島] から引き返し、大海の真ん中に達した。

/ de nas tsan dan sa mchog tshogs // blangs nas dga' bas de dag nmams /
/ de las phyir ni log gyur te // chu gter chen po'i dbus su phyin /
6a tshogs] β : sogs ḍ.

Note 6b dga' bas de dag nmams] この dga' bas の -s 具格が注意される。蔵訳者は hr̥ṣṭāḥ で文をいったん切って、「歓喜した故に」と理由を表現する具格で訳したのか、それとも *hr̥ṣṭeḥ と奪格に読んだのか。

vipulākālavātālīcalitormibalair abhūt /
tatra pravahaṇaṃ kāladolākeliviśṛṅkhalam // 81.7 //

7b calito°] T: valito° ABE (= Ed.): Tib. bskyod pa'i.

/ bi pu lā kā la bā ta li **ca li** tormmi ba le ra bhuta / {D190a} ta tra pra ba ha **ṇi** kā la do la ke la
bi śṛṃ kha lam /

其処で、大きな非時の嵐による揺れる大波の力によって、船は『時』（死神）の〔揺らす〕ブランコ遊びによって、解体し始めた。

/ rgya che dus min rlung 'tshub kyis // bskyod pa'i rba rlabs stobs kyis der /
/ dus kyi rtse dga' g.yo ba yis // gzings ni bsdams pa med par gyur /
7a 'tshub] δ : tshub β (also possible). **7b** rba] δ : dba' β (also possible).

trāṇārthini vaṇīkacakra tridaśastotrakārīṇi /
abhajyata pravahaṇaṃ saha sārthamanorathaiḥ // 81.8 //

8d saha sārthamanorathaiḥ] ABE, confirmed by Tib.: sahasārthamanoratham Ed. Cf. de JONG.

/ trā ṇārthi ba ni cakre tṛ da śasto tra kā ri ṇi / a bhi jya tā pra ba ha ṇaṃ sa ha sārtha ma no ra
thaiḥ /

商人たちが救済を求めて、神々の讃頌を唱えているうちに、隊商の人々の希望と一緒に、船は砕かれた。

/ skyob pa don gnyer tshong pa'i tshogs // lha la bstod pa byed pa'i tshe /
/ don mthun yid la re ba dang // lhan cig gzings ni zhiḡ par gyur /
8c yid la re ba] δ NQ: yid la reg ba G ll dang] δ : dag β .

punyasenābhidhas tatra viṣame prāṇasaṃśaye /
acintayat paritrāṇaṃ sākampaḥ sārthanāyakaḥ // 81.9 //

/ pu ṇya se nā bhi dhasta tra bi ṣa me prā ṇa sa śa ye / a cinta yatpa ri tra ṇa sa **kalpa** sā (rthi D:
rthaṃ T) nā ya kaḥ /

その困難な、命の危険の中にあって、プンヤセーナという名の隊商長は、震えつつも救済の手だてを考えた。

/ mi bzad srog la the tshom der // don mthun 'dren pa bsod nams sde /
/ zhes pa 'dar ba dang bcas pas // yongs su bskyab par rab tu bsams /
9c bcas pas] δ : bcas pa'i β . **9d** bskyab par] β : bskyab pa δ .

asti madveśmanikaṭe dharmabodhir upāsakaḥ /
hetūttamaṃ kleśakāle stauti śāstāram eva saḥ // 81.10 //

/ asti mad**viśa** ni ka ṭe dharmma bo dhi ru pā sa kaḥ / he tutta maṃ kle śa kā le sto ti śāstā ra
ma ba saḥ /

「私の住まいの近くに、ダルマボーディという優婆塞がいるが、困苦の時に彼はヘー トウ・ウッタマという名の師のみを讃える。」

Note 10b dharmabodhir] de JONG は dharmabodhir を *gharmabodhir と読むことを提案するが、提案の理由を示していないのは奇妙である。全梵文写本も蔵訳もその提案を支持しない。

/ bdag gi khyim dang nye ba na // dge bsnyen chos kyi byang chub yod /
/ de ni nyon mongs dus dag tu // ston pa rgyu yi mchog nyid bstod /

iti saṃcintya manasā tam eva śaraṇaṃ gataḥ /
ūce sārthapatiḥ sāsraḥ sādvasāyāsagadgadah // 81.11 //

/ i ti saṃ cittya ma na sā ta me ba śa ra ṇa ga taḥ / u ce sārtha pa tiḥ sra dhva bha yā sa ga da
ga dah /

このように考え、隊商主は心中で彼の上に帰依をなし、涙を流し、恐怖と疲労による震え声を出しながら、[次のように] 語った。

/ ces pa yid kyi rab bsams nas // de nyid la ni skyabs song ste /
/ ded dpon mchi ma dang bcas pas // 'jigs shing ngal bas ldab ldib smras /
11c bcas pas] ḍ : bcas pa β. 11d shing] ḍ : zhing β.

hetūttamāya mahate sambuddhāyār hate namaḥ /
kalyāṇakalpavṛkṣāya sakalakleśasarmaṇe // 81.12 //

/ he tutta mā ya ma ha te si buddhā yārha te na {T498b} maḥ / ka lyā ṇa kalpa vṛkṣā ya sa ka
la kle śa śarmma ṇe /

「幸せの如意樹であり、あらゆる苦悩からの庇護処である、偉大な正覚・阿羅漢であるヘー トウ・ウッタマに帰命いたします。」

/ rdzogs pa'i sangs rgyas rgyu yi mchog // dge ba yi ni dpag bsam shing /
/ nyon mongs can kun bde mdzad pa // dgra bcom che la phyag 'tshal lo /
12c bde mdzad pa] ḍ : bdab na N: bde ba na GQ.

ity ukte tena sahasā samabhyetyābdhidevatā /
sārthaṃ pratyāgataprāṇaṃ cikṣepa jaladhes taṭe // 81.13 //

13b °ābdhidevatā] AE, confirmed by Tib. rgya mtsho'i lha: °ādhidevatā B: °āgnidevatā Ed. Cf. de JONG.

/ i tyukte te na sa ha sā (saṃ D: sa T) ma bhye tyābdhi de ba tā / sārtha pra {D190b} tyā ga ta
prā ṇaṃ bi kṣe pā ja la dhesta ṭe /

このように [彼が] 言うやいなや、直ちに海の神 (devatā) が近づいて来て、命拾いした隊商を、海の岸边へ投げ置いた。

/ zhes pa de yis brjod pa'i tshe // 'phral la rgya mtsho'i lha 'ongs te /
 / don mthun srog ni slar byung rnams // chu gter gyi ni ngogs su bsgral /
 13a de yis] δ : de yi β . 13c rnams] NQ: nyams δ : nas G. 13d gyi] δ : gyis β .

tasman mahābhayān muktās te svadeśam upāgatāḥ /
 hetūttamanamaskāraniratāḥ sarvadābhavan // 81.14 //

/ tasmātma hā bha yānmukta ste sva de śa mu pā ga tāḥ / he tutta ma na maskā ra ni ra tāḥ
 sarbba dā bha bāna /

その大きな危難から脱するを得た彼らは、自分の国に戻った。いつもヘートウ・ウツ
 マへの礼拝を喜ぶ者となった。

/ 'jigs chen de las grol gyur pa // de dag rang gi yul du phyin /
 / rgyu yi mchog la phyag byed la // dus kun tu ni chags par gyur /
 14d kun tu] β : kun du δ (also possible).

tasminn avasare śāstuh karmāśeṣeṇa kenacit /
 gātre hetūttamasyābhūt tīvratāpasthitijvaraḥ // 81.15 //

/ ta (smanna D: sminna T) ba sa re śāstuh karmma śeṣe ṇa ke na cita / gā tre he tutta ma syā
 bhūttī bra tā pa (sī D: sthi T) ti jva raḥ /

その頃、[前世の] 或る業の残余により、ヘートウ・ウツタマの身体に、激しい苦し
 みの持続がある熱病が現れた。

/ gnas skabs der ni ston pa dag // rgyu yi mchog gi sku la ni /
 / las kyi lhag ma 'ga' *yis rims // drag po'i gdung ba gnas par gyur /
 15c *yis] ex con: yi β δ . 15d po'i] δ : pos β .

ye svasthatām bhavamahābhayabheṣajena
 kurvanti sarvajagatām avalokanena /
 te 'pi prasaktanijakarmalatāviśeṣa-

śeṣādhivāsakalanām na parityajanti // 81.16 //

16a bheṣajena] AE (= Ed.): bhaiṣajena B: bhai ṣa jye na T.

16c viśeṣa] A(post corr.)BE: viśeṣe A(ante corr.) (= Ed.). Cf. de JONG.

/ ye svastha tām bha ba ma hā bha ya bhai ṣa jye na kurbanti sarbba ja ga tā ma lo ka ne na /
 te pi pra sakta ni ja karmma la tā bi śe ṣā dhi bā sa ka la nām na pa ri tya (ji D: ja T) nti /

あらゆる生類を観察（診断）しながら、生存の大きな危難 [から救う] 術を施して、
 平癒せしめる彼ら [救済者] も、[自分に] 絡みついた自らの業という特別な蔓草
 の (latāviśeṣa) 残余の薫習 (śeṣādhivāsa) による影響を逃れてはいない。

Metre: Vasantatilaka.

/ gang dag gzigs pa srid pa'i 'jigs pa chen po'i sman gyis ni // 'gro ba thams cad
legs par bsos pa nyid ni bsgrubs mdzad pa /

/ de dag gis kyang rang las 'khri shing khyad par rab chags pa'i // lhag ma lhag
par gnas shing chags pa dag ni gtong mi 'gyur /

16b bsgrubs] δ : sgrub β . 16c las] δ : la β . 16d gtong] δ : stong β .

gośīrṣacandanam tasya tīvrasmāntāpāśāntaye /

rājā candrāvalokākhyāḥ sarvatrānveṣṭum udyayau // 81.17 //

17a gośīrṣacandanam] BET (cf. 81.18c): gośīrṣaś candanam A.

17d udyayau] ABET, confirmed by Tib. brtsams: āyayau Ed.

/ go śīrṣa canda nam ta sya tī bra sam tā pa śānta ye / rā jā candra ba lo kā khyāḥ sarbba
trārthestu mudya yau /

彼の激しい苦しみを消すため、チャンドラ・アヴァローカという王が、牛頭栴檀を至
るところで探し求めた。

Note 17a gośīrṣacandanam] 牛頭栴檀を体に塗って治療に使うという記事は、漢訳撰集百緣經の
(21) 化生王子成辟支仏縁の過去話でも出てくる (T4 213c)。ただし相当する梵本 Avś 第21話
Candana では同じ過去話がごく簡潔で、治療の記事がない。漢訳はこの箇所では梵本の素朴な形
を捨てて、大きく付加増広されたことが明白である。なお梵本のその章は後代の Kalpadrumā-
vadānamālā 第4章 Candana ならびに Dvāviṃśatyavadānakathā 第21章 Candana の種本となった。

/ de yi drag por gdung ba ni // zhi slad tsan dan sa mchog dag /

/ rgyal po zla ba snang zhes pas // thams cad du ni btsal bar brtsams /

lakṣaiś caturbhir bhūpena sa sārthapatir arthitaḥ /

gośīrṣacandanapalaṃ na dadau bhuvi durlabham // 81.18 //

18c palaṃ] ABE, confirmed by Tib. srang (= Skt. *pala): malaṃ Ed. Cf. de JONG.

/ lakṣaiśca turbhīrbhū pe na sa sārtha pa ti rarthi taḥ / go śīrṣa canda na pa laṃ na da dau bhu
be durla bhaṃ /

かの隊商主は、[彼が所有する] 地上で得難い牛頭栴檀を、四十万 [の価] で王に求
められたが、一パラ (重量の単位) も譲らなかった。

/ sa bdag gis ni 'bum phrag bzhis // ded dpon de la don du gnyer /

/ tsan dan sa mchog sa la ni // rnyed dka' srang gcig byin ma gyur /

18d gcig] δ G: cig NQ.

bhaktyā svayaṃ samabhyetya smṛtimātropakāriṇaḥ /

śāstuḥ sārthapatiś cakre vapuś candanacarcitam // 81.19 //

/ bhaktyā sva yaṃ sa ma {D191a} bhye (tye D: tya T) smṛ ti mā tro pa kā ri ṇaḥ / śāstuḥ sārtha
pa {T499a} tiścakre ba pu ścanda na carcci taṃ /

敬愛の念から隊商主は自ら赴いて、[かつて] 憶念するや否や助けて下さった方であ
る師のお体に栴檀を塗ってさしあげた。

/ ded dpon rang nyid mngon phyogs te // dran pa tsam gyis phan mdzad pa /
/ ston pa'i sku la tsan dan gyis // gus pa yis ni byugs pa byas /

19a rang nyid] ḍ : nyid ni β. 19d byugs] ḍ G: byug NQ.

tena hāratuṣāraughaśaśiśaityopahāsinā /

svasthaḥ svakīrtiśubhreṇa candanenābhavaj jinaḥ // 81.20 //

/ te na hā ra tu ṣā rau gha śa śi śai to pa hā si nā / svasthaḥ sva kīrtiṃ śu bhre ṇa canda ne nā
bha bajji naḥ /

ご自分の名声のように白淨の、真珠のネックレスや氷雪の塊や月の冷たさを嘲る [冷
たさをもつ] その栴檀によって、勝者（仏）はご健康になられた。

/ do shal dang ni kha ba'i tshogs // zla ba bsil ba dman byed pa /
/ grags pa ltar dkar tsan dan des // rgyal ba rnal du gnas par gyur /

20b ba bsil] ḍ : ba'i bsal N: ba'i bsil GQ.

tena puṇyānubhāvena puṇyasenaḥ śaśiprabhaḥ /

śrīmān babhūva sarvāṅgaprodbhūtādbhutasaurabhaḥ // 81.21 //

/ (tai D: te T) na pu ṇyā nu bhā be na pu ṇya se naḥ śa śi pra bhaḥ / śrī mānba bhu ba sarbbāṃ
ga prodbhu tādbhu ta sau ra bhaḥ /

榮譽あるプンヤセーナはその福德の力によって、月のような輝きと、全身から生じる
稀有なる芳香を有する者となった。

/ de yi bsod nams mthu yis ni // dpal dang ldan pa bsod nams sde /
/ zla ba'i 'od dang yan lag kun // rmad byung dri bzang ldan par gyur /

21a de yi] DNQ: de yis GT. 21d rmad] ḍ : rma β || bzang] ḍ : bzangs β.

tasya candanaratnādi cyutaṃ yat sāgarāmbhasi /

tat sarvaṃ svagrhopāntakūpamadhyāt samudgatam // 81.22 //

22a ratnādi] ABE, confirmed by Tib. rin chen sogs (= Skt. *ratnādi): raktādi Ed. Cf.
de JONG.

/ ta sya canda na ratna di cyu ta yātsā ga rā bha si / tatsarbbāṃ sva gṛ ho pātta kū pa ma dhyāt-
sa mudga taṃ /

〔嵐の時に〕 海の水に沈んだ、彼の栴檀の宝などは、すべて自宅近くの池の中から、現れ出た。

/ de yi tsan dan rin chen sogs // rgya mtsho'i chu la gang lhung ba /
/ de dag thams cad rang khyim dang // nye bar khron pa'i nang nas byung /
22d khron] δ : khrom β .

nijaṃ nijaṃ sa dattvātha vaṇijāṃ candanādikam /
bhojyaratnāmbair gehe bhikṣusamṅham apūjayat // 81.23 //

23a dattvātha] AT: matvātha BE: mattvā ca Ed.

/ ni jaṃ ni jaṃ sa da tvā tha ba ṇi ja canda nā di kaṃ / bho jya ratnāmba rai rge haṃ saṃ bhi
kṣu saṃ gha pū ja yata /

〔彼は〕 あらゆる自分が所有する栴檀等を商人たちに与えてしまい、家で比丘僧伽に食べ物や宝石や衣をもって供養した。

/ tshong pa nams la tsan dan sogs // rang rang dag la des byin nas /
/ zas dang rin chen gos nams kyis // khyim du dge slong dge 'dun mchod /

atha sārthapater divyaprabhāvābharaṇāṃ śriyam /
dṛṣṭvopasthāyakenāgre pṛṣṭas tatsukṛtaṃ jinaḥ // 81.24 //

24c °pasthāyakenā°] ABE (cf. BHSD s.v. upasthāyaka): pa stha ya ke nā T: °pasthā-pakenā° Ed.

/ a tha sārtha pa te di bya pra bhā bā bha ra ṇāṃ śri yaṃ / dṛṣṭva pa stha ya ke nā gre pṛṣṭa tat-
su kṛ taṃ ji naḥ /

神々しい威厳に飾られた隊商主の〔姿の〕輝かしさを見て、一人の侍者が面前で、勝者に彼の善行をお尋ねした。

/ de nas ded dpon dag *gi ni // mchog gi mthu yis brgyan pa'i dpal /
/ mthong nas mngon du nyer gnas kyis // de yi legs byas rgyal la dris /

24a dag *gi ni] ex con: dag gis ni β δ . **24d** de yi] β : de yis δ .

hetūttamo 'tha bhagavān sasmitas tam abhāṣata /
prāptā śrīḥ sārthavāhena limpatā candanena mām // 81.25 //

/ he tūta mo tha bha ga bāna sa smi tasta ma bhā ṣa ta / {D191b} prāpta śrīḥ sarthā ba he nā
laṃ pa tā canda ne na mām /

世尊ヘートウ・ウッタマは微笑して、彼にこう語った。「私を栴檀で塗ることによって、隊商主は〔姿の〕輝かしさを得たのです。

/ de nas bcom ldan rgyu yi mchog // 'dzum dang bcas pas de la gsungs /

/ ded dpon gyis ni tsan dan gyis // nga la byugs pas dpal 'byor thob /

kṛtaṃ sukr̥taśīlena puṇyasēnena karma tat /
amṛtatvam avāptasya yasyaitā leśavipluṣaḥ // 81.26 //

/ kṛ taṃ su kṛ taṃ śī le nā pu nya se ne na karmma tata / a mṛ ta (tvā D: tva T) ma bāpta sya ya
syai trā le sā bi sru ṣaḥ /

善行の徳性をもつブンヤセーナは〔善い〕業を作りました。不死たることをすでに得た彼がもつ業には、これらの残滓があるのです。

/ bsod nams sdes ni legs byas kyi // ngang tshul dag gis las de byas /
/ bdud rtsi nyid ni rab thob pa // gang gi 'di dag cha yi thigs /

26a sdes] ḍ : sde β. 26b dag gis] ḍ : dag gi β. 26c thob] ḍ : 'thob β.

26d gang gi] ḍ : gang gis β.

pāke kuśalamūlānām eṣa janmani paścime /
pravrajyānuttarāṃ samyaksambodhiṃ samavāpsyati // 81.27 //

/ pā ke ku śa la mū lā nā me ṣa janma ni paści me / {T499b} pra bra jyā nutta rā sa myaksaṃ
bo dhiṃ sa ma bāpsya ti /

この者は善根が熟する最後の生において、出家して、最高の正しい悟りを得ることでしょう。

/ dge ba'i rtsa ba smin pa na // skye ba tha ma dag la 'di /
/ rab byung bla med yang dag par // rdzogs pa'i byang chub thob par 'gyur /

candanaśrīr iti khyātaḥ puṇyacandanaśākhinaḥ /
eṣa mūle viśālasya bhaviṣyati tathāgataḥ // 81.28 //

28c eṣa] ABE, confirmed by Tib. 'di (= Skt. *eṣaḥ): evaṃ Ed. Cf. de JONG.

/ canda na śrī ri ti khyā taḥ pu nya canda na sā khi nāḥ / e ṣa mū le bi sā la sya bi ṣya ti ta thā
ga taḥ /

大きな福德栴檀（puṇyacandana）の木の根元で、この者は、チャンダナ・シュリーという名の如来になるでしょう。」

/ bsod nams dag gi tsan dan shing // yangs pa yi ni rtsa bar 'di /
/ tsan dan dpal zhes grags pa yi // de bzhin gshegs pa nyid du 'gyur /

28a dag gi] ḍ : dag gis β.

iti hetūttamaḥ prāha bhagavāñ jñānalocanaḥ /
ity ukte śākyamuninā bhikṣavo vismayam yayuḥ // 81.29 //

/ i ti he tūta maḥ prā ha bha ga bāna jñā na lo ca naḥ / i tyukte śākya mu ni nā bhikṣa bo bi
sma yaṃ ya yuḥ /

このように智慧の眼をもつ世尊ヘートウ・ウッタマは言われました。 — と、かく
シャーキャ・ムニ（釈迦牟尼）が説かれた時、比丘たちは驚嘆した。

/ de skad bcom ldan rgyu yi mchog // ye shes spyān dang ldan pas gsungs /
/ zhes pa śākya thub pa yis // gsungs tshe dge slong ya mtshan gyur /

arhatkṣetrasamarpaṇāt pariṇatau vairāgyalakṣmīphalaḥ

śraddhādānakaṇāṅkuraḥ sukr̥tināṃ śākhāśatair vardhate /
yasyaitās tridaśādhipatyaviśadacchattrodayāḥ saṃpadaḥ

puṇyāmodamadapramodasuhṛdaḥ pratyagrapuṣṣodbhavāḥ // 81.30 //

30c °viśada°] T (= Ed.): °viśada° ABE.

/ arhatkṣe ttra sa marppa ṇā pa ri ṇa tau bai rā gya lakṣmī pha laḥ śraddha dā na ka ṇāṃ ku raḥ
su kṛ ti nā śā khā śa terbba rdha te / ya sya tāstri da śā dhi pa tya bi śa daccha tro da yāḥ saṃpa
daḥ pu ṇyā **gandha** ma da {D192a} pra mo da su hṛ daḥ pra tya gra puṣṣodbha baḥ /

善行者たちの、信仰心による布施という種子から〔出た〕芽は、阿羅漢という畑（福
田）に播かれた後、百の枝を茂らせて成長し、実りの時には、〔出家者の〕離欲や〔王
の〕栄光という果実をつける。〔また〕新しい花々の発生として、神々の王位の白く輝
く日傘の出現、福德の芳香の酔いによって歓喜する親友たちという、これらの達成をそ
れは得る。

Metre: Śārdūlavikṛīḍita.

/ legs byas can gyi dad pa'i sbyin pa'i cha yi myu gu lo 'dab brgya yis 'phel //
dgra bcom zhing la yang dag btab pa yongs su smin tshe chags bral phun tshogs
'bras /

/ gang la skabs gsum bdag po dri med gdugs can dar zhing bsod nams dri yis
rgyags // rab dga'i grogs po phun tshogs 'di dag me tog gsar pa nyid du rab tu
rgyas /

Note 30a sbyin pa'i cha yi] 蔵訳者は梵文の dāna-kaṇa を「布施の種子」ではなく「布施のかけ
ら（わずかな量）」と解釈した。

iti kṣemendraviracitāyāṃ bodhisattvāvadānakalpalatāyāṃ hetūttamā-
vadānam ekāśītitamaḥ pallavaḥ //

/ i ti kṣe mendra bi ra ci tā yāṃ bo dhi satvā ba dā na kalpa la tā yāṃ he tūta mā ba dā na me
kā śā ta ta maḥ palla vaḥ //

以上、クシェーメーンドラ作『菩薩のアヴァダーナの祈願成就の蔓草』における「ヘートウ・ウッタマ仏のアヴァダーナ」という第81の小枝（章）。

/ zhes pa dge ba'i dbang pos byas pa'i byang chub sems dpa'i rtogs pa brjod pa
dpag bsam gyi 'khri shing las / rgyu'i mchog gi rtogs pa brjod pa'i yal 'dab ste br-
gyad cu rtso gcig pa'o //

第81章の非重要な異読の報告

1. チベット訳の諸版の正字法上の異読

9d yongs su] yongsu G. 13d ngogs su] ngogsu G. 30b yongs su] yongsu G.

2. チベット訳の諸版の特殊な異読 (Sonderlesungen)

2a legs] lags D ll mnyan] nyan G. 3c bcom la] bcom pa G. 4c dam] dad D. 5c nas] chas
N. 8a skyob] skyeb Q. 9a der] med G. 15a dag] dang N. 21b sde] sda Q. 23d dge
slong] om. Q. 25d nga] sa D.

3. 梵文写本における特殊な異読 (Sonderlesungen)

1d upaiti] upeti A. 2a bhagavān] om. E. 3a evaitat] evetat A. 5d dvīpam] dīpam B. 6d
mahodadheḥ] madodadheḥ B. 7b balair] batair B. 7d kāladolākeli°] kāladolārkelī° B. 9d
sākampah] sākampa B. 11d gadgadah] gadgarah B. 12d śarmaṇe] karmaṇe B. 14c °na-
maskāra°] °manaskāra° B. 16b °m avalokanena] °bhavalokanena B. 16d parityajanti] par-
ityajeti B. 18a caturbhīr] caturbhi B. 19d vapuś] dapuś B. 20a tuṣāraugha] tuṣāraudha B.
24b °ābharanām] °āmaranām B. 24c dṛṣṭvopa°] dṛṣṭopa° B. 25c śrīḥ] śrī B. 27a mūlānām]
mūlānāmm B. 27c °nuttarām] °nuttarā A. 28b śākhinaḥ] śālinaḥ E.

APPENDIX

Avadānakalpalatā 梵文と蔵訳の語の対応関係の確認

将来の索引作りのために、最後に付録として、梵蔵を一字一句対照させておきたい。以下の表記に関する注意：梵文と蔵訳の語の対応関係を示す際に、代名詞と動詞と一部の副詞は、語尾変化が付いた活用形で示す。しかし名詞と形容詞については、語尾変化形を出さずに、基本的に語幹の形で示し、語幹の後に付けた1～8の数字で梵語の八つの格を示す。例：aśva1 = aśvaḥ, aśva2 = aśva (voc.), aśva3 = aśvam, aśva4 = aśvena, aśva5 = aśvāya, aśva6 = aśvāt, aśva7 = aśvasya, aśva8 = aśve. 両数と複数の場合も、格の表現には単数と同じ数字を用いる：aśva1 = aśvaḥ or aśvau or aśvāḥ.

第80章 Subhadra

/ gdungs par gyur kyang (= kadharmāna1) yid 'byung mi 'gyur zhing (= na udvegam āyānti) //
bslab pa (= *śikṣā-, v. note) bzung ba yis (= graha4) kyang (= api) phan pa (= hita3) brjod (= vadanti) // gzhan la phan pa dag la (= paropakāra8) cher (= haṭṭha-) zhugs pa (= pravṛtta1) //
dam pas (= sat1) mchog tu (= bhṛṣam) bdag nyid gdung ba (= ātmapīḍa1) bzod (= sahante) // 80.1 //

/ sngon tshe (= purā) dpal ldan (= śrīmat1) 'byer 'jig ni (= puraṇḍara1) // dga' bar 'dod pas (= priyakāmyā4) dga' ba yi (= priya7) // grogs po (= sakhi7) dri za'i rgyal po ni (= gandharvarāja7) // rab dga' dag gi (= supriya7) khang par (= gṛhaṃ) phyin (= yayau) // 80.2 //

/ de yis (= saḥ) der ni (= tatra) mchod pa dag (= pūjita1) // shin tu che zhing mang bas mchod (= bahumānena bhūyasā) // mdza' gcugs mnyes gshin ldan pa'i (= prañayivatsala1) lha (= deva1) // stan la 'khod *de (= āttāsana1) de la (= tam) smras (= avadat) // 80.3 //

/ rab dga' (= supriya) tshur shog (= ehi) sa la (= pṛthivī3) 'dong (= gacchāvaḥ) // sa yi bdag po (= pṛthivīpati7) bsod nams kyi (= puṇya-) // chu gter chen po (= mahodadhi, v. note) zas gtsang (= śuddhodana-) zhes // bya ba'i (= ākhyā7) sras su (= putra1) rab 'khrungs pa (= jāta1) // 80.4 //

/ de yis (= tena) rab zhi (= śama-) bdud rtsi (= amṛta1) thob (= prāpta1) // dge ba'i slad du (= kuśala5) 'gro la (= jagat7) des (= saḥ) // de ni (= tat-) yang dag 'god par (= saṃvibhāga3) mdzad (= kurute) // yu cag la yang (= āvayor api) mdzad par 'gyur (= kariṣyati) // 80.5 //

/ da lta (= saṃprati) bdag gis (= mayā) rgyud mangs la (= vīṇā8) // glu dbyangs (= gīti-) rgyun ni (= sārāṇā1) rab tu sbyar (= yojita1) // ji ltar (= katham) bdag 'gro (= gacchāmi) phyi nas ni (= paścāt) // bdag la (= me) bya ba dka' bar (= duṣkara1) 'gyur (= bhaviṣyati) // 80.6 //

/ zhes pa (= iti) des (= tena) brjod (= ukta1) brgya byin ni (= maghavan) // yid byung (= vi-manas) rang gi gnas su (= svapada3) song (= yayau) // sems ni yul la chags rnam la (= viṣayāsaktacitta7) // dge la (= kuśala-) mngon dga' (= abhirati1) ga la (= kutah) yod // 80.7 //

/ skabs der (= atrāntare) sdom brtson brtul zhugs can (= yativrata1) // rab bzang (= subhadra) mi yi 'jig rten gyi (= martyaloka8) // ku sha'i grong khyer (= kuśipurī8) mtsho yi 'gram (= saras-taṭa8) // u dumba ra'i nags na (= udumbaravana8) gnas (= tasthau) // 80.8 //

/ de *yis (= saḥ) u dumba ra'i shing (= druma3) // me tog (= mukulita4) gsar pas (= nava4) khyab pa (= vyāpta3) mthong (= dṛṣṭvā) // mig ni (= nayana1) ya mtshan gyis (= vismaya-) rgyas pas (= utphulla-) // shin tu yang dag (= su-) yun ring (= ciram) bsams (= samacintayat) // 80.9 //

/ u dumba ra'i (= udumbara-) nags tshal (= vana8) 'di (= asmin) // rgyal ba (= jina-) 'khrungs na (= janman8) me tog dpal (= mukulaśrī1) // 'byung zhing (= jāyante) 'khor los sgyur ba dag (= cakravartin-) // 'byung na (= udbhava8) yang ngo (= api) gzhan du min (= nānyathā) // 80.10 //

/ yang na (= atha vā) bdag gi (= mama) bsod nams kyis (= puṇya4) // rmad byung (= adbhuta1)
'di ni (= idam) yang dag skyes (= saṃjāta1) // zhes pa (= iti) bsams nas (= cintayitvā) rab bzang
ni (= subhadra1) // kun dga' (= ānanda-) rab tu rgyas par (= nirbhara1) gyur (= babhūva) // 80.11
//

/ de nas (= atha) slar yang (= punar) 'chi med (= amartya-) bdag (= pati1) // song nas (= gatvā)
rab dga' dag la (= supriya3) smras (= abravīt) // dam pa (= sādhu1) rang gi (= nija-) bya ba (= kārya) bas (cf. adhika-) // gzhan gyi bya bar (= parakārya8) brtson pa (= udyoga1) lhag (= adhi-
ka-) // 80.12 //

/ sa gzhi'i (= kṣititala-) zla ba (= indu4) bde gshegs kyis (= sugata4) // bstan pa'i (= deśanā-) 'od
kyis (= aṃśu4) thams cad ni (= viśva3) // rab tu gsal ba'i (= prakāśita3) sa gzhi la (= kṣiti3) //
rab dga' (= supriya2) tshur shog (= ehi) 'u cag 'dong (= gacchāvaḥ) // 80.13 //

/ de la rab dgas (= supriya1) smras pa (= avadat) lha (= deva2) // rgyud mangs la ni (= vīṇā8) glu
dbyangs (= gīti-) rgyun (= sāraṇā1) // bdag gis (= mayā) rab tu sbyar ba (= yojita1) 'di (= iyam) /
/ phyi nas (= paścāt) bya ba sla (= sukara1) mi 'gyur (= na bhaviṣyati) // 80.14 //

/ zhes thos (= ity ākarṇya) 'chi med bdag po ni (= amarapati1) // yid la re ba (= manoratha1)
nyams par gyur (= mlāna-) // 'bad med (= ayatna-) bdud rtsi (= amṛta3) nyer gnas pa (= upana-
ta3) // bsod nams dman nmams (= hīna-puṇya1) 'thung ba min (= na pibati) // 80.15 //

/ dus kyis (= kālena) u dumba ra'i nags (= udumbaravana3) // me tog rab rgyas (= utphul-
lakusuma-) dri bzang gis (= āmoda) // phyogs mtshams (= digantara3) kun tu khengs gyur pa (= saṃpūrita-) // rab bzang gis (= subhadra1) kyang (= api) mthong bar gyur (= vyalokayat) //
80.16 //

/ de yis (= saḥ) bsams pa (= acintayat) me tog gi (= kusuma1) // tshal ni (= vana1) rnam par
rgyas pa (= vikāsin-) 'di (= etat) // ston pa (= śāstr7) dam chos ston pa (= dharmapravartana8)
dang (= vā) // 'khor los sgyur ba'i (= cakravartin7) rgyal la (= jaya8) 'gyur // 80.17 //

/ yang na (= vā) bdag gi bsod nams (= matpuṇya7) mthus (= prabhāva6) // ma lus (= nikhila1)
tshal ni (= vana1) me tog rgyas (= puṣpita1) // zhes pa (= iti) sems pa (= cintayat7) de la ni (= ta-
sya) // dregs dang dga' ba (= darpapṛīti1) rab tu skyes (= ajāyata) // 80.18 //

/ de nas (= atha) dge sbyong (= śramaṇa1) dgra bcom (= arhattvam) thob (= āgata1) // **sangs
rgyas** (= buddha-, v. note) zhes bya (= abhidha1) mngon phyogs te (= abhyetya) // de ni (= tam)
rdzu 'phrul gyis (= ṛddhi4) btul nas (= parājitya) // rab zhi (= praśanta-) **rang bzhin** (= *maya?,
v. note) rgyas par (= udaya3) byas (= cakāra) // 80.19 //

/ de nas (= tataḥ) dus kyis (= kālena) bcom ldan 'das (= bhagavat1) // rgyal bas (= jina1) 'gro ba'i
don (= jagatkārya3) mdzad nas (= kṛtvā) // yongs su myang 'das la (= parinirvāṇa3) rtog cing (= kalayat1) // tha ma'i (= paścima8) gzims mal dag la (= śayana8) gnas (= sthita1) // 80.20 //

/ re zhig (= tāvat) gdul bya (= vineya1) 'dul ba la (= vinaya8) // nnam par bkod byed (= viniveśi-
 ta1) rab tu bsams (= pradadhyau) // rab bzang (= subhadra1) dang ni (= ca) dri za dag (= gand-
 harva1) // rab dga' (= supriya1) de yang (= saḥ) bdag gi (= me) lhag (= avaśiṣṭa1) // 80.21 //
 / rab bzang (= subhadra1) tshegs ni chung ngu yis (= akleśa4) // 'dul ba (= vinaya3) rab tu thob
 par 'gyur (= pratipadyate) // dri za (= gandharva1) lang tsho (= tāruṇya-) 'byor pa yis (= vibha-
 va-) // myos pa (= unmada1) tshegs kyis (= kṛcchra-) 'dul bar 'gyur (= anuśāsa1) // 80.22 //
 / zhes pa (= iti) bsams nas (= saṃcintya) de bzhin gshegs (= tathāgata1) // dri za'i (= gandharva-)
 grong khyer dag tu (= pura3) byon (= gatvā) // dri za'i rgyal po (= gandharvarāja3) gzhan pa ni
 (= aparā3) // mdzes pa lhag par **mngon par** (= abhyadhikadyuti3, v. note) sprul (= nirmame) //
 80.23 //
 / bai ḍūrya yi (= vaiḍūrya-) dbyug pa can (= daṇḍa3, bahuv.) // rgyud mangs (= vīṇā3) rgyud (=
 tantrī-) stong (= sahasra-) sbreng byed cing (= avādayat) // 'gran pas (= spardhā4) rab dga'i (=
 supriya7) rgyags pa ni (= mada-) // nyams par byed la (= ucchedaṃ kartum) brtson par gyur (=
 udyayau) // 80.24 //
 / rim gyis (= krameṇa) rgyud ni (= tantrī-) bcad gyur kyang (= cheda8) // de dag (= tau) sgra
 dbyangs **kun rdzogs pa** (= sarva-svara-mūrchanā3) // ston par byed pa (= darśayat) mthu yis ni
 (= prabhāva4) // khyad par med pa dag tu (= nirviśeṣa1) 'gyur (= babbhūvatuḥ) // 80.25 //
 / rgyud ni (= tantrī7) thams cad (= sarva-) bcad gyur (= cheda4) kyang (= api) // dri za'i (= gand-
 harva-) 'dren pa dag gis ni (= nāyaika) // **dbyangs kyi** (= svara-) **tshogs ni** (= *grāma?) rab tu
 bstan (= adarśayat) // rab dga' yis ni (= supriya1) nus ma gyur (= na śaśāka) // 80.26 //
 / de nas (= atha) khengs dang dregs (= mānadarpa7) btang ba (= saṃtyakta-) // de la (= tasya)
 bcom ldan (= bhagavat1) rgyal ba yis (= jina1) // lus ni mngon byung (= pratyakṣa-vigraha1)
dag pa *yis (= *śuddha1, v. note) // dam pa'i chos ni (= saddharma-) bstan pa (= deśanā3)
 mdzad (= cakre) // 80.27 //
 / 'jig tshogs lta ba'i (= satkāyadṛṣṭi-) ri bo ni (= śaila8) // ye shes (= jñāna-) rdo rjes (= vajra4)
 nnam bcom ste (= vidārīta8) // de yis (= saḥ) rgyun zhugs (= srotahprāpti-) 'bras bu ni (= phala3)
 // rab tu zhi slad (= praśānti5) mngon du byas (= sāksāc cakāra) // 80.28 //
 / dus kyis (= kālena) u dumba ra yi (= udumbara-) // nags kyi (= vana8) rab dga' (= ramya1) me
 tog tshogs (= kusumasamcaya1) // rgan po dag gi (= vṛddha7) longs spyod (= saṃbhoga1) bzhin
 (= iva) // dal bus (= śanakaiḥ) rab tu nyams par gyur (= mlānim āyayau) // 80.29 //
 / me tog nyams pa (= mlānapuṣpa3) de (= tat3) mthong nas (= ālokyā) // rab bzang (= sub-
 hadra1) mya ngan (= śoka-) rgya yis thebs (= mudrita1) // **nges pa nyid du** (= ?) bdag nyid kyi
 (= ātman7) // bsod nams min las (= apuṇya7) skyes par (= udbhava3) bsams (= acintayat) //
 80.30 //

/ bsam pa'i (= cintā-) me yis (= anala-) gdungs (= saṃtapta3) de la (= tam) // u dumba ra'i nags
kyi (= udumbaravana-) dpal (= śriyā1) // lha mos (= devatā1) mngon phyogs (= abhyetya) rab
smras pa (= uvāca) // don med (= vṛthā) mya ngan (= viśāda3) yongs ma byed (= mā kṛthāḥ) //
80.31 //

/ mthu ldan (= *prabhāvāḍhya? vocative?) khyod kyi (= tava) bsod nams kyis (= puṇya4) //
tshal (= vana1) 'di (= idam) me tog rgyas pa min (= na kusumita1) // khyod kyi (= tava) bsod
nams ma yin pas (= apuṇya4) // nyams min (= na mlāna1) 'di yi (= atra) rgyu dag (= kāraṇa3)
nyon (= śrūyatām) // 80.32 //

/ bde gshegs (= sugata7) nyid ni (= eva) 'khrungs pa na (= jāyante) // me tog (= puṣpa1) 'di dag
(= etāni) 'byung 'gyur te (= jāyante) // bla med ye shes (= anuttarajñāna-) brnyes pa na (= lāb-
ha8) // kun nas (= samantataḥ) rab tu rnam par rgyas (= vikasanti) // 80.33 //

/ mya ngan 'das la (= parinirvāṇa8) nye ba na (= āsanna8) // nyams pa (= mlāyanti) dang ni (= ca)
ltung bar 'gyur (= nipatanti) // ku *shi'i grong na (= kuśipurī8) de bzhin gshegs (= tathāgata1)
// yongs su mya ngan 'da' bar (= parinirvāṇa3) bzhed (= īhate) // 80.34 //

/ nags kyi dpal mo'i (= kānanaśrī7) tshig (= vacana3) 'di dag (= etat) // rab bzang gis ni (= sub-
hadra1) thos gyur nas (= ākarṇya) // ring zhing (= dīrgham) dro ba'i (= uṣṇam) shugs btang ste
(= viniśvasya) // shin tu yun ring (= suciram) yang dag bsams (= samacintayat) // 80.35 //

/ ston pa'i (= śāstrī7) chos ni 'dul ba la (= dharmavinaya8) // bdag ni (= aham) snod du 'gyur bar
shog (= bhājanatām yāsyāmi) // ces pa (= iti) 'di ni (= eṣaḥ) bdag (= mama) snying la (= hṛdaya8)
// rtag tu (= nityam) re ba (= āsā-) bcings par gyur (= bandha1) // 80.36 //

/ gang gis (= yaiḥ) ston pa'i (= śāstrī7) zhal gyi pad (= vadanāmbuja1) // mthong zhing (= dṛṣṭa1)
chos kyi (= dharma-) gsung rab la (= pravacana8) // dge ba'i (= kuśāla-) dga' ston (= utsava1)
yongs rdzogs pa (= saṃpūrṇa-) // nyon mongs bral ba (= viratakleśa1) de dag (= te) bsngags (= dhanya1) // 80.37 //

/ da ni (= idānīm) mya ngan rab zhi'i (= śokaprasāma-) grogs po (= suhṛd7) mi bzad (= tīvra-)
sred pas (= tṛṣṇā-) gzir ba'i (= ārta-) gnyen (= bandhu7) // su yi (= kasya) bzhin ras (= vadana-)
ri bong can las (= śāśin6) rab 'khrungs (= saṃpravṛtta3) rab tu rgyas pa'i (= pravṛddha-) gsung (= vācas3)
// ye shes snang bas (= jñānāloka-) dkrigs shing (= prasara-) rab mdzes (= rucira3) bsod
nams (= puṇya-) bdud rtsi dag gi (= pīyūṣa-) rgyun (= dhārā3) // srid pa'i (= bhava-) mya ngam
(= marutaṭa8) gdung bar (= tapta8) 'jig rten (= loka1) nyan pa'i snod kyis (= śrotrapātra4) 'thung
bar 'gyur (= pāsyati) // 80.38 //

/ gang na (= yatra) bcom ldan (= bhagavat1) rgyal ba (= jina1) bzhugs (= āste) // ku *shi'i grong
du (= kuśīpura3) bdag (= aham) 'gro'o (= gacchāmi) // tha mar (= paścimaṃ) de (= tasya)
mthong (= darśana3) bdag gis ni (cf. prāpsyāmi) // gal te (= yadi) rnyed slar (= sulabha3) thob
par 'gyur (= prāpsyāmi) // 80.39 //

/ zhes bsams (= iti saṃcintya) spro ldan (= sotsāha1) de yis ni (= saḥ) // lus mi snang bar (= an-
 tarhitatanu1) skad cig las (= kṣaṇāt) // yid ltar mgyogs pas (= manojava1) gyad kyi (= malla-)
 gnas (= āśraya3) // ku *shi'i grong khyer dag tu (= kuṣipuri3) phyin (= āśasāda) // 80.40 //
 / me tog (= kusuma-) dga' tshal (= ārāma-) sā la zung (= yamakaśāla-) // zhes pa'i (= ākhyā8)
 tshal na (= vana8) rab gzims pa (= śāyin7) // rgyal ba'i (= jina7) sgor gnas (= dvāḥṣtha3) dga' bo
 la (= ananda3) // de yis (= saḥ) nang du 'jug pa (= praveśa3) zhush (= ayācata) // 80.41 //
 / de nas (= atha) dal gyis (= śanaiḥ) kun dga' bos (= ānanda1) // sor mo (= aṅguli-) gdangs shing
 (= unnata-) g.yo ba yis (= dolā4) // nang 'jug (= praveśa-) bsaṃ pa (= āsā3) zlog byed cing (=
 nivārya) // chung chung (= mandamanda-) sgra yis (= svana1) de la (= tam) smras (= jagāda) //
 80.42 //
 / khyod kyi (= tava) dri dang lung ston la (= prāśnavyākaraṇa8) // rab bzang (= subhadra2) da lta
 (= ayam) gnas skabs (= avasara1) med (= na) // de bzhin gshegs pa (= tathāgata1) zhi ba'i slad (=
 śānti5) // sku ni (= kāya-) yongs su mnyel zhing (= pariśrānta1) bzhugs (= viśrāmyati) // 80.43 //
 / skye bo (= jana1) 'di dag (= ayam) pha rol gyi // gdung ba (= paravyathā-) mi shes (= anabhi-
 jñā1) rang don (= svārtha3) gnyer (= arthayate) // kun tu (= sarvathā) ji lta (= yathā) de lta yang
 (= tathā) // gnas skabs dag ni (= avasara3) mi sems so (= na cintayati) // 80.44 //
 / gang zhig (= yaḥ) yul (= deśa3) dus (= kāla3) mi shes par (= avijñāya) // 'phral la (= sahasā)
 slong ba nyid gyur pa (= arthitām yāti) // de dag (= saḥ) bzhed don (= *saṃhita3) rab btang nas
 (= utsrjya) // ngo tsha (= lajjā3) blangs te (= ādāya) 'gro ba nyid (= gacchati) // 80.45 //
 / rgyal ba'i (= jinasya) sku ni (= tanu-) zhi ba'i tshe na (= saṃśamana5) ljon pa (= taru1) 'di dag
 kyang (= ete 'pi) // yal 'dab (= pallava-) 'khri shing (= latā-) rab tu nyal zhing (= saṃsupta-) **nges
 par** (= eva) mi g.yo la (= na calanti) // chu klung dag ni (= sarit1) mnam par dud cing (= vinata1)
 mgyogs pa (= vega3) btang nas (= vihāya) bgrod (= prayānti) // rlung (= samīra1) yang (= ca) de
 bzhin (= tathā) 'phral la (= prasahya) rab tu g.yo zhing (= turam?) bgrod ma yin (= na vānti) //
 80.46 //
 / de ltar (= iti) kun dga' bo yis ni (= ānanda4) // 'bad pas (= yatna4) yang dang yang du (= punaḥ
 punaḥ) bzlog (= vāryamāṇa1) // re ba nyams pas (= āśābhaṅga-) rab 'khrugs pa (= samudbhrān-
 ta1) // rab bzang gis ni (= subhadra1) de la (= tam) smras (= abhāṣata) // 80.47 //
 / gzir ba yis ni (= ārta1) skabs (= avasara3) mi shes (= na jñāmi) // slong la (= arthin7) dang
 zhing (= prasīda) brtse bar mdzod (= dayā4?) // rgyal ba (= jina3) mnyed sla (= sulabha3) rab tu
 ston (= darśaya) // rtsub po (= niṣṭhura1) **'di ltar** (= *evaṃ) *yong ma mdzad (= mā bhava) //
 80.48 //
 / grib bsil dag la (= chāyā8) nye bar 'khod cing (= upaviśya) bsil bas (= śītalatā4) rab dga'i (=
 pramoda-) dga' ston (= utsava4) thob gyur pa (= labdha-) // rtag tu (= sadā) gsar pa gsar pa'i (=
 navanava4) lam 'gron (= adhvaga4) 'dzegs shing (= āruhya) 'bras bu 'dzin pas (= ātaphala4) gzir

ba'i shing (= saṃpīḍita7) // brten pa dag la (= āśrita-) mnyes gshin (= vatsala7) slong ba kun gyi
(= sarvārthin7) gzhi ni (= ādhāra7) rnyed slar gyur pa yi (= sulabha-) // lo ma dag ni (= śākhā-)
bcom dang (= bhañjana-) dkrugs dang (= moṭana-) rab tu drangs pa'i (= prasaraṇa-) nyon mongs
'phreng ba (= kleśāvalī3) su yis (= kaḥ) shes (= janāti) // 80.49 //

/ de ltar (= iti) 'bad pas (= yatna6) rab bzang *gis (= subhadra4) // yang dang yang du (= punaḥ
punaḥ) zhus gyur (= yācita1) kyang (= api) // dgag pa (= pratiṣedha-) brgya yis (= sata4) kun
dga' bos (= ānanda1) // de ni (= tam) kun dga' med par (= nirānandam) bsgrubs (= vyadhāt) //
80.50 //

/ bcom ldan (= bhagavat1) kun mkhyen (= sarvajña1) gzims mal du (= śayyā3) // lha yi gnas las
(= surālaya6) mngon phyogs te (= etya) // rab bzang (= subhadra1) nang du thong zhig (= prav-
iśatu) ces (= iti) // kun dga' bo la (= ānanda3) gsung cher (= uccais) gsungs (= avadat) // 80.51 //
'jug pa thob ste (= labdhapraveśa1) nor med kyis (= adhana1) // gter (= nidhi3) bzhin (= iva)
bde gshegs (= sugata3) mthong gyur nas (= dṛṣṭvā) // rab bzang (= subhadra1) gdong ni mchi ma
dang // bcas pas (= sāsruvadana1) phyag 'tshal (= praṇipatya) der (= tam) gsol pa (= jagāda) //
80.52 //

/ bcom ldan (= bhagavat2) **de ring** (= adya, v. note) 'jig rten ni (= bhuvana7) // skal bas (= bhā-
gya-) dbul ba nyid (= daridratā1) 'di (= iyaṃ) ci (= kā) // de ring (= adya) khyod kyis (= bha-
vat4) btang gyur pa (= saṃtyakta7) // snang med dag gi (= nirāloka7) 'gro ba (= gati1) *ci (= kā)
// 80.53 //

/ bshes gnyen (= mitra3) khyod dang bral ba na (= tvām vinā) // su *yis (= kaḥ) ye shes snang ba
yis (= jñānāloka4) // 'gro ba'i padma (= jagatpadma7) rmongs pa yi (= moha-) // gnyid kyi (= nidrā-)
rgya ldan (= āptamudra7) rgyas byed 'gyur (= bodhanaṃ kariṣyati) // 80.54 //

/ mtha' dag (= samasta-) 'gro la (= jagat7) rgyu med du (= akāraṇa3) // phan pa dag ni (= up-
akāra3) rab mdzad nas (= kṛtvā) // kun la (= sarva-) rnyed pa sla ba (= sulabha1) khyod (cf.
prayāsi) // bdag la (= mama) rnyed dka' ji ltar gyur (= kathaṃ durlabhatām prayāsi) // 80.55 //

/ zhes pa (= iti) de yis (= tena) gus pas (= praṇaya6) gsol (= ukta1) // de la (= tam) bcom ldan (= bhagavat1)
'dzum ldan zhing (= sasumita1) // bzhin gyi (= mukha-) chu skyes (= ambuja3)
gzengs bstod de (= samunnāmya) // rab dang (= prasanna-) mdzes pas (= kānti1) bka' stsal pa (= abhāṣata) // 80.56 //

/ mnyes gshin (= vatsa2) rtag tu (= nitya3) mi rtag nyid (= anityatā3) // 'di (= imām) khyod (= tvam)
rig pa min nam ci (= na vetsi) // 'du byed thams cad (= sarvasaṃskāra1) skad cig la (= kṣaṇika1) // lus kyi gdon (= dehagraha-) 'di (= ayam) su zhig (= kaḥ) 'dzin (= āgraha1) // 80.57 //
'gang dag (= yāni) rtag tu (= sadā) nyin byed (= dinakṛt-) 'khor bas (= bhrama-) rab bzlas pa'i (= nirgata1) // mtshan mos (= kṣapā-) bkra ba'i (= śabalita1) nyin *pa (= dina1) ring du (= ciram)
rab 'gro ba (= prayānti) // mi yi 'tsho ba rnams kyi (= nrjīvita7) dge ba (= kuśala1) 'di dag ni (=

etāni) // rgya che (= pr̥thu-) dus kyi 'khor lo (= kālacakra-) lhung bas (= nipatat-) gcod pa nyid (= saṃśātita1) // 80.58 //

/ ri (= śaila1) 'di (= ete) snyil 'gyur (= dalanti) chu gter 'jing ni (= jaladhivalaya1) mchog tu (= param) bskam (= śuṣyati) // rab skyes (= udbhūta4) 'byung po (= bhūta4) dang bcas (= saha) srid pa'i (= bhuvana-) lam (= saraṇi1) rab 'jig (= bhraśyati-tarām) // ri dwags (= hariṇī-) skrag (= cak-ta-) mig ltar (= locana-) g.yo (= cala8) snying po med (= asāra8) 'khor bar (= saṃsāra8) // mang du (= bahu-) yongs 'driś (= paricaya1) lus kyi tshogs (= kāyanicaya1) 'di (= ayam) brtan gnas min (= na cirasthāyin1) // 80.59 //

/ zhes pa (= iti) gsungs nas (= abhidhāya) bcom ldan gyis (= bhagavat1) // rab tu zhi slad (= praśānti5) rab bzang la (= subhadra7) // bden pa'i lam ni (= satyapathin7) gsal ba'i (= vyakta-) gtam (= kathā3) // rab dang (= prasāda-) kun dga' ldan par (= ānandin3) mdzad (= cakre) // 80.60 //

/ dbyig pa gsum dang (= tridaṇḍa-) ril ba'i tshogs (= kuṇḍī-, or kuṇḍin, v. note) // lam 'gron gyis ni (= adhvaga1) khur (= bhāra3) bzhin (= iva) btang (= tyaktvā) // ston pa'i (= śāstr7) bka' la (= śāsana8) rab byung ni (= pravrajyā3) // de nas (= tatas) rab bzang dag gis (= śubhadra1) blangs (= ādāde) // 80.61 //

/ de nas (= atha) nyon mongs kun (= sarvakleśa-) bcom pas (= saṃkṣaya6) // dgra bcom gnas ni (= arthatpada3) thob gyur nas (= āsādyā) // bsams pa (= acintayat) kye ma (= aho) bdag gi ni (= mama) // slob ma nyid (= śiṣyatā1) 'di (= ayam) 'os pa (= ucita1) min (= na) // 80.62 //

/ bdag *gis (cf. paśyāmi) mdun du (= agra8) bcom ldan 'das (= bhagavat7) // mya ngan 'da' ba (= parinirvāṇa3) ji ltar (= katham) blta (= paśyāmi) // de slad (= tasmāt) sngon du (= pūrvam) lus btang nas (= dehaṃ vihāya) // bdag ni rang gi gnas dag (= svapada3) bsten (= bhaje) // 80.63 //

/ zhes (= iti) bsams (= saṃcintya) byin brlabs (= adhiṣṭhāna-) lnga dag ni (= pañca-) // bsten pa (= saṃśraya1) de yis (= saḥ) dal bu yis (= śanaiḥ) // gdengs can (= phaṇin-) shun pa dor ba ltar (= nirmokakalā4) // yongs su mya ngan 'das pa (= parinirvṛti3) thob (= āptavat1) // 80.64 //

/ de nas (= atha) de yi (= tasya) lus sbyong la (= dehasatkāra8) // dge slong mams dang (= bhikṣu7) mu stegs dag (= tīrthika4) // su yi (= kasya) tshangs spyod dang ldan (= brahmacārin1) zhes (= iti) // rnam par rtsod pa (= vivāda1) yang dag skyes (= samajāyata) // 80.65 //

/ de nas (= atha) mu stegs byed mams kyis (= tīrthika8) // de yi (= tasya) sgrub byed cho ga la (= kriyāvidhi8) // khyogs (= śibikā3) khyer (= voḍhum) ma nus (= asakta8) song ba'i tshe (= prayā-ta8) // dge slong tshogs kun dag gis (= sarvabhikṣugaṇa1) bsgrubs (= *vyadhāt) // 80.66 //

/ de nas (= atha) de yi (= tasya) gdung gi tshogs (= śārānicaya-) // mchod rten (= stūpa3) byas nas (= kṛtvā) dge slong *gis (= bhikṣu4) // sngon la (= pūrvam) mya ngan 'da' ba yi (= parinirvāṇa-) // rgyu mtshan (= kāraṇa3) bde bar gshegs la (= sugata3) driś (= papracchuḥ) // 80.67 //

/ de dag la ni (= tñ) des (= saḥ) gsungs pa (= uvāca) // bā rā ṇa sīr (= vārāṇasīṣ) sngon (= purā) bram ze (= vipra1) // mya ngan med pa (= aśoka1) ston pa ni (= śāstr7) // 'od srungs (= kāśya-pa-) srog mtshungs (= prāṇasama1) grogs su gyur (= suhrd1) // 80.68 //

/ mtha' yi (= paryanta-) mal stan la (= śayana-) gnas pa (= sthiti6) // de las (= tasmāt) de yis (= saḥ) 'dul ba'i chos (= dharmavinaya3) // lha yis (= devatā-) 'thob par byas (= prāpita1) thob nas (= prāpya) // bsngags par 'os pa'i (= ślāghya3) dgra bcom (= arhattva3) thob (= āptavat1) // 80.69 //

/ gus pa'i (= bhakti-) ngang tshul (= śīla1) de yis (= saḥ) lus (= vighraha3) // rang gi bla ma'i (= svaguru7) mdun du (= agra8) btang (= atyajat) // de nas (= atha) *de ni (= tam) lha yis (= devatā1) der (= tatra) // mthong nas (= dṛṣṭvā) smon lam (= praṇidhāna3) rab tu btab (= akarot) // 80.70 //

/ ji ltar (= yathā) legs byas ldan pa (= sukṛtin1) 'di (= ayam) // 'od srungs (= kāśyapa7) sngon du (= agra8) yongs 'das pa (= parinirvṛta1) // de bzhin (= tathā) bdag kyang (= aham api) bla ma'i (= guru7) mthar (= anta8) // sngon du 'gro ba por (= gāmin) gyur cig (= bhūyāsam) // 80.71 //

/ lha de (= sā devatā) rab bzang (= subhadra1) 'di nyid (= ayam) de // mnam par dag pa'i (= viśud-dha4) smon lam (= praṇidhāna4) dang // dad pa (= śraddhā-) de yis (= tena) legs byas pa (= satkṛta1) // bdag gi (= mama) mdun du (= agra8) lus dag btang (= tyaktavighraha1) // 80.72 //

/ ston pa (= śāstr7) log par dad sel gyi (= krakucchanda7) // mtha' yi (= paścima8) gzims mal dag la (= śayana8) sngon (= purā) // lha *yis (= devatā4) rang gis (= svayam) khrid gyur pa'i (= ānīta3) // thub pa (= muni7) brgya phrag lnga dag ni (= śatapañcaka3) // 80.73 //

/ dgra bcom gnas (= arhatpada3) thob (= prāpta-) gus pa yis (= bhakti4) // sngon du (= agra8) lus btang (= tyaktavighraha3) mthong gyur nas (= ālokya) // mnam pa de lta'i (= tadvidha-) smon lam gyis (= praṇidhāna4) // de nyid (= saiva) rab bzang nyid du gyur (= subhadratām yātā) // 80.74 //

/ lus la (= deha-) rang bzhin gyis (= svabhāva-) skyes pa (= ja) // mthar thug (= paryanta-) nye ba'i (= upanata3) gdung ba (= vyathā3) 'di (= etām) // bzod par byed cing (= sahamāna4) bdag gis (= mayā) de (= saḥ) // gdung ba med pa'i (= nirvyatha3) gnas su (= pada3) bkod (= prāpita1) // 80.75 //

/ de ni (= saḥ) mi bdag (= nrpa1) tshangs byin (= brahmadatta1) dang (= ca) // bdag kyang (= aham) rtar (= aśva1) gyur (= abhūt) the tshom la (= saṃśaya8) // bdag ni (= mayā) rgyu ma dral bas (= chinnāntra4) kyang (= api) // de ni (= saḥ) dgra yis (= śatru-) bcom pa (= vitasta1) bsgral (= tārita1) // 80.76 //

/ kanyā kub dza'i nags su (= kanyakubjavana8) sngon (= pūrvam) // nga ni (cf. abhavaṃ) ri dwags (= mṛga-) khyu bdag (= yūthapa1) gyur (= abhavaṃ) // rab bzang (= subhadra1) khyu yi nang nas ni (= yūthamadhya8) // bdag gi (= mama) rjes 'brang (= anuga1) ri dwags (= mṛga1) gyur (= abhūt) // 80.77 //

/ nags su (= vana⁸) sa bdag (= bhūbhuj⁴) karṇa ni (= karṇa⁴) // rñgon la (= mṛgayā-) 'ongs pas
 (= āpta⁴) bkag gyur te (= saṃruddha⁸) // chu klung (= taṭinī-) ngogs su (= tīra⁸) ri dwags nmams
 (= mṛga⁷) // skrag cing (= trasta⁷) dga' ba med par gyur (= nābhavad *ratih, v. note) // 80.78 //
 / de nas (= tataḥ) chu klung (= sarit-) nang du ni (= madhya⁸) // g.yo med (= niścala⁴) bdag gis
 (= mayā) rab tu babs (= avatīrya) // bdag gi (= mad-) rgyab tu (= prṣṭha-) rkang (= caraṇa¹) bkod
 pas (= nyasta-) // ri dwags (= mṛga¹) 'jigs pa (= bhīta¹) de dag (= te) bsgral (= tārita¹) // 80.79 //
 / de dag (= tad-) rñig pa (= khura-) bkod pas (= āpāta-) bdag (= mayi) // nyams shing (= dalita⁸)
 'chi ba 'dod gyur tshe (= mumūrṣutām yāta⁸) // ri dwags (= harīṇa¹) de nyid (= sa eva) gcig pu
 ni (= eka¹) // de tshe (= tadā) rkyal zhing (= plavat¹) 'ongs par gyur (= āptavat¹) // 80.80 //
 / skrag pas (= trāsa-) nyen pa (= tarala³) de (= tam) *bdag gis (= aham) // gdung ba (= vyathā³)
 bzod dka' (= duḥsaha³) brnags byas te (= saṃstabhya) // myur bar (= tūrṇam) snying rjes (=
 kāruṇya⁶) yang dag bsgral (= saṃtārya) // 'jug ngogs (= pulina⁸) der ni (= ?) shi bar gyur (= nid-
 hanaṃ gata¹) // 80.81 //
 / de nyid (= sa eva) rab bzang (= subhadra¹) de ring (= adya) yang // gdung ba dang bcas (=
 savyatha⁴) bdag gis (= mayā) bsgral (= tārita¹) // zhes gsungs (= ity uktvā) bcom ldan (= bhaga-
 vat¹) zhi ba la (= śama-) // mñgon phyogs (= unmukha¹) mi gsung nyid la (= mauna³) brten (=
 ālālamba) // 80.82 //
 / dge slong nmams kyis (= bhikṣu⁴) rab dga' (= supriya⁷) yang (= api) // dge ba thob pa'i (=
 kuśalāvāpti⁸) rgyu mtshan (= kāraṇa³) dris (= prṣṭa¹) // gus pas (= praṇayin-) mnyes gshin (=
 vatsala¹) kun mkhyen gyis (= sarvajña¹) // dal bu yis ni (= śanais) rab tu gsungs (= provāca) //
 80.83 //
 / ston pa (= śāstr⁷) 'od srungs dag gi ni (= kāśyapa⁷) // dge bsnyen (= upāsaka¹) blo bzang (=
 sudhī¹) zhes bya ba (= nāma) // de yi (= tad-) drin gyis (= prasāda-) bslab gnas ni (= śikṣāpada-)
 // yongs rdzogs thob cing (= paryāpta-) blo gnas gyur (= niṣaṇṇadhī¹) // 80.84 //
 / de yis (= saḥ) dri za'i tshogs kyi (= gāndharvikagaṇa-) mchog (= uttama³) // glu dbyangs
 mkhas pa (= gītikuśala³) mthong gyur nas (= drṣṭvā) // dri za'i (= gandharva-) bdag po nyid *kyi
 ni // ched du (= adhipatām prati) smon lam (= praṇidhāna³) rab tu bsgrubs (= pravidadhe) //
 80.85 //
 / de ni (= saḥ) smon lam (= praṇidhāna⁴) de nyid kyis (= tena) // rab dga' nyid du (= supriyat-
 va³) nye bar gyur (= upāgata¹) // bslab pa'i gnas ni (= śikṣāpada-) yongs bzung nas (= parigra-
 ha⁶) // 'dul ba'i chos ni (= dharmavinaya¹) yang dag thob (= saṃprāpta-) // 80.86 //
 / rab bzang rab dga' (= subhadrasupriya) 'di dag ni (= etau) // bdag gis (= mayā) dge ba ldan par
 (= kuśalin¹) byas (= kṛta¹) // gzhan gyi (= para-) mñgon 'dod (= abhimata-) byas pa la (= kṛtya⁸)
 // kun tu (= sarvathā) bdag ni (= vayam) gdung ba med (= nirvyatha¹) // 80.87 //

/ grong khyer (= nagara8) **mchod 'os** (= *pūjitocita-? v. note) zhes bya ba (= saṃjñā8) // mtho ris dag (= svarga-) dang mtshungs par ni (= saṃnibha8) // mi bdag (= nṛpa1) dpal ldan (= śrīmat1) brgya byin (= śatakratu1) bzhin (= iva) // nmam par rgyal ba (= vijayanta-) zhes pa (= abhidha1) byung (= abhūt) // 80.88 //

/ bsod nams la ni (= puṇya-) rab zhugs (= pravṛtta7) de'i (= tasya) // chos lam (= dharmamārga-) rjes su 'brang ba yi (= anuyāyin4) // grong pa (= paura4) mtho ris (= tridiva3) bgrod nmams kyis (= vrajat4) // lha yi sa gzhi (= surabhūmi1) khengs par gyur (= pūrta1) // 80.89 //

/ rgyal po (= rājan7) de yi (= asya) bsod nams (= puṇya-) mthus (= anubhāva4) // mi *yis (= nara4) mtho ris (= svarga1) kun gang ba (= āpūrta3) // mthong nas (= dṛṣṭvā) lha yi dbang po yis (= sureśvara1) // snying stobs (= sattva3) shes 'dod (= jñātum) sbyor ba (= yukti3) byas (= cakāra) // 80.90 //

/ de nas (= tatas) **brgya byin gyis** (= tad-) sprul pa'i (= nirmita1) // sems can gdug pas (= krūra-sattva1) sa yi bdag (= pṛthivīpati3) // de la (= tam) lus ni bcad pa yi (= śārīraṇiṣkṛta3) // sha (= māṃsa3) dang (= ca) khrag dag (= rudhira3) rab tu bslangs (= yayācire) // 80.91 //

/ mi bdag (= nṛpa1) blo gros (= mati1) nmam 'gyur med (= nirvikāra-) // de *yis (= saḥ) mngon 'dod (= abhimata3) rus pa'i lhag (= asthiśeṣa3) // de dag nmams la (= tebhyah) byin nas ni (= dattvā) // **bsam pa** chen pos (= *mahāśaya1, v. note) smon lam (= praṇidhāna3) btab (= pravi-dadhe) // 80.92 //

/ lus kyi sbyin pa'i (= śārīradāna-) bsod nams (= puṇya4) 'dis (= etena) // lus can nmams ni (= śārīrin7) bsgral ba'i slad (= tāraṇa5) // bla med (= anuttara3) yang dag rdzogs pa yi // byang chub (= samyaksambodhi3) **chen po** (= ?, v. note) thob par shog (= āpnuyām) // 80.93 //

/ de nas (= atha) brgya byin (= śakra1) der (= tam) phyogs (= etya) smras (= ūce) // rgyal po (= rājan) rab gdung (= pravayathita7) khyed kyi ni (= te) // lus ni (= deha-) rab tu byin pa la (= pradāna8) // nmam 'gyur (= vikāra1) byung ngam (= api abhūt) bden par (= satya3) smros (= ucy-atām) // 80.94 //

/ zhes pa (= iti) lha yi dbang pos (= surendra4) dris (= pṛṣṭa1) // slong ba (= arthin-) rdzogs pas (= saṃpūraṇa-) rab bskyed pa (= udbhūta-) // dga' bas (= prahaṛṣa-) mig ni (= locana1) rab rgyas pa'i (= utphulla-) // mi yi dbang pos (= narendra1) de la (= tam) smras (= abhāṣata) // 80.95 //

/ gal te (= yadi) bdag ni (= aham) gdung ba na (= vyathā8) // nmam 'gyur med na (= nirvikāra1) bden pa (= satya4) des (= tena) // bdag gi (= me) lus ni (= vigraha1) rma (= vraṇa-) bsos shing (= saṃrūḍha-) // mdzes ldan (= sacchāya1) rnal du gnas (= svastha1) gyur cig (= astu) // 80.96 //

/ ces pa (= iti) rab tu brjod (= udīrita-) tsam gyis (= mātra4) // de (= tasya) lus (= vapus1) rab mdzes (= kānta1) rnal gnas (= svastha1) gyur (= abhūt) // sprin dang (= megha-) nmam par bral ba yi (= vinirmukta1) // rgyu skar bdag po'i (= tārapati7) gzugs (= bimba1) bzhin no (= iva) // 80.97 //

/ mi bdag (= nrpa1) nnam rgyal (= vijayanta1) de nyid nga (= so 'ham) // gzhan gyi don la (= parakārya8) gdung ba med (= nirvyatha1) // ces pa (= iti) brjod nas (= ukvā) bcom ldan 'das (= bhagavat1) // bsam gtan la (= dhyāna-) chags (= nilīna-) spyān ldan (= nilīnanayana1) gyur (= abhavat) // 80.98 //

/ 'phral la (= sahasā) ri bo (= acala-) bskyod pas (= calana4) bsruks pa'i (= mantha-) nyon mongs (= kleśa-) gzer ma (= chaṭā3) de dang de (= tāṃ tāṃ) // lha tshogs (= suragaṇa-) ched du (= kṛte) bdud rtsi'i chu gter (= amṛtāmbudhi1) bsam pa chen pos (= mahāśaya1) bzod par byed (= sehe) / / dri med yid ldan (= vimalamanas7) lus ni (= kāya-) gnod pa dang bcas tshe (= apāyakṣaṇa8) yang (= api) nnam 'gyur med (= avikārin7) // gzhan phan (= parahita-) bsgrub par (= vidhi8) chas pa nmams la (= samnaddha-) gdung ba dag kyang (= vyathāpi) bde bar spyod (= sukhāyate) // 80.99 //

第81章 Hetūttama

/ legs rmos (= sukrṣṭa8) zhing la (= kṣetra8) rab nyung (= alpataṛa1) gang (= yat1) btab (= upta1) dang (= ca) // byas shes dag la (= kṛtajña7) phan pa (= hita5) gang (= yat1) byas (= kṛta1) dang (= ca) // yon tan dag gis (= guṇa-) mtho la (= unnata5) gang (= yat1) byin pa (= samarpita1) // de ni (= tat1) lo ma stong phrag (= śākhāsahasra4) 'phel bar 'gyur (= vṛddhim upaiti) // 81.1 //

/ legs ldan (= bhavya8) mnyan yod (= śrāvastī8) rgyal byed kyi // tshal du (= jetavana8) bcom ldan (= bhagavat1) rgyal bas (= jina1) sngon (= purā) // gtam gyi (kathā-) zhar la (= prabandha-) nyer 'dus pa'i (= upagata3) // dge slong tshogs la (= bhikṣusamṅha3) bka' stsal pa (= abhāṣata) // 81.2 //

/ gang zhig (= yat) rang gis spyad (= svabhoga5) 'os pa (= ?, v. note) // de dag (= etat) thams cad (= sarva1) 'bras bu bral (= viphalā1) // 'jig rten du ni (= loka8) dgra bcom la (= arhat5) // gang (= yat) phul (= samarpita1) de nyid (= tad eva) 'bras bur ldan (= saphalā1) // 81.3 //

/ dam pa'i snod la (= satpātra-) yon nyid kyis (= dakṣiṇatā4) // yon ni (= dakṣiṇā1) rab tu phul ba dag (= pratipādita1) // dam pa'i grogs (= satsamṅati1) bzhin (= iva) mi zad *pa (= akṣaya1) // yon tan grangs med ldan par gyur (= asaṃkhyaguṇatām eti) // 81.4 //

/ grong khyer (= ?) pā ṭa li pu tra'i (= pāṭaliputrīya1) // tshong pa (= vaṇij1) tsan dan (= candana-) don gnyer (= arthin1) sngon (= purā) // gzings chen dag la (= mahāpravahāṇa-) zhon nas ni (= ārūḍha1) // tsan dan gling du (= candanadvīpa3) phyin par gyur (= āyayuḥ) // 81.5 //

/ de nas (= tatas) tsan dan sa mchog (= gośīrṣa-candana-) tshogs (= caya3) // blangs nas (= samādāya) dga' bas (= hrṣṭa?, v. note) de dag nmams (= te) // de las (= tatas) phyir ni log gyur te (= pratinivṛtta1) // chu gter chen po'i (= mahodadhi7) dbus su (= madhya3) phyin (= prāpuḥ) // 81.6 //

/ rgya che (= vipula-) dus min (= akāla-) rlung 'tshub kyis (= vātālī-) // bskyod pa'i (= calita-) rba rlab (= ūrmi-) stobs kyis (= bala4) der (= tatra) // dus kyi (= kāla-) rtse dga' (= keli-) g.yo ba yis (= dolā-) // gzings ni (= pravahaṇa1) bsdams pa med par gyur (= viśṛṅkhala1) // 81.7 //

/ skyob pa (= trāṇa-) don gnyer (= arthin8) tshong pa'i tshogs (= vaṇīccakra8) // lha la (= tri-daśa-) bstod pa byed pa'i tshe (= stotrakārin8) // don mthun (= sārtha-) yid la re ba (= manoratha4) dang // lhan cig (= saha) gzings ni (= pravahaṇa1) zhig par gyur (= abhājyata) // 81.8 //

/ mi bzad (= viṣama8) srog la the tshom (= prāṇasaṃśaya8) der (= tatra) // don mthun 'dren pa (= sārthanāyaka1) bsod nams sde (= puṇyasena-) // zhes pa (= abhidha1) 'dar ba dang bcas pas (= sākampa1) // yongs su bskyab par (= paritrāṇa3) rab tu bsams (= acintayat) // 81.9 //

/ bdag gi (= mad-) khyim dang nye ba na (= veśmanikaṭa8) // dge bsnyen (= upāsaka1) chos kyi byang chub (= dharmabodhi1) yod (= asti) // de ni (= saḥ) nyon mongs dus dag tu (= kleśakāla8) // ston pa (= śāstr3) rgyu yi mchog (= hetūttama3) nyid (= eva) bstod (= stauti) // 81.10 //

/ ces pa (= iti) yid kyis (= manas4) rab bsams nas (= saṃcintya) // de nyid la ni (= tam eva) skyabs (= śaraṇa3) song ste (= gata1) // ded dpon (= sārthapati1) mchi ma dang bcas pas (= sās-ra1) // 'jigs shing (= sādharma-) ngal bas (= āyāsa-) ldab ldib (= gadgada1) smras (= ūce) // 81.11 //

/ rdzogs pa'i sangs rgyas (= saṃbuddha5) rgyu yi mchog (= hetūttama5) // dge ba yi ni (= ka-lyāṇa-) dpag bsam shing (= kalpavṛkṣa5) // nyon mongs can kun (= sakalakleśa-) bde mdzad pa (= śarman5) // dgra bcom (= arhat5) che la (= mahat5) phyag 'tshal lo (= namas) // 81.12 //

/ zhes pa (= iti) de yis (= tena) brjod pa'i tshe (= ukta8) // 'phral la (= sahasā) rgya mtsho'i lha (= abdhidevatā1) 'ongs te (= samabhyetya) // don mthun (= sārtha3) srog ni (= prāṇa3) slar byung rnams (= pratyāgata-) // chu gter gyi ni (= jaladhi7) ngogs su (= taṭa8) bsgral (= cikṣepa) // 81.13 //

/ 'jigs chen (= mahābhaya6) de las (= tasmāt) grol gyur pa (= mukta1) // de dag (= te) rang gi yul du (= svadeśa3) phyin (= upāgata1) // rgyu yi mchog la (= hetūttama-) phyag byed la (= namaskāra-) // dus kun tu ni (= sarvadā) chags par (= nirata1) gyur (= abhavan) // 81.14 //

/ gnas skabs (= avasara8) der ni (= tasmin) ston pa dag (= śāstr7) // rgyu yi mchog gi (= hetūttama7) sku la ni (= gātra8) // las kyi lhag ma (= karmaśeṣa4) 'ga' *yis (= kenacit) rims (= jvara1) // drag po'i (= tīvra-) gdung ba gnas par (= tāpasthiti-) gyur (= abhūt) // 81.15 //

/ gang dag (= ye) gzigs pa (= avalokana4) srid pa'i (= bhava-) 'jigs pa chen po'i (= mahābhaya-) sman gyis ni (= bheṣaja4) // 'gro ba thams cad (= sarvajagat7) legs par bsos pa nyid ni (= svasthatā3) bsgrubs mdzad pa (= kurvanti) // de dag gis kyang (= te 'pi) rang las (= nijakarma-) 'khri shing (= latā-) khyad par (= viśeṣa8) rab chags pa'i (= prasakta-) // lhag ma (= śeṣa-) lhag

par gnas shing (= adhvāsa-) chags pa dag ni (= kalanā3) gtong mi 'gyur (= na parityajanti) // 81.16 //

/ de yi (= tasya) drag por gdung ba ni (= tīvrasmāpā-) // zhi slad (= śānti5) tsan dan (= candana3) sa mchog dag (= goṣīrṣa-) // rgyal po zla ba snang (= candrāvaloka-) zhes pas (= ākhyā1) // thams cad du ni (= sarvatra) btsal bar (= anveṣṭum) brtsams (= udyayau) // 81.17 //

/ sa bdag gis ni (= bhūpa4) 'bum phrag bzhis (= lakṣaiś caturbhiḥ) // ded dpon (= sārthapatī1) de la (= saḥ) don du gnyer (= arthita1) // tsan dan sa mchog (= goṣīrṣacandana-) sa la ni (= bhū8) // rnyed dka' (= durlabha3) srang gcig (= pala3) byin ma gyur (= na dadau) // 81.18 //

/ ded dpon (= sārthapatī1) rang nyid (= svayam) mngon phyogs te (= samabhyetya) // dran pa tsam gyis (= smṛtimātra-) phan mdzad pa (= upakārin7) // ston pa'i (= śāstr7) sku la (= vapus3) tsan dan gyis (= candana-) // gus pa yis ni (= bhakti4) byugs pa byas (= carcita3) // 81.19 //

/ do shal dang ni (= hāra-) kha ba'i (= tuṣāra-) tshogs (= ogha-) // zla ba (= śāsin-) bsil ba (= śaitya-) dman byed pa (= upahāsin4) // grags pa ltar (= svakīrti-) dkar (= śubhra4) tsan dan (= candana4) des (= tena) // rgyal ba (= jina1) rnal du gnas par (= svastha1) gyur (= abhavat) // 81.20 //

/ de yi (= tena) bsod nams mthu yis ni (= puṇyānubhāva4) // dpal dang ldan pa (= śrīmat1) bsod nams sde (= puṇyasena1) // zla ba'i 'od (= śāṣiprabha1) dang yan lag kun (= sarvāṅga-) // rmad byung (= adbhuta-) dri bzang ldan par (= saurabha1) gyur (= babhūva) // 81.21 //

/ de yi (= tasya) tsan dan (= candana-) rin chen sogs (= ratnādi1) // rgya mtsho'i (= sāgara-) chu la (= ambhas8) gang (= yat1) lhung ba (= cyuta1) // de dag (= tat1) thams cad (= sarva1) rang khyim (= svagṛha-) dang // nye bar (= upānta-) khron pa'i (= kūpa-) nang nas (= madhya6) byung (= samudgata1) // 81.22 //

/ tshong pa nmams la (= vaṇij7) tsan dan sogs (= candanādika3) // rang rang dag la (= nijam ni-jaṃ) des (= saḥ) byin nas (= dattvā) // zas dang (= bhojya-) rin chen (= ratna-) gos nmams kyis (= ambara4) // khyim du (= geha8) dge slong dge 'dun (= bhikṣusamgha3) mchod (= apūjayat) // 81.23 //

/ de nas (= atha) ded dpon dag *gi ni (= sārthapatī7) // mchog gi mthu yis (= divyaprabhāva-) br-gyan pa'i (= ābharaṇa3) dpal (= śrī3) // mthong nas (= dṛṣṭvā) mngon du (= agra8) nyer gnas kyis (= upasthāyaka4) // de yi (= tat3) legs byas (= sukṛta3) rgyal la (= jina1) dris (= prṣṭa1) // 81.24 //

/ de nas (= atha) bcom ldan (= bhagavat1) rgyu yi mchog (= hetūttama1) // 'dzum dang bcas pas (= sasmita1) de la (= tam) gsungs (= abhāṣata) // ded dpon gyis ni (= sārthavāha4) tsan dan gyis (= candana4) // nga la (= mām) byugs pas (= limpat4) dpal 'byor (= śrī1) thob (= prāpta1) // 81.25 //

/ bsod nams sdes ni (= puṇyasena⁴) legs byas kyi (= sukṛta-) // ngang tshul dag gis (= śīla⁴) las
 (= karma¹) de (= tat¹) byas (= kṛta¹) // bdud rtsi nyid ni (= amṛtatva³) rab thob pa (= avāpta⁷) /
 / gang gi (= yasya) 'di dag (= etāḥ) cha yi thigs (= leśavipluṣ¹) // 81.26 //
 / dge ba'i rtsa ba (= kuśalamūla⁷) smin pa na (= pāka⁸) // skye ba (= janman⁸) tha ma dag la (= paścima⁸) 'di (= eṣaḥ) // rab byung (= pravrajya-) bla med (= anuttara³) yang dag par // rdzogs
 pa'i byang chub (= samyaksaṃbodhi³) thob par 'gyur (= samavāpsyati) // 81.27 //
 / bsod nams dag gi (= puṇya-) tsan dan shing (= candanaśākhin⁷) // yangs pa yi ni (= viśāla⁷)
 rtsa bar (= mūla⁸) 'di (= eṣaḥ) // tsan dan dpal (= candanaśrī¹) zhes (= iti) grags pa yi (= khyā-
 ta¹) // de bzhin gshegs pa nyid du 'gyur (= tathāgato bhaviṣyati) // 81.28 //
 / de skad (= iti) bcom ldan (= bhagavat¹) rgyu yi mchog (= hetūttama¹) // ye shes spyang dang
 ldan pas (= jñānalocana¹) gsungs (= prāha) // zhes pa (= iti) shākya thub pa yis (= śākyamuni⁴) /
 / gsungs tshe (= ukta⁸) dge slong (= bhikṣu¹) ya mtshan gyur (= vismayaṃ yayuḥ) // 81.29 //
 / legs byas can gyi (= sukṛtin⁷) dad pa'i (= śraddhā-) sbyin pa'i (= dāna-) cha yi (= kaṇa-) myu gu
 (= aṅkura¹) lo 'dab (= śākhā-) brgya yis (= śata⁴) 'phel (= vardhate) // dgra bcom zhing la (= arhatkṣetra-) yang dag btab pa (= samarpaṇa⁶) yongs su smin tshe (= pariṇati⁸) chags bral (= vairāgya-) phun tshogs (= lakṣmī-) 'bras (= phala¹) // gang la (= yasya) skabs gsum bdag po (= tridaśādhipatya-) dri med (= viśada-) gdugs can (= chattra-) dar zhing (= udaya¹) bsod nams (= puṇya-) dri yis (= āmoda-) rgyags (= mada-) // rab dga'i (= pramoda-) grogs po (= suhṛd¹) phun tshogs (= sampad¹) 'di dag (= etāḥ) me tog (= puṣpa-) gsar pa nyid du (= pratyagra-) rab tu rgyas (= udbhava¹) // 81.30 //

第二部

自分の産んだ子供たちをむさぼり食う餓鬼女 — Avadānaśataka 第49章とSMRAM 第16章 —

略号

Avś = Avadānaśataka

Ed. = the edition of TAKAHATA (1954)

SMRAM = Subhāṣitamahāratnāvadānamālā

S16 = the chapter 16 of the Subhāṣitamahāratnāvadānamālā

『南アジア古典学』第4号～第6号の拙稿の第二部では、Avś 系列の avadānamālā 文献における餓鬼関連説話の校定・和訳を続けて行ってきたので、今回も引き続き、餓鬼説話を取り上げたい。Avś の第49章（餓鬼品第五の第9話）には、母として昼夜子供たちを産んでは、飢えに耐えかねてわが子たちをむさぼり食う恐ろしくも悲しい餓鬼女の話が出てくる¹⁵⁾。その Avś 梵文の原話に対して韻文で再話を行った梵文テキストが SMRAM の第16章 Pretikāvadāna 『餓鬼女アヴァダーナ』である。簡潔でそっけない Avś の原話に対して、語りものとして仕立て直されたこの第16章テキストはなかなか興味深い話に出来ており、聴き手を飽きさせない。本論文の第二部では、このテキストを取り上げ、校定・翻訳を行った上で、原話の Avś 第49章と比較してみたい。

この SMRAM 第16章のテキストは、ネパールの別の説話集成写本 Ratnāvadānatattva にも含まれ、その Ratnāvadānatattva のテキストをローマ字転写した高畠寛我の Ratnamālāvadāna 出版本（1954年）では、第23章にあたる（271-280頁）。ただしその本の第23章という数字は高畠が出版の編集の際に付けた便宜的な数字であり、高畠が用いた Ratnāvadānatattva の京大寫本（A' 写本；Goshima・Noguchi 87）ではその章は第11章である。その第11章は、中身は SMRAM 第16章と全く同じテキストであるにもかかわらず、本来の章名が少し変えられて Pretikāyāḥ kathā 「餓鬼女の話」という名称になっている。しかし本来の章名は Pretikāvadāna 「餓鬼女アヴァダーナ」であったことが、Ratnāvadānatattva の別の写本（NGMPP E1343/4；略号 N）によって知られる。Ratnāvadānatattva 京大寫本 A' の章末のコロフォンでは // iti ratnāvadānatattve pretikāyāḥ kathā samāptam (!) //

15 この Avś 第49章が扱う餓鬼女の話はインド仏教世界に古くから広く知られていて、並行文献としてパーリ聖典の『餓鬼事』（Petavatthu）の第1品の第6話がある（その第7話も類話であるが、Avś の話と少し違う）。Avś の餓鬼説話の内容に関しては、岡崎敦・岡野潔〔編〕『九州大学文学部人文学4 テクストの誘惑 — フィロロジーの射程』（2012年8月）の拙稿（第1章）を参照。

「以上、Ratnāvadānatattva における Pretikāyāḥ kathā 終わる」と記されているが、Ratnāvadānatattva の N 写本のコロフォンでは // iti pretikāvadānaṃ samāptam // 23 「以上、第23章の Pretikāvadāna 終わる」と記されており、その章名は SMRAM と合致する。

ネパールで編集された説話集成 avadānamālā として、SMRAM は Ratnāvadānatattva に先行する。SMRAM から派生したと推測される Ratnāvadānatattva という二次的な説話集成よりも SMRAM は系統的に上位に立つ説話集成である。そのことは現存する SMRAM 写本 (NGMPP B101/3) が Ratnāvadānatattva の 2 写本よりも正しい読みを多くの箇所で保っていることから確認される。

高島寛我の Ratnamālāvadāna 出版本において、忠実に 1 写本からのローマ字転写の作業がなされた Ratnāvadānatattva のテキストは、残念ながらネパールでの筆写伝承の間に生じた非常に多くの誤りを含んでいる。高島の出版本の三分の二を占める Ratnāvadānatattva のテキストの大部分（最初の Vaḍikāvadāna だけを例外として、残り全部のテキスト）は、若干の高島自身の推測による修正があるものの、未校定の、A' という京大写本 1 本をローマ字転写しただけのテキストである。それ故その Ratnāvadānatattva テキストを本格的な研究に使えるようにし、翻訳可能にするためには、SMRAM の写本を底本にした校定がなされる必要があった。そこで今回の SMRAM 第16章 Pretikāvadāna の研究にあたって、次の三つの資料を使用して校定テキストを作成した：SMRAM 写本と Ratnāvadānatattva の写本 N、ならびに Ratnāvadānatattva 京大写本 A' のほぼ忠実なローマ字転写としての高島出版本第23章である。

第1節 SMRAM 第16章 Pretikāvadāna の梵文と訳

以下にまず SMRAM 第16章 Pretikāvadāna の校定梵文テキストを挙げ、続いて和訳 (vv.17-190) を挙げる。

16 Pretikāvadāna

Ed. (= Takahata 1954), pp. 271-280; N (NGMPP E1343/4) 175a-183a;

Ms. (= SMRAM) 120a-127b

[120a4] athāśoko mahārājāḥ sāñjaliḥ saṃpramoditaḥ /
upaguptaṃ guruṃ natvā punar evaṃ abhāṣata // 1 [= Ed. 1]
bhadanta śrotum icchāmi punar anyat subhāṣitam /
tad yathā guruṇākhyātaṃ tathādeṣṭuṃ ca me 'rhati // 2 [= Ed. 2]
iti saṃprārthite rājñā śrutvā so 'rhan mahāmatih /

upagupto narendram taṃ samālokyaivam ādiśat // 3	[= Ed. 3]
sādhu śṛṇu mahārāja yathā me guruṇoditam /	
tathāhaṃ te pravakṣyāmi śrutvā buddhvānumodaya // 4	[= Ed. 4]
purā sa bhagavān buddhaḥ śākyasiṃho muniśvaraḥ /	
sarvajñaḥ sugataḥ śāstā dharmarājo vināyakaḥ // 5	[= Ed. 5]
bhikṣubhiḥ śrāvakaiḥ sārdhaṃ bhikṣuṇībhiś ca cailakaiḥ /	
upāsakaiḥ śubhācāir upāsikāgaṇair api // 6	[= Ed. 6]
bodhisattvair mahāsattvaiḥ sambodhicārikodyamaiḥ /	
tathānyais tīrthikaiś cāpi sa[120b]mbuddhaguṇavāñchibhiḥ // 7	[= Ed. 7]
rājagrhapuropānte veṇuvane manorame /	
jināśrame mahodyāne kalandakanivāpake // 8	[= Ed. 8]
sarvasattvahitārthena bodhicaryāṃ prakāśayan /	
saddharmadeśanāṃ kurvan vijahāra virocayan // 9	[= Ed. 9]
*taddharmadeśanāṃ śrotuṃ tatra sarve samāgatāḥ /	
devā daityāś ca nāgendrā yakṣagandharvakinnarāḥ // 10	[= Ed. 10]
grahā vidyādharāḥ siddhā lokapālagaṇā api /	
ṛṣayo brāhmaṇāś cāpi rājānaḥ kṣatriyātmajāḥ // 11	[= Ed. 11]
vaiśyāś ca mantriṇo 'mātyā gṛhādhipā mahājanāḥ /	
paurikāḥ sārthavāhāś ca vaṇijāḥ śilpino 'pi ca // 12	[= Ed. 12]
grāmyā jānapadāś cāpi tathā *kārvaṭikādayaḥ /	
sarve te samupāyātās tatrāśrame upāviśan // 13	[= Ed. 13]
tatra sabhāsanāśīnaṃ śrīghanaṃ taṃ muniśvaram /	
vyāmaprabhāvirocantaṃ bhikṣusaṃghaiḥ puraskṛtam // 14	[= Ed. 14]
dṛṣtvā te muditāḥ sarve praṇatvā samupāgatāḥ /	
kṛtvā pradakṣiṇāny enaṃ samānarcuṣ yathākramam // 15	[= Ed. 15]
tataḥ sarve 'pi te lokāḥ parivṛtya samantataḥ /	
tatsaddharmāmṛtaṃ pātum upatasthuḥ samāhitāḥ // 16	[= Ed. 16]
tadā sa bhagavān dṛṣtvā sarvāṃś tān samupāśṛtān /	
āryasatyāṃ samārgāṅgaṃ saddharmaṃ samupādiśat // 17	[= Ed. 17]
tat saddharmāmṛtaṃ pītvā sarve te saṃprabodhitāḥ /	
dharmaviśeṣaṃ ājñāya bodhicaryāṃ samīchire // 18	[= Ed. 18]
tadaikasmin dine bhikṣur āyusmān nāladābhidhaḥ /	
bhikṣārthaṃ pātram ādāya rājagrhapure ya[121a]yau // 19	[= Ed. 19]
tatra sa nālado bhikṣuḥ piṇḍārthaṃ samupācāran /	
gṛhasthena samālokya nītvā gehe mudāsane // 20	[= Ed. 20]

pratiṣṭhāpya samabhyarcya supraṇītarasānvitaiḥ /	
kṣīraudanaiḥ sudhākālpaiḥ pānaiś ca pratipūjitaiḥ // 21	[= Ed. 21]
tad bhuktvā sa yatis tuṣṭo dattvā tasmai śubhāśiṣam /	
samutthāya tato 'raṇye vihartuṃ nirjane 'carat // 22	[= Ed. 22]
tatra sa nālado yogī gṛdhrakūṭanagāntike /	
dadarśa pretikāṃ ekāṃ rākṣasīm iva bhīṣaṇām // 23	[= Ed. 23]
vṛkṣamūle sthitāṃ raktabinduḥvāptāmbarāvṛtāṃ /	
asthiśakalasamkīrṇe pretālaye nivāsinīm // 24	[= Ed. 24]
svātmajān api bhakṣantīm kṣutpipāsāgnidāhitāṃ /	
kṛṣāṅgīm vikṛtākārāṃ karburamuktakeśinīm // 25	[= Ed. 25]
dṛṣtvā sa nāladas tatra samupāsṛtya tatpuraḥ /	
pretikāṃ tāṃ samālokya papracchaivaṃ purākṛtam // 26	[= Ed. 26]
kiṃ tvayā prakṛtaṃ ghoram pātakam pūrvajanmasu /	
yenaivaṃ duḥsaham duḥkham anubhavasi sāmpratam // 27	[= Ed. 27]
iti tenārhatā pṛṣṭe pretikā sā rudanty api /	
nāladaṃ taṃ yatim dṛṣtvā śanair evam abhāṣata // 28	[= Ed. 28]
bhadanta kiṃ mayā hy atra vakṣyate yat purākṛtam /	
tad bhavāṃs taṃ jagadvijñam pṛcchatāṃ matpurākṛtam // 29	[= Ed. 30]
sa munīndro jagacchāstādiśet te 'smatpurākṛtam /	
āditye hi samudyāte dīpena kiṃ prayojanam // 30	[= Ed. 31]
tathāsmatprakṛtaṃ pāpam śrutvānye *pi narādayaḥ /	
sattvāḥ samtrasitā evaṃ pāpam kuryur na ke cana // 31	[= Ed. 32]
sarve tadedṛśāt pāpād viramya śīlasamvṛtāḥ /	
triratnaśaraṇam kṛtvā prabhajeyuḥ sadādrītāḥ // 32	[= Ed. 33]
[121b] iti tayoditam śrutvā nāladaḥ sa prabodhitaiḥ /	
tatheti sahasā gatvā tatra veṇuvane 'sarat // 33	[= Ed. 34]
tadā sa bhagavāṃs tatra dhyānālayāt samutthitaiḥ /	
sabhāmadhyāsanāsīnaḥ saddharmaṃ samupādiśat // 34	[= Ed. 35]
tasminn avasare tatra nāladaḥ sa tvarānvitaiḥ /	
dūrāt taṃ śrīghanaṃ paśyan sahasā samupācarat // 35	[= Ed. 36]
taṃ evaṃ samupāyātaṃ nāladaṃ sa munīśvaraḥ /	
dṛṣtvārāt samupāmantrya punar evam abhāṣata // 36	[= Ed. 37]
ehi te svāgataṃ bhikṣo kutas tvaṃ samupāgataḥ /	
kim artham iha yenaivaṃ prāyāsi tad vadasva me // 37	[= Ed. 38]
ity ādiṣṭe munīndreṇa nāladaḥ sa kṛtāñjalaiḥ /	

samupetya munīndraṃ taṃ praṇatvaivaṃ nyavedayat //	38	[= Ed. 39]
bhagavan bhavatāṃ pādaḥ draṣṭum iha samācare /		
adyāhaṃ nirjane 'raṇye vihartuṃ samupācare //	39	[= Ed. 40]
tatrāhaṃ pretikāṃ ekāṃ rākṣasīm iva bhīṣaṇāṃ /		
kṛṣāṅgīm vikṛtākārāṃ raktabinducitāmbarāṃ //	40	[= Ed. 41]
naikāsthi*śakalākīrṇe pretālaya ivāsthītāṃ /		
paśyāmi tām upāsṛtya paripṛcchāmi tat kṛtaṃ //	41	[= Ed. 42]
kiṃ tvayā prakṛtaṃ pāpaṃ pūrvajanmasu dāruṇaṃ /		
yenedrṣaṃ mahāduḥkhaṃ anubhavasi sāmpratam //	42	[= Ed. 43]
iti prṣṭe mayāthāsau pretikā duḥkhatāpinī /		
rudantī māṃ samālokya śanair evaṃ abhāṣata //	43	[= Ed. 44]
bhadanta kiṃ vadiṣyāmi yaṃ mayā pātakaṃ kṛtaṃ /		
yenedrṣaṃ mahāduḥkhaṃ anubhavāmi sāmpratam //	44	[= Ed. 45]
pañcaputrāṇ ahaṃ rātrau divā pañca tathāparāṇ /		
prasūya tān prabhakṣāmi nāsti tṛptis tathāpi me //	45	[= Ed. 46]
[122a] evaṃ kṣutpipāsāgnitīvratāpābhidāhitā /		
divārātriṃ mahadduḥkhaṃ bhuktvā tiṣṭhāmi jaṅgale //	46	[= Ed. 47]
tat purā kiṃ kṛtaṃ ghorāṃ pātakaṃ atidāruṇaṃ /		
mayāpi jñāyate nātra paripṛccha muniśvaram //	47	[= Ed. 48]
sarvajñas trijagacchāstā bhagavān sa muniśvaraḥ /		
yaṃ mayā prakṛtaṃ pāpaṃ tat sarvaṃ samupādiśet //	48	[= Ed. 49]
iti tayoditaṃ śrutvā tatheti paribodhitaḥ /		
bhavantam atra sampraṣṭuṃ samāgacchāmi sāmpratam //	49	[= Ed. 50]
kiṃ tayā prakṛtaṃ ghorāṃ pātakaṃ atidāruṇaṃ /		
yenaivaṃ duḥsahaṃ duḥkhaṃ bhuktvā carati sādhuṇā //	50	[= Ed. 51]
tat sarvaṃ samupādiśya prabodhayitum arhati /		[= Ed. 52]
etac chrutvāpi sarve hi careyuḥ sarvadā śubhe //	51	
iti samprārthite tena bhagavān sa muniśvaraḥ /		
nāladaṃ taṃ mahābhijñāṃ samālokyaivaṃ ādiśet //	52	[= Ed. 53]
nālada pretikā sātītivrāpātakasāadhanī /		
yadīcches tat kṛtaṃ śrotuṃ śṛṇu vakṣyāmi te 'dhunā //	53	[= Ed. 54]
tadyathābhūt purā puryaṃ vārāṇasyāṃ mahājanaḥ /		
śreṣṭhī prādhya mahacchrīmāṇ chrīdopamo dhanādhipaḥ //	54	[= Ed. 55]
sa kuladharminīm bhāryāṃ upayame yathāvidhim /		
tataḥ sa kāntayā sārdaṃ tayā reme pramodayan //	55	[= Ed. 56]

tasyaivam ramamāṇasya krīdataḥ sucirād api /	
tasyām eko 'pi putro vā putrī vā nābhyajāyata // 56	[= Ed. 57]
tataḥ sa gr̥habhṛc chreṣṭhī samtatidarśanotsukaḥ /	
tan nirāśā*bhisam̐tpto mūr̥chito 'bhūd yathāturaḥ // 57	[= Ed. 58]
kapolaṃ svabhuje sthāpya śokāgāre vyavasthitaḥ /	
sampaccintāviṣaṇṇāsyo manasaivam vyacintayat // 58	[= Ed. 59]
hā daiva kiṃ mayā pāpaṃ sukr̥taṃ [122b] duṣkr̥taṃ purā /	
yan mamaivam̐vidham̐ duḥkham̐ sukham̐ cātra prajāyate // 59	[= Ed. 60]
anekadravyasampattisamuditaṃ gr̥ham̐ mama /	
tatra bhoktā tu naiko 'pi putro 'sti duhitāpi na // 60	[= Ed. 61]
tat sarvaṃ svāpateyaṃ hi mamātyayān narādhipaḥ /	
aputrakam̐ iti kṛtvā sarvasvaṃ sarvathā haret // 61	[= Ed. 62]
yan mayānekayatnena sādhitam̐ rakṣitam̐ ca tat /	
sarvam̐ eva nirarthena vinaṣtam̐ me bhaviṣyati // 62	[= Ed. 63]
tad atra kiṃ kariṣyāmi yasyopāyaṃ na manyate /	
sarvathāham̐ vinaṣṭo 'smi ko mām̐ rakṣed ihādhunā // 63	[= Ed. 64]
evaṃ cintāviṣaṇṇāsyam̐ svāminam̐ tam̐ gr̥hādhipam̐ /	
dr̥ṣṭvā sā ramaṇī bhāryā samālokyaim̐ abravīt // 64	[= Ed. 65]
svāminn̐ atra kim̐ evaṃ tvaṃ tiṣṭhase duḥkhacintayā /	
kiṃ tava jāyate duḥkham̐ tad vadasva mamāgrataḥ // 65	[= Ed. 66]
iti bhāryoditam̐ śrutvā sa gr̥hastho viniśvasan /	
taṃ bhāryām̐ ramaṇīm̐ kāntām̐ samālokyaim̐ abravīt // 66	[= Ed. 67]
priye 'tra kiṃ vadiṣyāmi yasyopāyaṃ na manyate /	
yan me 'sti mahatī sampad asyā bhoktā na vidyate // 67	[= Ed. 68]
nūnam̐ madatyayād rājā mamaitāḥ sarvasampadaḥ /	
aputrasya nr̥pādhinā iti kṛtvā hariṣyati // 68	[= Ed. 69]
yan mamaitā mahāyatnaiḥ sādhitā rakṣitā api /	
tat sarvaṃ hi nirarthena vinakṣyati niranvayāt // 69	[= Ed. 70]
etan me jāyate duḥkham̐ tad atra kiṃ vadeya hi /	
ko mamaitan mahac chalyam̐ hr̥daye 'tra samuddharet // 70	[= Ed. 71]
iti cintāviṣeṇātra hr̥dayam̐ dahyate mama /	
tenaivam̐ atra tiṣṭhāmi viṣadagdho yathāturaḥ // 71	[= Ed. 72]
iti bhartroditam̐ śrutvā sā bhāryā ra[123a]maṇī priyā /	
svāminam̐ tam̐ samālokyā bodhayitum̐ samabravīt // 72	[= Ed. 73]
etadarthe viṣadatvaṃ mā kṛthāḥ sarvathā priya /	

upāyaṃ kuru tatprāptyai yadi saṃtatim icchasi // 73	[= Ed. 74]
upāyaṃ api siddhyeta devatānāṃ prasādataḥ /	
tad devatāḥ samārādhya yācasva saṃtatim mudā // 74	[= Ed. 75]
tadā devaprasādena jāyen nau saṃtatiḥ khalu /	
putro vā yadi vā putrī jātā syāt saphalaṃ bhava // 75	[= Ed. 76]
iti me vacanaṃ śrutvā kulasthitim yadīcchasi /	
devatārādhanam kṛtvā bhajasva saṃtatīcchayā // 76	[= Ed. 77]
iti bhāryoditam śrutvā sa gr̥hasthaḥ prabodhitaḥ /	
tathety abhyanumoditvā tathā kartuṃ samaicchata // 77	[= Ed. 78]
tataḥ sa gr̥habhṛc chreṣṭhī bhāryayā saha moditaḥ /	
svakuleśaṃ samabhyarcya saṃtānaṃ samayācata // 78	[= Ed. 79]
tathāpi śreṣṭhinas tasya bhāryābhūn naiva garbhīnī /	
tataḥ sa parikhinnātmā tasthāv evaṃ nirāśayā // 79	[= Ed. 80]
tataḥ sā ramaṇī bhāryā nirāśākhinnamānasam /	
svāminam taṃ samālokya punar evaṃ abhāṣata // 80	[= Ed. 81]
svāmin mātṛa viśādatvaṃ kṛthā dhairyam samāśraya /	
viśādāt kṣīyate cittam kṣīṇacitto na vīryabhāk // 81	[= Ed. 82]
vīryam vinātra saṃsāre kiṃcit kāryam na siddhyate /	
tasmād vīryam samālambya bhaja devān samāhitaḥ // 82	[= Ed. 83]
yadi putro na jātāḥ syāt putrī vāpi na jāyate /	
puṇyam tu vardhyate nūnam devatārādhanād api // 83	[= Ed. 84]
iti matvātra saṃsāre sadā saukhyam yadīcchasi /	
sarvān [123b] devān samabhyarcya bhajasva śraddhayādarāt // 84	[= Ed. 85]
iti bhāryoditam śrutvā bhartā śreṣṭhī sa bodhitaḥ /	
tatheti pratibhāṣitvā devān arcitum aicchata // 85	[= Ed. 86]
tathā saṃtānam icchan sa gr̥hastho bhāryayā mudā /	
vidhiṃ sraṣṭāram ārādhya saṃtatim samayācata // 86	[= Ed. 87]
tathāpi tasya bhāryā sā garbhīnī no 'bhavac ciraṃ /	
tataś ca sa vibhagnāśas tasthau śokaviśāditaḥ // 87	[= Ed. 88]
tato 'pi bhāryayā bhūyaḥ preryamāṇaḥ sa bodhitaḥ /	
viśvaṃbharam samabhyarcya yayāca saṃtatim tathā // 88	[= Ed. 89]
tathāpi sābhavan naiva dohadalakṣaṇāṅkitā /	
tataś cāsau gr̥hastho 'bhūn nirāśāparikheditaḥ // 89	[= Ed. 90]
tathā sa bhāryayā bhūyaḥ preritaḥ paribodhitaḥ /	
maheśvaram samabhyarcya saṃtatim samayācata // 90	[= Ed. 91]

tathendram ca samārādhyā prārthayat saṁtatiṁ mudā /	
evam lokādhipān sarvān grahān sarvān uḍūr api /	
samārādhyā samabhyarcya prārthayat saṁtatiṁ tathā // 91	[= Ed. 92]
tataś caivaṁ mahākālaṁ kumāraṁ ca gaṇādhipam /	
bhairavaṁ mātṛkāś cāpi prārthayad vaṁśam arcayan // 92	[= Ed. 93]
evam anyān api devān vihāramaṇḍapāśrayān /	
maṭhasattrāśramārāmaśṛṅgāṭakapraṭiṣṭhitān // 93	[= Ed. 94]
udyānaparvatāraṇya*kṣetrasīmādisaṁsthitān /	
sarvajalāśrayasthāṁś ca sarvān nāgādhipān api // 94	[= Ed. 95]
rathyācatvaramārgādipraṭiṣṭhitān samutsukaḥ /	
sarvān devān samārādhyā yayācaivaṁ sa saṁta[124a]tim // 95	[= Ed. 96]
tathāpi śreṣṭhinas tasya bhāryāyāṁ sucirād api /	
tasyāṁ naivābhavat kiṁcid dohadotpattilakṣaṇam // 96	[= Ed. 97]
tataḥ sa gr̥habhṛc chreṣṭhī dṛṣṭvā vaṁśaniraṅkuram /	
nirāśāpratikhinnātmā tasthāv evaṁ yathāturaḥ // 97	[= Ed. 98]
etad duḥkhavibhinnāsyāṁ dṛṣṭvā sā ramaṇī priyā /	
svāminam taṁ samīkṣantī punar evaṁ abhāṣata // 98	[= Ed. 99]
svāminn atra viśādena kiṁcit kāryam na siddhyate /	
iti matvā yathākāmaṁ saukhyaṁ bhuktvā samācara // 99	[= Ed. 100]
yad āvābhyāṁ kṛtaṁ pāpaṁ tat phalaṁ bhujiyate 'dhunā /	
tad atra kiṁ kariṣyāvo daivaṁ hi balavad bhava // 100	[= Ed. 1]
yad abhāvi bhaven naiva bhāvi cen nānyathā kvacit /	
avaśyaṁ bhāvinā bhāvā bhavanti sarvathā bhava // 101	[= Ed. 2]
iti matvātra saṁsāre bhuktvā saukhyaṁ yathecchayā /	
triratnabhajanaṁ kṛtvā cara satye samāhitaḥ // 102	[= Ed. 3]
tehaiva sarvadā bhadram ihāmutrāpi sarvataḥ /	
kramād bodhipadaṁ prāpya nirvṛtiṁ samavāpsyati // 103	[= Ed. 4]
iti bhāryāsamākhyātaṁ śrutvā śreṣṭhī sa bodhitaḥ /	
triratnabhajanaṁ kṛtvā kaṁcit kālaṁ vyalaṅghayat // 104	[= Ed. 5]
tatas tasya suhṛṁ mitram upāgatya puraḥ sthitaḥ /	
tatsaṁtānasamutpattyai tanmitram evaṁ abravīt // 105	[= Ed. 6]
bho mitra śṛṇu me vākyaṁ yat te hitaṁ mayocyate /	
sarvathāsyāṁ priyāyāṁ te saṁtānaṁ vidyate na hi // 106	[= Ed. 7]
tad upāyaṁ tu kartavyaṁ saṁtatipratipattaye /	
nirvaṁśasya hi saṁsāre nirarthaṁ sarvasādhanam // 107	[= Ed. 8]

tat saṃtānasamutpattiyai dvi[124b]tīyaṃ putrabhāvinīm / aparāṃ yuvatīm bhāryāṃ vivaha vidhinā punaḥ // 108	[= Ed. 9]
kadācit tava bhāgyena sā putraṃ janayed api / tadā te saphalaṃ janma kulasthitir bhaved api // 109	[= Ed. 10]
iti mitroditaṃ śrutvā sa gr̥hasthaḥ prabodhitaḥ / tathā hīti pratijñāya taṃ mitraṃ abhyamānayat // 110	[= Ed. 11]
tataḥ sa gr̥habhṛc chreṣṭhī nirīkṣya putrabhāvinīm / aparāṃ yuvatīm kāntāṃ upayeme yathāvidhi // 111	[= Ed. 12]
tataḥ sa kulikaḥ śreṣṭhī tayā sārdhaṃ pramoditaḥ / yathākāmaṃ sukhaṃ bhuktvā rarāma paricārayan // 112	[= Ed. 13]
tatas tasya gr̥hasthasya yathākāmaṃ prabhuñjataḥ / samaye sā priyā bhāryā babhūva garbhiṇī cirāt // 113	[= Ed. 14]
tataḥ kramāt pravṛddho 'bhūd garbhas tasyā dine dine / tadā sā garbhasaṃjātaṃ parijñāyābhyānandata // 114	[= Ed. 15]
tataḥ sā bhadrikā kāntaṃ svāminaṃ taṃ pramoditā / rahasi samupāmantrya samālokyaivam abravīt // 115	[= Ed. 16]
diṣṭyāryaputra vṛddho 'si garbhe me jāyate śīśuḥ / dakṣiṇapārśvasaṃstho yat tad ayaṃ dārako bhavet // 116	[= Ed. 17]
iti bhāryoditaṃ śrutvā sa gr̥hastho 'bhinanditaḥ / savyabāhuṃ samutsārya mudaivam samudāharat // 117	[= Ed. 18]
hā me 'bhilaṣitaṃ siddhyet paśyeyaṃ saṃtater mukham / sāṃprataṃ nāvajāto 'smi kulasthitir bhaved api // 118	[= Ed. 19]
kṛtyāni me prakurvīta bibhṛyāc ca bhṛtaḥ prati / dāyādyam pratipadyeta vaṃśo 'pi syāc cirasthitaḥ // 119	[= Ed. 20]
yan mayā prakṛtaṃ dānaṃ yac ca puṇyaṃ prasādhitaṃ / etad vi[125a]pākakauśalyam etayor anugacchatu // 120	[= Ed. 21]
evam sa muditaḥ śreṣṭhī tāṃ bhāryāṃ bhadrikāṃ priyāṃ / *pathyopacārasaṃyuktair āhāraiḥ samapoṣayat // 121	[= Ed. 22]
dūṣyaś cīnāṃśukaiḥ paṭṭaiḥ komalaiḥ saurabhānvitaiḥ / nānāratnābhyalaṃkāraiḥ maṇḍayitvābhyāmodayat // 122	[= Ed. 23]
evam tāṃ bhadrikāṃ kāntāṃ pathyopacārabhūṣaṇaiḥ / poṣitāṃ maṇḍitāṃ kṛtvā prāmāṇayat prasādayan // 123	[= Ed. 24]
evam tāṃ garbhiṇīm bhartur bahumānābhinanditām / dr̥ṣṭvā sā prathamā bhāryāsūyayaivam vyacintayat // 124	[= Ed. 25]
yady eṣā yuvatīḥ kāntā janayed api saṃtatim /	

tad etatsarvasampattir adhīnāsyā bhaved api // 125	[= Ed. 26]
eṣaiva hi pradhānā syāt sarvalokapramāṇikā /	
ko 'pi pramāṇayen naiva jaratīm mām aputritām // 126	[= Ed. 27]
tad atrāsyāḥ sapatnyā me yathā syād garbhaśātanam /	
tathopāyaṃ prakartavyaṃ suguptena mayādhunā // 127	[= Ed. 28]
kāmarāgāgnitaptasya nāsti kiṃcid dhi pātakam /	
sarvam api prakartavyaṃ bhoktavyaṃ sarvato 'pi ca // 128	[= Ed. 29]
tataḥ sā pramadā duṣṭā tasyā garbhābhiśātanam /	
dravyaṃ pānābhisamṣuktaṃ dadau viśrambhavādinī // 129	[= Ed. 30]
tat sapatnyārpiṭaṃ pānaṃ dṛṣṭvā sā bhadrikārjavā /	
hastābhyāṃ sahasādāya papau tṛṣṇārditā yathā // 130	[= Ed. 31]
tad etat pītamātreṇa tasyā garbho vighūrṇitaḥ /	
sahasābhidravābhūtaḥ prasasrāvābhyaśeṣataḥ (!) // 131	[= Ed. 32]
tataḥ sā bhadrikā nārī bhartāraṃ taṃ sabāndhavam /	
sahasā samupāmantrya punar evaṃ nyavedayat // 132	[= Ed. 33]
svāmiṃs ta[125b]vānayā patnyā priyayā garbhaśātanam /	
pānam auśadhasamṣuktaṃ sādaraṃ me pradīyate // 133	[= Ed. 34]
tat taddattaṃ saviśvāsaṃ grhītvā pīyate mayā /	
tatpānapītamātreṇa garbho me srasyate 'dhunā // 134	[= Ed. 35]
tad atra kiṃ kariṣyāmi yato me naśyate śīśuḥ /	
yadartaṃ prakṛtaṃ dānaṃ tat sarvaṃ niṣphalaṃ tava // 135	[= Ed. 36]
ity ākhyātaṃ tayā patnyā śrutvā śreṣṭhī sa roṣitaḥ /	
tāṃ patnīm sahasāhūya paribhāṣyaivam ālapat // 136	[= Ed. 37]
hā re re durmate duṣṭe ghorapātakasādhini /	
evam api mahāghoraṃ pātakam prakṛtaṃ tvayā // 137	[= Ed. 38]
yadarthe devatāḥ sarvāḥ samārādhyābhiyācitāḥ /	
nānāvidhānayatnāni prakṛtāni mayānīśam // 138	[= Ed. 39]
sarvaṇy etāni yatnāni tvayā vyarthīkṛtāni hi /	
tad atra kiṃ tvayā patnyā pāpiṣṭhayā vrajādhunā /	[= Ed. 40]
mayā tvaṃ pāpinī tyaktā mā tiṣṭheha grhe mama // 139	
ity uktaṃ svāminā tena śrutvā sā duritāśayā /	
sajñāteḥ svāminas tasya purar evaṃ abhāṣata // 140	[= Ed. 41]
kim evaṃ vadase svāmin na mayedaṃ kṛtaṃ khalu /	
mayā na manyate nūnaṃ tad idaṃ tvaṃ vicāraya // 141	[= Ed. 42]
yadi dattaṃ mayā dravyam asyā garbhābhiśātanam /	

pretībhūtātmajān putrāñ jātāñ jātān divānīsam // 142	[= Ed. 43]
prabhuktvaivaṃ mahadduḥkhe careya durgatau sadā /	
ity evaṃ śapatham kṛtvā svāminam tam abodhayat // 143	[= Ed. 44]
iti proktaṃ tayā patnyā śrutvā śreṣṭhī sa bodhitāḥ /	
cirāśāparimuktātmā tasthau ra[126a]tnatrayaṃ smaran // 144	[= Ed. 45]
tataḥ sā pramadā kāle 'tīvaduḥkhāgnidāhitā /	
kāladharmābhisamnyuktā mṛtā pretālaye yayau // 145	
eṣaiva pretikā yāsau śreṣṭhibhāryā durāśayā /	
svakṛtakarmabhogyāni bhuktvaivaṃ bhramate 'dhunā // 146	[= Ed. 46]
yad īrṣyayā tayā tasyāḥ prakṛtaṃ garbhaśātanam /	
tenāsau duṣkṛtākārā pretībhūtā caraty api // 147	[= Ed. 47]
yac ca tayā mṛṣāvācā śapathaḥ prakṛtā yathā /	
tathā tatkarmapākena durgatau bhramate sadā // 148	[= Ed. 48]
pañcaputrān divārātriṃ prasūya sā kṣudhānvitā /	
sarvāṃs tān svātmajān bālān api bhuktvā na tṛpyate // 149	[= Ed. 49]
evaṃ sā pāpinī pretī jātāñ jātāṃs tathātmajān /	
bhuktvā kṣudhāgnisamdagdhā bhramet pretālaye sadā // 150	[= Ed. 50]
evaṃ nālada vijñāya viramya pātakāt sadā /	
mṛṣāvādāc ca saddharme caritavyaṃ śubhārthibhiḥ // 151	[= Ed. 51]
saddharmasya vipāke hi sarvadā maṅgalaṃ bhava /	
pātakasya sadā duḥkhaṃ *mīśritasya tathobhayam // 152	[= Ed. 52]
iti matvā sadā yūyaṃ triratnaṃ śaraṇaṃ gatāḥ /	
satkṛtya śraddhayā nityaṃ prabhajadhvaṃ samāhitāḥ // 153	[= Ed. 53]
ye buddhe śaraṇaṃ kṛtvā bhajanti śraddhayā mudā /	
te sarve durgatiṃ hitvā samprayānti jinālaye // 154	[= Ed. 54]
ye ca śṃvanti saddharmaṃ mānayanti ca sādaram /	
te 'pi kleśān vinirjitya saṃyānti saugatālaye // 155	[= Ed. 55]
ye saṅghaṃ śaraṇaṃ kṛtvā satkṛtya prabhajanti te /	
sarve 'pi durgater muktā samprayānti sukhāvatīm // 156	[= Ed. 56]
evaṃ matvātra saṃsāre sa[126b]rvadā śubhavāñchibhiḥ /	
triratnabhajanaṃ kṛtvā caritavyaṃ śubhe sadā // 157	[= Ed. 57]
ity ādiṣṭaṃ munīndreṇa śrutvā sa nāladaḥ sudhīḥ /	
sasaṃghasarvalokaś ca tatheti pratyapadyata // 158	[= Ed. 58]
tataḥ sa nālado bhikṣuḥ kṛtāñjaliḥ purogataḥ /	
bhagavantam praṇatvā ca papraccha tadviśodhanam // 159	[= Ed. 59]

bhagavan *pāpinī pretī tataḥ pretālayāt kadā /	
tadghorapātakān muktā saṃyāyāt sadgatau katham // 160	[= Ed. 60]
tadupāyaṃ jagacchāstaḥ samupādeṣṭum arhati /	
yenāsau durgater muktā sahasā sadgaṭiṃ vrajet // 161	[= Ed. 61]
iti saṃprārthite tena nāladena sa sarvavit /	
bhagavāṃs taṃ sabhāṃ cāpi samālokyaiṃ ādiśat // 162	[= Ed. 62]
śṛṇu nālada tasyās tatpātakapariśodhanam /	
upāyaṃ samayaṃ cāpi pravakṣyāmy adhunā tathā // 163	[= Ed. 63]
yadā lokeśvaro nāthaḥ sarvasattvānukampakaḥ /	
bodhisattvo mahāsattvas traidhātukādhipeśvaraḥ // 164	[= Ed. 64]
sukhāvatyā vinirgatya sarvāṃl lokān prabhāsayan /	
sarvān sattvān samuddhartum pretaloke samācaret // 165	[= Ed. 65]
tadā tatprabhayā sprṣṭā sātisaukhyasamanvitā /	
kim adya me mahatsaukhyam iti proktvābhyacintayat // 166	[= Ed. 66]
aho saukhyaṃ samutpannaṃ prabhā ceyaṃ prasāritā /	
nūnam atra mahāsattvaḥ sattvān uddhartum āgatāḥ // 167	[= Ed. 67]
yasyedṛk satkṛpādrṣṭiḥ sattveṣv evaṃ prasarpati /	
tasyaiva śaraṇaṃ gatvā bhajeya sarvadādarāt // 168	[= Ed. 68]
iti dhyātvā viniścitya sā pretī prati ^[127a] vismitā /	
tasyaiva smaraṇaṃ kṛtvā tiṣṭhed draṣṭum samutsukā // 169	[= Ed. 69]
tadā sa bhagavāṃs tatra lokanāthaḥ kṛpāmayāḥ /	
pretalokāt samuddhartum upācaret prabhāsayan // 170	[= Ed. 70]
taṃ prabhāsantam āyātaṃ drṣṭvā sarve 'pi pretakāḥ /	
sahasā samupetyaiṃ prārthayeyuḥ samādarāt // 171	[= Ed. 71]
svāgataṃ bhagavan nātha prasīda parameśvara /	
kṛpayāsmān samālokyā pretalokāt samuddhara // 172	[= Ed. 72]
sarvadā bhavatām eva śaraṇaṃ saṃvrajāmahe /	
tat kṛtvā pariśuddhān naḥ sarvān preraya sadgatau // 173	[= Ed. 73]
iti tatprārthite sarvair lokanāthaḥ kṛpānidhiḥ /	
saddharmaṃ samupādiśya punar evaṃ upādiśet // 174	[= Ed. 74]
yadīcchatha sadā saukhyaṃ yūyaṃ sarve samāhitāḥ /	
triratnaṃ smaraṇaṃ kṛtvā bhajata śraddhayā mudā // 175	[= Ed. 75]
tadaitatpātakair muktāḥ sarve yūyaṃ pavitritāḥ /	
sahasā sadgaṭiṃ prāptā bhaveta bodhicāriṇaḥ // 176	[= Ed. 76]
ity ādiṣṭaṃ jagacchāstrā lokanāthena tena te /	

sarve 'pi pretikāḥ śrutvā tathā kartuṃ samīchire // 177 [= Ed. 77]
 tadā te pretikāḥ sarve parīśuddhāśayā mudā /
 triratnaṃ śaraṇaṃ kṛtvā smṛtvā bhajeyur ānatāḥ // 178 [= Ed. 78]
 tadā tatsmṛtipuṇyena sarve te pretikāś tataḥ /
 pretalokāt samutthāya saṃyāsyanti sukhāvatīm // 179 [= Ed. 79]
 tatrāmitābhanāthasya sarve te śaraṇaṃ gatāḥ /
 bhajanto dharmam ākarṇya carīṣyanti śubhāṃ carim // 180 [= Ed. 80]
 tataḥ sarve 'pi te sattvā bodhisattvāḥ śubhaṃkarāḥ /
 kramād bodhiṃ samāsādyā saṃbuddhapadam āpnuyuḥ // 181 [= Ed. 81]
 ta[127b]dā sā pāpinī pretī sarvapāpavimocitā /
 pretalokāt samutthāya sadgatiṃ samavāpsyati // 182 [= Ed. 82]
 evaṃ matvātra saṃsāre sadgatisukhavāñchibhiḥ /
 triratnabhajanaṃ kṛtvā caritavyaṃ sadā śubhe // 183 [= Ed. 83]
 triratnabhajanodbhūtaṃ puṇyaṃ na kṣiṇuyāt kvacit /
 sarvakleśān vinirdahya prāpayet saugataṃ padam // 184 [= Ed. 84]
 ity ādiṣṭaṃ munīndreṇa śrutvā sa nālado yatīḥ /
 sasāṃghikasabhālokaś tatheti prābhyanandata // 185 [= Ed. 85]
 iti me guruṇādiṣṭaṃ śrutaṃ mayātra vakṣyate /
 matvā rājaṃs tvam apy evaṃ triratnaṃ bhaja sarvadā // 186 [= Ed. 86]
 prajāś cāpi tathā dharmam śrāvayitvā prabodhayan /
 bodhimārge pratiṣṭhāpya pālayasva samāhitaḥ // 187 [= Ed. 87]
 tatas te sarvadā bhadraṃ sarvatrāpi bhaved dhruvam /
 kramād bodhiṃ śivāṃ prāpya saṃbuddhapadam āpnuyāḥ // 188 [= Ed. 88]
 iti tenārhatādiṣṭaṃ śrutvāśoko narādhipaḥ /
 tathā hīti pratijñāya prābhyanandat sapārśadaḥ // 189 [= Ed. 89]
 ye cedam pretikāyāḥ sugatakathitam idaṃ śraddhayā ye 'vadānaṃ
 śṇvanti śrāvayanti pramuditamanasas te narāḥ sarva evaṃ /
 kṛtvā ratnatrayasya prabhajanaṃ anīṣaṃ bodhicittaṃ samāpya
 kṛtvā lokeṣu bhadraṃ sakalaguṇabharā baudhaloke prayānti // 190
 // iti pretikāvadānaṃ samāptam // 16

Apparatus criticus

4d buddhvā°] Ms.: buddhā° N Ed.

7b °kodyamañ] N Ed. Read *°kodyatañ? The lower right side of Ms. is lacking. Therefore the text of pādas bc of Ms. is lost.

- 8d kalandaka] Ms. (cf. also Avś i.274.6): karaṃdaka Ed. N.
- 10a *taddharma] ex coni: tatsaddharma Ms. Ed. (metre!)
- 13b *kārvaṭikā°] ex coni: kārpaṭikā° Ms. N Ed. Cf. BHSD s.v. kārvaṭika.
- 13d upāviśan] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. of A'): upāviśat A'.
- 14c vyāma] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. of A'): vyoma A' N.
- 15d samānarcu] corr.: samānarcu Ms. N Ed.
- 17c samārgāṅgaṃ] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. of A'): samārgāgaṃ A'.
- 17d samupādiśat] Ms. N: samupādiśan Ed.
- 21a pratiṣṭhāpya] Ms.: pratisthāpya N Ed.
- 21c kṣīraudanaiḥ] corr.: kṣīrodanaiḥ Ms.: tīlodanaiḥ N Ed.
- 24d nivāsinīm] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. of A'): nivāsinī A': nivāsinīm N.
- 25b dāhitām] Ms. N: dāhinām Ed.
- 26a nāladas] Ms. N.: nāradas Ed. (Hereafter I do not mention each orthographical difference of nālada and nārada in mss.)
- 27c duḥsaham duḥkham] Ms. N: duḥsaham Ed.
- 29d pṛcchatām] N: pṛcchatā Ms. Ed.
- 29a-d] N and Ed. insert an additional stanza between pāda b and c. In N it reads as follows: di-vārātrau paṃca putrān prasūtām me prabhakṣitā / tenāpi tṛṣṭāse vanaiva tṛptim kadā cana. In Ed. the stanza reads as follows: divārātrau paṃcaputrān prasūtā me prabhakṣitā / tenāpi na saṃtuṣṭā bubhukṣitā pravarddhate. Cf. stanzas 45, 149 in this chapter.
- 31b śrutvānye *'pi narādayaḥ] ex coni: śrutvānye narādayaḥ Ms.: śrutvānyena<<na>>rādayaḥ N: śrutvānyena narādayaḥ Ed.
- 31d kuryur] corr.: kuryu Ms. N Ed.
- 32a sarve tadedṛśāt] Ms.: sarve te diśet N: sarve te 'pi diśet Ed. || pāpād] corr.: papān Ms. N Ed.
- 35b sa tvarānviṭaḥ] sic Ms. N. Ed. Read *satvarāgataḥ?
- 35d samupācarat] Ms. N: samupācaran Ed.
- 36a tam evaṃ] Ms.: tam eva N Ed.
- 37d prāyāsi] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): prāyāmi A' N.
- 38d nyavedayat] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): nyavedayan A'.
- 39c adyāhaṃ] N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): adyohaṃ A': adyāraṃ Ms.
- 40c kṛṣāṅgīm] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): kṛṣāṅgī A' N.
- 40d binducitāambarām] Ms.: binduvitāambarām N: vindu'nvitāṃvarām Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): °āṃvarā A'.
- 41a naikāsthi*śakālākīrṇe] ex coni: naikāsthiśakākīrṇe Ms.: anekāsthiśakākīrṇe N: anekā asthiṣaṃkīrṇe Ed.

- 41b pretālaya ivāsthitām] Ms.: pretālaye ivāsthitām N: pretālaye iva sthitām Ed.
- 42c yenedṛṣaṃ] corr. (cf. 44c): yenedṛg Ms. N. Ed. (one syllable is lacking).
- 45c prabhakṣāmi] Ms.: prabhakṣyāmi N Ed.
- 46a] one syllable is lacking.
- 48d samupādiśet] Ms. N: samupāviśet Ed.
- 51cd] pādas cd are written in margin of Ms. and the both pādas lack in Ed. and N.
- 53b sādhanī] Ms.: sādhinī N Ed.
- 54c chrīmāñ] Ms.: chrīmāc N Ed.
- 54d chrīdopamo] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): chrīdopamā A': chrīdopadā N.
- 57c °bhisamṭapto] ex coni: °bhisamṭapta Ms N. Ed.
- 58b śokāgāre] Ed.: śokāgāle Ms.: śokāṃgāre N.
- 58c viṣaṇṇāsyō] N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): viṣaṇṇāsyā A': viṣaṇṇasyo Ms.
- 59b duṣkṛtaṃ] corr.: dukṛtaṃ Ms.: duḥkṛtaṃ N Ed.
- 61c] metre!
- 63b yasyopāyaṃ] This word upāyaṃ is used as neuter. Cf. 74a, upāyaṃ na siddhyeta.
- 65a evaṃ] Ms.: eva N Ed.
- 66c ramaṇīm] Ms. N: ramaṇī Ed.
- 67a kiṃ] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): ki A'.
- 69b rakṣitā] Ms.: vanditā Ed.: vaṃditā N.
- 69d niranvayāt] Ms.: niratyayāt Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): niratvayāt A' N.
- 71a viṣeṇātra] Ms.: viṣaṇṇātra N Ed.
- 73b priya] Ms.: priye N Ed.
- 75b jāyen] Ms. N: jayen Ed.
- 78d samayācata] Ms. N: samayāca tat Ed.
- 81c viṣādāt kṣīyate] Ms. N: viṣādo klīyate Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): viṣādā klīyate A'.
- 84c sarvān devān] N Ed.: sarvasadevān Ms.
- 86a icchan] Ms. N: ichen Ed.
- 91d uḍūr] Ms.: aḍūr N: ahūr Ed.
- 93b °āśrayān] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): āśrayan A' N.
- 93c maṭha] Ed.: matha Ms. N.
- 94a °āraṇya] Ms.: °āraṇyā N Ed.
- 94b *kṣetra] ex coni: kṣatra Ms. N Ed.
- 95b pratiṣṭhitān] Ms.: pratisthitān N Ed.
- 96b sucirād] Ms. N: sucīrād Ed.
- 97b niraṅkuram] Ms.: nirantaraṃ N Ed.

- 100d balavad] Ms.: valavān N Ed.
- 101c bhāvinā] Ms.: bhāvino N Ed.
- 102d satye] Ms.: satya N: satyaṃ Ed.
- 105b puraḥ sthitaḥ] Ed.: purasthitaḥ N Ms.
- 107b saṃtati] Ms. N: saṃtatiṃ Ed.
- 108c yuvatiṃ] Ms. N: yuvatiṃ Ed.
- 109c janma] Ms.: janmaḥ N Ed.
- 111c yuvatiṃ] Ms. N: yuvatiṃ Ed.
- 111d yathāvidhi] Ms.: yathāvidhiḥ N Ed.
- 113d cirāt] Ms. N A': 'cirāt Ed.(as TAKAHATA's conj. for A')
- 115a kāntaṃ] Ms.: kāntā N Ed.
- 116c saṃstho yat] Ms.: saṃsthāyat Ed.: saṃsthāya N.
- 121c *pathyopacārasaṃyuktair] corr. (cf. 123b): supathyopacārasaṃyuktair Ms. N. Ed. (metre!)
- 122b komalaiḥ] corr.: komalais Ms. N Ed.
- 123d °yat prasādayan] N Ed.: °yat prasādayat Ms.
- 124d bhāryāsūyayaivaṃ] Ms.: bhāryā bhūya evaṃ N Ed.
- 125a yuvatiḥ] Ms. N: yuvatī Ed.
- 125b api saṃtatiṃ] Ms.: atisaṃtatiṃ N Ed.
- 127ab me yathā] N Ed.: mer yathā Ms.
- 127b syād] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): smād A' N.
- 127c prakartavyaṃ] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): prakurtavyaṃ A'.
- 129c dravyaṃ] Ms. N: drayaṃ Ed.
- 131d prasaśrāvābhyaśeṣataḥ] Ms.: prasaśrāvābhyaśeṣataḥ N Ed. Here the word *abhy-aśeṣa-tas* seems to mean *abhitas + aśeṣatas*. Or read *aty-aśeṣataḥ or *apy aśeṣataḥ?
- 135d niṣphalaṃ] corr.: nisphalaṃ Ms. N Ed.
- 136c tāṃ patnīm] Ms. (patnīm add. marg.): tāṃ bhāryām N (bhāryām add. marg.): tāṃ Ed.
- 137b sādhini] Ms.: sādhinī N Ed.
- 137c mahāghoraṃ] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): mahoghoraṃ A'.
- 138a sarvāḥ] corr.: sarvās Ms. N Ed.
- 138d mayānīsaṃ] Ms.: mamānīsaṃ N Ed.
- 143b careya] Ms.: cireyu N Ed.
- 144c cirāśā°] N Ed.: ciṃrāśā° Ms.
- 144cd tasthau ratnatrayaṃ smaran] Ms. N. (These last words in 144 and most part of the next stanza are lacking in Ed.)
- 145a-c] pādas a-c are lacking in Ed.

- 146a pretikā yāsau] Ms. N: pretikā Ed.
- 147c tenāsau] Ms.: tenāsā N: tena sā Ed.
- 149cd sarvāṃs tām svātmajān bālān api] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): sarvās tāṃ svātmajā bālānāpi A' N.
- 150c dagdhā] Ms. N: dagadhā Ed.
- 152d *miśritasya] ex coni: viśritisya Ms.: viśriteṣya N: viśrite sya Ed.
- 154a buddhe] Ms. N: buddha Ed.
- 158b sudhīḥ] Ms. N: śudhīḥ Ed.
- 158c sasamṅghasarvalokaś] Ms. N: sasamṅghaḥ sarvadā lokāś Ed.
- 160a bhagavan *pāpinī] ex coni: bhagavan sā pāpinī Ms. N. Ed. (excess of one syllable)
- 160c tadghora] Ms. N: tatghora Ed.
- 161a jagacchāstaḥ] corr.: jagacchāstas Ms. N: jagacchāsta Ed.
- 167b prabhā ceyaṃ] Ms.: prabhāveyaṃ N Ed.
- 168b prasarpati] Ms. N (prasarpapati): prasaryyati Ed.
- 168d bhajeya] Ms.: bhajeyaṃ N Ed.
- 169d tiṣṭhed draṣṭuṃ] Ms.: tiṣṭhe duṣṭaṃ N: tiṣṭhe dṛṣṭaṃ Ed.
- 170c pretalokāt] corr.: pretalokān Ms. N Ed.
- 172d pretalokāt] corr.: pretalokān Ms. N Ed.
- 173d sarvān] Ms.: sarvā N Ed.
- 174a sarvair] corr.: sarver Ms.: sarve N Ed.
- 176a muktāḥ] corr.: muktās Ms. N Ed.
- 177d samīchire] N Ed. (cf. 18d, samīchire): samicheran Ms. (metre!)
- 180d śubhāṃ carim] Ms. N: śubhācarim Ed.
- 182b vimocitā] corr.: vimocitāḥ Ms. N: vimocitā[h] Ed.
- 183b sadgati] Ms. N: sadgatiṃ Ed.
- 186b śrutam mayātra] Ms. N: mayātra Ed.
- 187b śrāvayitvā] Ms. N: śrāvāyitvā Ed.
- 190a °kathitam idam] metre!
- (Colophon:) // iti pretikāvadānaṃ samāptam // 16] Ms.: // iti pretikāvadānaṃ samāptam // 23 N:
// iti ratnāvadānatatve pretikāyāḥ kathā samāptam // Ed.

SMRAM 第16章『餓鬼女アヴァダーナ』和訳

vv.17-190

その時世尊は近坐する彼らすべてをご覧になり、道の支分を具えた聖諦という正法をお説きになりました。[17] 彼らすべてはその正法の甘露を飲み、諭され、卓越した法を理解して、菩提行を欲しました。[18]

その頃、ある日、具壽ナーラダという名の比丘が乞食のために鉢を持って、王舎城に行きました。[19] (#2) 一人の在家が、そのナーラダ比丘が乞食のため遊歩しつつ近づいてくるのを見て、喜んで家の中の座へと案内しました。[20] 座に坐らせられ、敬意を払われた彼は、極上の味の乳粥をもって、また天の甘露に等しい様々な飲物をもって、供養されました。[21]

かの出家はそれを食べ終えて満足し、彼に祝福 (subhāsis) を与えて、そこを出立し、人気の無い森で過ごすために [そこに向かって] 遊歩していました。[22] (#3)

瑜伽を行ずる者 (yogin) であるそのナーラダは、そこで、靈鷲山の近くで、まるで羅刹女のように恐ろしい姿の、ひとりの餓鬼女を見ました。[23] (#4) 彼女は樹の根元にたたずみ、血の滴りに満ちた衣で覆われ、骨や頭蓋骨が散らばった餓鬼の住処に棲んでおり、自分の [産んだ] 子供たちまでも食べ、渴きと飢えに焼かれ、四肢は痩せ細り、物凄行相をして、雑色のざんばら髪をしていました。[24-25]

かのナーラダは見て、そこに近づいて行き、その前で、その餓鬼女を見つめて、次のように前世の行いを尋ねました。[26] (#5) 「今、このように耐え難い苦しみを味わっているとは、あなたは前世でどのような恐ろしい罪惡をなしたのですか。」[27]

そのようにその阿羅漢に尋ねられると、かの餓鬼女は号泣しながら、その出家ナーラダを見ながら、徐に次のように語りました。[28] (#6) 「尊師よ、どうしてここで私の前世の行為を語りましょうか。あなたはかの世界を知る方に私の前世の行為をお尋ね下さい。[29] かの牟尼の王・世間師が、あなたに私どもの前世の行為を教示されるでしょう。太陽が昇る時、灯明がどうしても必要でしょうか。[30] そのようにして私どもが作った罪惡を聞くなら、人間など他の有情たちは戦慄して、誰もそのような罪惡をしなくなるでしょう。[31] その時、あらゆる者はそのような罪惡を止めて、戒を護持し、三宝に帰依して、常に熱心に崇めるでしょう。」[32]

このように彼女がいうのを聞いて、そのナーラダは諭され、「そうします」と答え、ただちに立ち去って、かの竹林 [精舎] へ赴きました。[33] (#7)

その時その [精舎] で、かの世尊は禪定処から起ち上がり、集会の中央の座に坐られ、正法を説かれました。[34] (#8)

ちょうどその折、急いでいるナーラダは遠くから、かの光輝の塊である方 (仏) を見て、ただちに近づきました。[35] (#9) このように近くにやって来たナーラダをかの牟尼の王はご覧になり、離れた所から呼び寄せられ、更にこのように言いました。[36]

「さあ、いらっしゃい。比丘よ、ようこそいらした。ここに何故に来られたのですか。このようにあなたが来られたわけを私に話さない。」[37]

このように牟尼の王が言われたので、かのナーラダは合掌し、牟尼の王に近づき、彼を拝礼して、このように報告しました。[38] (#10) 「世尊よ、あなたの両足を見んがため、ここに参りました。今日、私は人気の無い森で過ごすために、[そこに] 向かって歩いておりました。[39]

そこで私はまるで羅刹女のように恐ろしい姿の、ひとりの餓鬼女を見ました。四肢は痩せ細り、物凄い行相をして、血の滴りに満ちた衣を纏っており、無数の骨や頭蓋骨が散らばった餓鬼の住処に居ました。彼女に近づいて、その[前世の] 行為を私は尋ねました。[40-41] (#11) 「今こんな大変な苦しみをあなたが味わっているとは、前生においてあなたは一体どのような恐ろしい罪惡をなしたのですか。」 [42]

このように私が尋ねますと、かの餓鬼女は苦痛に苦しめられながら、号泣して、私を見て、徐にこのように語りました。[43] (#12) 『尊師よ、私がなした罪惡をどうして私が語りましょうか。そのおかげで今これほど大変な苦しみを私が味わうことになったのです。[44] 夜に五人の子を産み、昼に同様に別の五人を産んでは、かれらを私は食べています。それでも私には飢えが充たされることがないのです。[45] このように飢えと渴きの火の激しい熱に焼かれながら、昼も夜も大きな苦しみを味わい、沙漠に居るのです。[46] どのような恐ろしい、戦慄すべき罪をかつてなしたのか、それは私によっても知られていないのです。それを牟尼の王に尋ねて下さい。[47] かの一切智・世間師・世尊・牟尼の王は、私がなした罪惡のすべてを、説き示してくれるでしょう。』 [48]

このように彼女が語るのを聞いて、諭された私は「そうします」と答え、あなたにそれをお尋ねするため、今やって参りました。[49]

今これほど耐え難い苦しみを味わいながら彷徨っているとは、一体彼女はどのような恐ろしい、戦慄すべき罪をかつてなしたのか、そのすべてをご教示され、どうか[私たちを] 覚知させてください。それを聞いて、すべての者は、つねに善を行うであります。』 [50-51] (#13)

このように彼に請われたかの世尊・牟尼の王は、偉大な通智者であるそのナーラダをみつめて、次のように教示されました。[52] (#14) 「ナーラダよ、かの餓鬼女は極重の罪惡をなしたのです。その行為を聞きたいと望むのでしたら、今あなたに語りましょう。聞きなさい。[53]

かくの如くです。昔、ベナレスの都城に大商人である富裕な長者がおり、大きな栄耀をそなえ、財産の主としてまるでクペーラ神 (śrīda) のようでした。[54] (#15)

彼は良家の慣習法をもつ妻を、儀礼に則り、娶りました。彼は美しい[妻] と喜悅し、楽しみました。[55] (#16)

とても久しく、そのように彼が戯れ、娛しんだにもかかわらず、彼女には一人の息子も娘も生まれませんでした。[56] (#17)

すると世継ぎ〔の子〕を見ることを切望する、家長たるその長者は、その時絶望に焼き苦しめられて心乱れて、まるで病人のようになってしまいました。[57] (#18) 彼は頬杖をついて、悲しみの家に閉じこもり、〔家の〕財への心配によって憂い顔をして、心でこのように思いました。[58] 「ああなんという運命であろう。今世で私にこのような苦と楽とが生じるなんて、一体私は前世でいかなる罪を、善行と悪行とをなしたのだろうか。[59] 私の家には無数の財産・資産が生じた。しかしそこには〔財を〕享受する一人の息子も娘もいないのだ。[60] 私が死んだ後に、すべての私有財は『〔受け継ぐ〕息子無し』とされて、あらゆる財を悉く王が没収するであろう。[61] 私が無数の苦勞によって築き上げ、守ってきたものの一切が、〔世継ぎがないという〕馬鹿げたことで失われてしまうのだ。[62] それ故、ここで私はどう行動したらよいのか。その方策が思いつかない。全く私は破滅だ。この状況で今私を助けてくれる人が誰かにいてくれればよいのだが。」[63]

このように心配によって憂い顔をしているその家長である主人を、かの美しい妻は見えて、〔夫を〕みつめながら次のように語りました。[64] (#19) 「旦那様、どうしてあなたはここでこのように苦しみと懸念をもって過ごされているのですか。なぜ苦悩があなたに生じているのですか。それを私の前でおっしゃってください。」[65]

この妻の問いかけを聞いて、かの家長はため息をつきながら、その美しい愛する妻を見て、次のように言いました。[66] 「この場合、私は何を言えるだろうか。私には大きな財産があるのに、それを享受する人がいない。そのための方策が思いつかない。[67] 私が死んだ後、確実に王は、息子が無い私のこのあらゆる財を「王に属するもの」として没収するだろう。[68] 私のこれらの財は、大変な苦勞をして築き上げ、守ってきたもののなのに、跡継ぎがないばかりに、そのすべてが無意味に失われてしまうのだ。[69] その苦悩が私に生じているが、それをここでどう私は言うことができようか。この大きな〔苦悩の〕矢を、私のこの胸から誰が引き抜いてくれるだろうか。[70] このように、心配の毒によって私の胸は焼かれている。それ故私はこうして毒に焼かれる病人のように苦しみつつ過ごしているのだ。」[71]

そのように夫が語るのを聞いて、その美しい愛すべき妻は、その主人を見つめながら、〔彼を〕諭すために言いました。[72] 「いとしい方、決してそのために絶望なさってはなりません。もし世継ぎを欲するのなら、それを得るための手段を実行なさい。[73] 聖霊たち (devatā) の恩恵により、方策は成功するかもしれません。それ故、神々を供養して、熱心に世継ぎをお願いしなさい。[74] そうすれば、神の恩恵 (devaprasāda) により私たちに世継ぎが生まれるかもしれません。もし息子が娘が生まれるなら、人生に成果があったというものです。[75] 私のこの言葉を聞いて、もし家系の存続をあなたが願うのであれば、世継ぎを希って聖霊 (devatā) に供養をなし、崇めなさい。」[76]

このように妻が言うのを聞いて、諭されたその家長は、「そうしよう」と賛成し、その通りに実行しようと欲しました。[77] その家長である長者は、妻と共に熱心に自分の家の守り神（svakuleśa）を供養して、家の世継ぎ〔の誕生〕を切願しました。[78]

それにもかかわらず、その長者の妻は妊娠しませんでした。そのため彼は前と同様に絶望して全く意気阻喪してしまいました。[79]

かの美しい妻は、絶望のあまり心がうちひしがれたその夫を見て、再び次のように言いました。[80] 「旦那様、ここで落胆しないで下さい。しっかりして下さい。落胆すると、心は弱ります。弱った心では努力する気持が持てません。[81] 努力する気を失っては、この輪廻界では目的を何一つ成し遂げられません。それ故、努力する気をお出しになって、専心して神々（deva）を崇めなさい。[82] たとえ息子が生まれず、娘が生まれなくても、聖霊（devatā）を供養することで〔少なくとも〕間違いなく〔あなたの〕功德は増大します。[83] このようにお考えになり、もしあなたがこの輪廻界で常に幸せを願うなら、あらゆる神々（deva）を敬い、信心をもって熱心に崇め尊びなさい。」[84]

このように妻の言葉を聞いて、夫の長者は諭され、「そうしよう」と返事して、神々を礼拝することにしました。[85]

このように家の世継ぎ〔の誕生〕を願いながら、かの家長は妻と共に熱心に造物主・創造者（sraṣṭṛ ブラフマー神）を供養し、家系が続くことを祈願しました。[86] それにもかかわらず、久しく経っても彼のその妻は妊娠しませんでした。期待を打ち砕かれた彼は、悲しみのあまり落胆した状態で過ごしていました。[87]

それでも再び妻が激励しましたので、彼は諭されて、一切を維持する神（viśvaṃbhara ヴィシュヌ神）を拝んで、家系が続くことを祈願しました。[88] それにもかかわらず、かの〔妻〕に〔妊婦固有の〕嗜好という特徴が現れる兆しがありませんでした。そのためその家長は絶望して気力を失ってしまいました。[89]

そうであっても、妻は彼を再び激励しましたので、諭された〔かの夫〕は、大自在天（maheśvara シヴァ神）を拝んで、家系が続くことを祈願しました。[90]

さらに同様にインドラ神を供養して、家系が続くことを願いました。さらに同様に、あらゆる護世王たちを、またあらゆる星宿を供養して、家系が続くことを祈願しました。[91]

その後、同様に大黒天（mahākāla）を、クマーラ神（スカンダ神）を、ガナの王（ガネーシャ神）を、バイラヴァ神を、マートリカーたちを拝みつつ、家系〔の継続〕を請い求めました。[92]

また同様に、寺院や祠堂にいる他の神々、僧院・宿坊・隠遁処や園林や丁字路に居る〔神々〕、遊園や山や森や田畑の境界にいる〔神々〕、水の住まいにいるあらゆる

る〔神々〕、あらゆるナーガ（龍）たち、車道・十字路〔など〕の道に居るあらゆる神々を折り供養して、切望する彼は家系の続くことを祈願しました。[93-95]

それにもかかわらずその長者のかの妻には、久しく経っても、〔妊婦の〕奇妙な嗜好〔という特徴〕が生じる兆しが少しもありませんでした。[96] (#20) そこでその家長である長者は家系に若枝が出ないのを見て、絶望のあまり、氣力を失った心で、まるで病人のようになって過ごしていました。[97]

その愛される美しい女は、苦悩によって様変わりした夫のその顔を見て、再び彼を見つめながら言いました。[98] 「旦那様、ここで落胆していても、それで何か事が成就するわけではありません。そのようにお考えになって、欲するがままに〔今の〕幸せを愉しみ、〔楽しく〕お振舞いください。[99] 私たち二人が〔前世で〕罪惡をなし、その果を今味わっているのです。それ故、ここで私たちが何をすべきでしょうか（何をしても無駄です）。この人生で、運命（daiva）が力あるものなのですから。[100] もし不可能であり、可能性がないのであれば、どうしてもそれは変わりません。必然的に、可能性があることによって、もろもろの〔達成の〕状態がこの人生で全くあるのです。[101] このようにお考えになって、この輪廻界で、好きなように幸福を愉しみつつ、三宝を崇めながら、専心して、真理（satya）を実践なさってください。[102] そのようにすれば、この世でもあの世でも、あらゆる幸があるでしょう。そして次第に菩提の境地に達して、涅槃を得るでしょう。」[103]

このように妻が語ったことを聞いて、諭された長者は、三宝を崇めながら、しばらく時を過ごしました。[104]

すると彼の親友である友が来て、〔彼の〕前に立ち、その〔家の〕世継ぎの誕生のため、彼の友（長者）にこう言いました。[105] (#21) 「わが友よ、君を利益するために私が話す言葉を聞きなさい。あの〔君の〕いとしい〔細君〕には、どうやっても君の世継ぎは出来ません。[106] それ故、世継ぎを得るため、対策を講じるべきです。輪廻界では家系が絶えた者にとって、すべての成功は無意味になりますから。[107] そこで、世継ぎの誕生のため、息子を産む可能性がある第二の別の若い妻と、儀礼に則り、再度結婚しなさい。[108] よい運命によって、その〔二番目の妻〕がいつか息子を産むかもしれません。そうなれば、君の生は実りを得たというものです。家系は存続するでしょう。」[109]

このように友が語るのを聞いて、諭されたその家長は、「そのとおりにしよう」と承諾し、その友を尊重しました。[110]

そしてその家長である長者は息子を産む可能性がある別の若く美しい女性を見て、儀礼に則り結婚しました。[111] (#22)

その後良家の子であるその長者は彼女とともに喜び、欲するままに快楽を味わい、悦楽の行為をしながら、楽しみました。[112] (#23) そして家住者たる彼が欲するまま享樂するうち、久しく経ったある時、いとしいその妻が妊娠しました。[113]

その後彼女の胎児は日に日に次第に大きくなりました。その時、彼女はお腹に子が出来たことをはっきり認識して、歓喜しました。[114] (#24) その美しい善い女は喜悅し、最愛の夫をひそかに呼びよせて、見つめながら、このように言いました。[115]

「旦那様、幸運により益々繁栄なさいますように。私のお腹に、お子が出来ました。右脇にいますから、きっと男の子です。」[116]

こう妻が言ったのを聞き、歓喜したその家長は、右腕を上には伸ばし、嬉しげにこう言いました。[117] (#25) 「ああ、私の望みが適うのか。世継ぎの顔が見れるのか。今や私はできそこないの者 (avajāta) ではない。家が存続するなら。[118] [その子が] 私の仕事をしてくれますように。養育された [子] が、お返しに [私たちを] 養育してくれますように。遺産を受け継いでくれますように。家系が永続しますように。[119]

『私がなした布施、達成された福德、それが異熟による幸せとして、この二人 (両親) を追ってゆけ』 [と、その子は祈ってくれるのだろう] 。」[120]

このように喜んだその長者は、そのいとしい善い妻を、適した給仕をそなえた様々な食事をもって [大切に] 養いました。[121] (#26) [彼女を] 妙衣、絹の衣、柔らかなよい香のする薄布や、種々の宝石の装身具で飾らせて、喜悅させました。[122] このようにその美しい善い女を [夫は] 適した給仕で養い、装身具で飾り、悦ばせながら、尊重しました。[123]

このように夫の敬意によって喜ばされているその妊婦を見て、かの第一夫人は嫉妬心をもって、このように考えました。[124] (#27) 「もしこの若く美しい女が世継ぎを生んだら、その時このあらゆる富と栄光があの方に属するものとなるだろう。[125] この女はすべての者を従わせる権威をもつ首夫人になるだろう。息子がなく、歳をとった私に、誰が尊重すべき権威を認めるだろうか。[126] それ故、ここで今、私の夫のもう一人の妻であるあの方が流産するように、極秘裏に私は手だてを講じねばならない。」[127]

欲望・情欲の火に焼かれた者にとって、いかなる [恐れるべき] 罪もないのです。是が非でもあらゆるものを享樂しようとして、あらゆる行為がされうるのです。[128] (#28)

その後邪惡なその女は、飲物に入れた墮胎薬を、信賴させる親密さで話しかけながら、彼女に与えました。[129] (#29) 素直なその善い女は、夫の別の妻から与えられたその飲物を見、両手で受け取り、すぐに飲み干しました。まるで喉の渇きに悩んでいたかのように。[130] するとそれを飲んだだけで彼女の胎児は激動し、ただちに液状になって、残りなく流れ出ました。[131]

その〔流産の〕後、その善い妻は、かの夫や親族たちをただちに呼び寄せて、次のように報告しました。[132] (#30) 「旦那様、あなたの愛するあの奥様は、薬を入れた流産させる飲物をうやうやしげに、私に与えたのです。[133] 信頼して私はあの方が与えたその飲物を受け取り、飲んだのです。その飲物を飲むやいなや、私のお腹の子は今、流れてしまいました。[134] ここで私はどうしたらよいのでしょうか。私の赤ちゃんが死んでしまったのです。その〔子を得る〕ためにあなたがなされた布施、そのすべてが無駄になりました。」[135]

その妻の話を書くや、その長者は激怒しました。かの〔先の〕妻をただちに呼び寄せ、罵倒しながら、次のように怒鳴りつけました。[136] 「ああ、なんという馬鹿、悪女、恐ろしい罪をしでかした女よ。おまえはこんなに大きな恐ろしい罪を作ったのだぞ。[137] その〔子を得る〕ために私はあらゆる神々を供養し、祈願した。絶えず様々な努力をしてきた。[138] そのすべての努力をお前は無駄なものにしたのだ。此処では、極悪の妻であるお前なんかいない。さあ、出て行け。私は悪女のお前を棄てる。私のこの家に居るな。」[139]

こう主人が語るのを聞いて、悪い心をもつ彼女は、親族を伴ったその家長の前で、このように言いました。[140] (#31) 「旦那様、どうしてそんなことをおっしゃるのです。私は本当にそれをしていません。私が思ってもみないことです。それ故あなたはそのことを御熟考ください。[141] もし仮に私が彼女に流産させる薬を与えたなら、〔私は死後に〕餓鬼女となって、昼夜に自分の子である息子たちが生まれるたびに、むさぼり食い、そのようにして大苦のある悪趣を常に彷徨うことでしょう」。と、このように誓いを立てて、その主人を諭しました。[142-143]

その妻が語った言葉を聞いて、その長者は諭されて、長年の希望を放棄した心で、三宝を念じながら暮らしました。[144]

その後、しばらく経ったある時、その妻は激しい苦しみの炎に焼かれました。死法をそなえた彼女は死んで、餓鬼界に行きました。[145]

かの餓鬼女こそ、その悪い心をもった長者の妻だったのです。自らが作った業によって味うべきものを味わいながら、今このように彷徨っているのです。[146] (#32) 彼女はその嫉妬心によって流産させたのです。それ故彼女は罪深い姿をした餓鬼女として彷徨っています。[147] また誓いの言葉を語り、嘘をついたので、かようにその業果により常に悪趣をさすらっています。[148] 昼と夜に五人の息子を産んでは、飢える彼女はその自分が産んだ子すべてを、幼子にもかかわらず、食べ、しかも飢えがやむことはありません。[149] 今後もそのように罪深い彼女は生まれるたびにわが子たちを食べながら、飢餓の火に焼かれながら、餓鬼界を常にさすらいつづけるでしょう。[150]

ナーラダよ、このようによく知って、浄善を求める者たちは、いつも罪の行いと嘘をやめて、正法を行ずるべきです。[151] (#33) 正しい法の異熟には常に吉祥（繁栄）が

あるでしょう。罪惡には常に苦が、また〔善惡〕混じった場合には両者があります。[152] このように考えて、常にあなた方は三宝に帰依し、敬い、信心をもってたえず一心に奉じなさい。[153] 仏に帰依して浄信をもって熱心に奉じる者たちは皆、惡趣を捨てて、勝者の住まい（jinālaya）に赴きます。[154] 正法を聴聞して〔それを〕恭しく尊重する者たちは皆、煩惱を克服して、善逝の住まいに行きます。[155] 僧衆に帰依して、敬い、奉じる者たちは皆、惡趣を脱して、スカーヴァティー（極樂）に行きます。[156] このように考えて、この輪廻界で常に白淨〔業〕を望む者は、三宝への奉事をなして常に白淨の〔行為〕を行いなさい。」[157]

このように牟尼の王（仏）が教示されたのを聞いて、賢いナーラダは、僧衆やあらゆる〔集まった〕人々と共に、「そういたします」と承知しました。[158] (#34)

するとかの比丘ナーラダは〔仏の〕前に立って合掌し、世尊を拝礼してから、彼女の〔罪の〕浄化を尋ねました。[159] 「世尊よ、あの罪深い餓鬼女は、いつ、どのようにかの餓鬼界から、その恐ろしい罪から解放され、善趣に行くのでしょうか。[160] 世間師よ、彼女がすみやかに惡趣を脱して、善趣に行くための、その方法をお教え下さい。」[161]

このようにそのナーラダに請われたかの一切智・世尊は、彼と集会の人々をみつめて、次のように教示しました。[162]

「ナーラダよ、彼女の、その罪からの浄化を聞きなさい。今、〔解き放たれる〕方法と時節を説きましょう。[163] あらゆる有情を憐れむ守護主（nātha）、三界の王である自在者であるローケーシュヴァラ（lokeśvara 世自在）菩薩摩訶薩が、スカーヴァティー（極樂）から出て、あらゆる世界を照らしながら、あらゆる有情を救済するために、餓鬼界を遊行するでしょう。[164-165]

その時、彼の光明に触れたかの〔餓鬼女〕は、とても安樂になり、『なぜ私は今、大きな安樂を得たのだろう』といいながら、考えるでしょう。[166] 『ああ、安樂が生じたのは、この光明が発せられたからだ。きつと摩訶薩（世自在、すなわち觀自在菩薩）が有情たちを救うためにここに來られたのだ。[167] あのお方の善い同情の眼差しは、このように有情たちに注がれているのだ。あのお方に帰依をして、私はいつも熱心に崇め敬おう。』[168] かの餓鬼女は驚いて、このように思案し決意して、かの〔菩薩〕に対して憶念をなし、見たいと切望し続けるでしょう。[169]

その時、かの世尊、憐れみを本質とするローカナータ（lokanātha 世の守護主〔觀音の異名〕）は、餓鬼界から救わんがため、光り輝きながら近づいてくるでしょう。[170] 光り輝く彼が來るのを見て、すべての餓鬼たちはただちに近づいて、次のように恭しく懇願するでしょう。[171] 『世尊、守護主よ、よく來て下さいました。どうか何卒、最高の自在者よ、私らをご覧になられて、餓鬼界から救い出してください。[172] つね

に世尊のみに帰依いたします。それ故、我らを浄化して、すべての者を善趣に行かせてください。』[173]

すべての〔餓鬼たち〕にそれを懇願され、憐れみの宝蔵であるローカナータは、正法を教えてから、また次のように教示されます。[174] 『もしつねに安樂を願うのなら、あなた方は皆、専心して三宝に憶念をなして、信心をもって熱心に〔三宝を〕崇め敬いなさい。[175] そうすれば、浄められた (pavitrita) あなた方すべては、これらの罪から解き放たれて、ただちに善趣に達して、菩提行をなす者となるでしょう。』[176]

かの世間師ローカナータからのこのような教示を聞いて、彼らすべての餓鬼たちはその通りになそうと欲するでしょう。[177] その時かのすべての餓鬼たちは清らかな心で、熱心に三宝に帰依し、憶念しつつ礼拝し、崇め敬うでしょう。[178] その時かの餓鬼たちすべては、その憶念の功德により、その餓鬼界から抜け出して、スカーヴァティー（極楽）に行きます。[179] そこで彼らすべては守護主アミターバ（阿弥陀仏）に帰依し、崇めつつ法を聴聞して、白浄の行を実践するでしょう。[180] そしてそのすべての有情は善行をなす菩薩となり、漸次にやがて菩提に達して、仏陀の位を得ることでしょう。[181]

その時にかの罪ある餓鬼女も、あらゆる罪から解き放たれ、餓鬼界から抜け出して、善趣に達するでしょう。[182]

このように考えて、この輪廻界で善趣における幸せを望む者たちは、三宝を信奉して、常に白浄の〔行い〕をきなさい。[183] 三宝を崇めることで生じた功德は決して滅することがありません。〔それは〕あらゆる煩惱を焼きつくし、善逝の境地を得させるでしょう。』[184]

牟尼の王（釈尊）がこのような教示されたのを聞いて、かの出家ナーラダは、僧衆や集会の人々と共に、「そういたします」と喜悅しました。[185]

— 以上、師が私に教えられたことを、私は申し上げました。かようにお考えになられ、王よ、あなたも同様に絶えず三宝を崇めなさい。[186] また法を同じように民衆に説き聞かせて、覚知を得させ、菩提への道にしっかり立たせ、専心して〔彼らを〕守護しなさい。[187] そのことによって、必定にあなたには常に幸せが至る所であるでしょう。漸次にやがて喜ばしい悟りに到達し、仏陀の位を得ることでしょう。[188]

— 以上のように、かの聖者が教示されたのを聞いて、アショーカ王は「そういたします」と承諾し、集会の聴衆と共に喜悅しました。[189]

餓鬼女について、善逝によって語られたこのアヴァダーナを信心により喜びの心をもって聞く者、また〔他に〕聞かせる者であるすべての人々は、三宝を絶えず崇めて、菩提心を得て、世間の人々に善をなして、あらゆる福德の糧食を持って、仏の世界に行く。[190]

以上、『餓鬼女アヴァダーナ』（pretikāvadāna）終わる。第16章。

第2節 Avadānaśataka 第49章 Putrāḥ と SMRAM 第16章の比較

上の節でテキストを和訳を示した SMRAM 第16章 Pretikāvadāna の原話である Avs 第49章の全訳を次に示し、その後に、それら二つのテキストを対照させてみたい。

アヴァダーナ・シャタカ第49章『息子たち』(Putrāḥ) 和訳

SPEYER ed., i.274.1-278.6

#1 仏・世尊は、王や大臣や財産家や市民や長者（富商）や隊長や神や龍や夜叉や阿修羅やガルダやキンナラやマホーラガに敬意をもって遇され、重んじられ、尊ばれ、供養されておりました。このように神や龍や夜叉や阿修羅やガルダやキンナラやマホーラガに崇められた仏・世尊は高名で、大福德に恵まれた者であり、衣服・施食・臥具坐具・病氣治療のための薬といった日用品を得ており、弟子たちを有する僧伽とともに、ラージャグリハ（王舎城）にある竹林園、栗鼠養餌処〔精舎〕に滞在しておりました。

#2 具壽ナーラダは午前には身支度をして、鉢と法衣を持って、ラージャグリハに托鉢のために入りました。

#3 ラージャグリハで托鉢行をなした後、食事を済まして、午後に托鉢から戻った彼は、鉢と法衣を片付けた後、餓鬼界の巡遊（pretacārikā）を始めました。

#4 彼は霊鷲山の近くで、餓鬼女を見ました。〔冥界の〕閻魔の羅刹女に似て、血の滴りに覆われ、骨と頭蓋骨に囲まれて、まるで墓場の中に居るかのようでした。昼と夜に五人ずつ子を産み、そのような苦しみを味わい、子への愛情がありながら、飢えに焼かれ苦しめられて、その子供たちを食べていました。

#5 ナーラダ長老は彼女に尋ねました。「あなたは一体いかなる罪をなしたため、このような苦しみを味わっているのですか。」

#6 餓鬼女は答えました。「太陽が昇る時に、灯明は必要ありません。この事を世尊にお尋ね下さい。かのお方があなたに私どもの『業の連繋』（karmaploti）を説明するでしょう。それを聞けば、他の有情たちも、この世で悪い行いをやめるでしょう。」

#7 そこで具壽ナーラダは世尊のもとに赴きました。

#8 その頃、世尊は独坐〔の状態〕から出られて、四衆に対して純粋な蜜蜂のように甘美な甘美な教を説かれました。数百人の会衆は諸感官の動きを抑えて（気を散らすことなく）、世尊から甘美な甘美な教を拝聴しました。

#9 その後、先に挨拶をされる方・人を和ませるように語る方である諸仏・世尊たちは〔人に〕『さあいらっしゃい、よくおいでになられた』と〔歓迎の言葉を〕述べ、先に微笑まれるのです。（具壽ナーラダが来た時、釈尊もそうなさいました。）その場で世尊

は具壽ナーラダに次のように語りました。「さあ、ナーラダよ、いらっしやい。あなたはよくいらした。ナーラダよ、あなたが今来られたのはなぜですか。」

#10 ナーラダは答えました。「尊師よ、私は餓鬼界を巡遊してから、こちらに参りました。

#11 そこで私は餓鬼女を見ました。〔冥界の〕閻魔の羅刹女に似て、血の滴りに覆われ、骨と頭蓋骨に囲まれて、まるで墓場の中に居るかのようでした。

#12 [彼女は] 語りました。〔韻文：〕

「夜に五人息子を産み、昼にまた別の五人を産み、彼らを私は食べています。

それでもなお私の飢えが満たされることがありません」。

#13 これほど恐ろしい苦しみを受けるとは、彼女は〔かつて〕人世で、
一体どのような恐ろしい罪惡をなしたのでしょうか。

#14 世尊はおっしゃいました。「ナーラダよ、かの餓鬼女は罪をなしたのです。あなたは彼女の『業の連繫』を聞きたいですか。」「尊師よ、その通りです。」

「それではナーラダよ、聞きなさい、しっかりと〔話に〕思念を向けなさい。話しましょう。」（次のような餓鬼女の前生話を話されました。）

#15 ナーラダよ、昔ベナレスの都城に或る一人の長者がいました。富裕で、大財産をもち、大資産をもち、莫大な所有品を有して、〔まるで〕毘沙門天の財をそなえて、毘沙門天と富を競うかのようでした。

#16 彼は相応しい家から妻を娶りました。彼は彼女とともに戯れ、娛しみ、悦楽の行為をしました。

#17 しかし彼が戯れ、娛しみ、悦楽の行為をしたにもかかわらず、息子も娘もできませんでした。

#18 彼は頬杖をついて、心配な物思いに耽りました。「私の家には無数の財産が具わっている。しかし私には息子も娘もいない。私が死んだ後は、すべての私有財は「息子が無い」ということで、王が処分することになろう。」

#19 息子がいない彼は、息子を切望して、シヴァ神・ヴァルナ神・クベーラ神・インドラ神・ブラフマー神などや、また他の特別な聖霊たち (devatā) に祈願しました。すなわち、園林の神、森の神、十字路の神、丁字路の神、食物供養 (bali) を受け取る神々です。また〔人と〕法を共にして常に随行する俱生神にも祈願しました。

#20 [神への] 祈願を原因として、息子や娘が生まれるという俗信が世間にありますが、それは本当ではありません。もしその通りであれば、転輪王のように、各人が千人の息子をもつことが出来るでしょう。ですが、三つの事 (条件) が揃うことによって、息子や娘が生まれるのです。三つの事とは何でしょうか。父母が愛欲をもち共に寝ること、母が健康で受胎に適した周期にあること、ガンダルヴァが傍にいますこと。これ

ら三つの事が揃った時、息子や娘が生まれるのです。神を奉じ願ったにもかかわらず、彼には息子も娘もありませんでした。

#21 彼に次のような考えが生じました。「私は第二の妻を娶ろう。もしかすると妊娠するかも知れない。」

#22 彼は相応しい家から妻を娶りました。

#23 彼は彼女とともに戯れ、楽しみ、悦楽の行為をしました。彼が戯れ、楽しみ、悦楽の行為をして、しばらくするうち彼女は懐妊しました。

#24 大喜びに喜んだその女は、主人に告げました。「旦那様、幸運により益々繁栄なさいますように（どうかお喜びなさいませ）。私は妊娠いたしました。私の右の腹に寄りかかっていますから、この子は男の子に違いありません。」

#25 彼も歡喜にわれを忘れ、上半身を起こし、右腕を伸ばし、感興の言葉を発しました。「とうとう私も久しく待ち望んできた息子の顔が見れるのか。私の生まれた〔子〕が、できそこないではありませんように。私の仕事をしてくれますように。養育された〔子〕が〔私たちを〕養育し返してくれますように。遺産を受け継いでくれますように。わが家系が久しく存続しますように。〔その子は〕私たちが死んだ後、少なくとも多くても布施をなして、福德を作って、私たち〔両親〕の名前で施〔の福德の受け手〕を指定してくれますように。「この〔功德〕は、彼ら二人がどんな所に生まれようと、死去しようと、ずっと追ってゆけ」と⁽¹⁶⁾。

#26 〔彼は〕彼女が妊娠したのを知ると、高樓の上で窓に暮らさせ、寒い時には寒さ〔を防ぐ〕様々な器具、暑い時には暑さ〔を防ぐ〕様々な器具をもって、また医者たちが処方した食事をもって、〔すなわち〕苦すぎず、酸っぱすぎず、塩気が強すぎず、甘すぎず、辛すぎず、渋すぎないところの、苦さ・酸味・塩気・甘さ・辛さ・渋さが無い食事をもって、養いました。〔妻の〕身体は大小の真珠のネックレスにきらびやかに飾られ、まるで天女が〔天界の〕ナンダナ園を逍遙するかのよう、寝椅子から寝椅子へ、長椅子から長椅子へ、最下方の地面には降りることなく〔暮らしました〕。胎児が成熟するまでの間、彼女の気に障るような音が何一つ聞こえないようにしました。

#27 すると第一夫人である先夫人は、彼女が〔皆に〕尊敬をもって、大事にされているのを見て、嫉妬心を起こしました。〔このように〕考えました。「もしこの女が息子を産んだら、きっと私を悩ますに違いない。なんとしても手だてを講じねばならない」と。

16 この子供の誕生を喜ぶ感興の言葉は定型文として根本説一切有部毘奈耶にも見出され、義浄は次のように訳している：「我從久來常思、繼嗣紹我洪業。我既長養、終懷反報。廣爲惠施、福利宗親。我歿世後、稱揚我名。而爲呪願：願我父母所生之處以福莊嚴」（T23 691b26-c2）。

#28 欲望に仕える者にとっては、してはならない悪行など何も無いのです。

#29 悪趣への転落に傾いた彼女は、[その妻を] 信頼させて、それを飲んだだけでその哀れな女の胎児は流れてしまう、そのような種類の墮胎薬を与えました。

#30 その後、その第二夫人はすべての親族を招集し、第一夫人に詰問しました。「あなたは私に信頼を生じさせて、墮胎薬を与え、それで私のお腹の子は流れました。」

#31 すると親族たちに囲まれたその第一夫人は、誓いの言葉を口にしました。「もし私が本当に墮胎薬を与えたなら、私は餓鬼女になって、息子たちが生まれる度に食べることになってよい」と。

#32 ナーラダよ、どう思いますか。その長者の妻であった女が、かの餓鬼女なのです。嫉妬に駆られた彼女は墮胎薬を与え、それによって餓鬼界に生まれました。彼女は嘘をついて誓いをしたことの、その業の異熟により、夜と昼に五人の子を産んでは、それらを食べるのです。

#33 それゆえナーラダよ、言葉の悪行を捨てるようにあなたは努力しなさい。かの餓鬼女が有する罪惡と同じ様な罪惡があることが無いように。このようにナーラダよ、あなたは学びなさい。 —

#34 このように世尊は説かれました。感激したナーラダ長老と、他の神・アスラ・ガルダ・キンナラ・マホーラガなどは世尊のお説きになった[教え]を喜んで受け入れました。

以上が Avś 第49章 Putrāḥ の全訳である。訳にある # 番号は、Avś のテキストを私が切り分けて付けた paragraph number であり、対照の便宜のためにテキストを細かく分割した上で付けた番号である。S16は Avś 第49章の再話文献であるから、Avś に付したその # 番号を使って、以下に Avś 第49章と SMRAM 第16章（略号 S16）の内容的対応を示す対照表を挙げたい。Avś の # 番号の後に、その箇所 SPEYER 本の巻・頁・行と段落冒頭の語を（例えば i.274.2-6 buddho bhagavān のように）示し、その次に = を挟んでその段落に内容的に関係する S16 の該当箇所を verse number で挙げる（例えば = S16 vv.5-18 のように）。また、記号の○は Avś 49 の内容が SMRAM S16 の詩形改稿において膨張している箇所を示す。◎は異常に膨張している箇所を示す。

#1 i.274.2-6 buddho bhagavān = S16 vv.5-18◎

#2 i.274.6-7 athāyuṣmān nāladaḥ = S16 vv.19-21

#3 i.274.7-8 rājagṛhaṃ piṇḍāya = S16 v.22

#4 i.274.9-11 sa gṛdhra-kūṭa- = S16 vv.23-25

#5 i.274.11-12 tataḥ sthaviro = S16 vv.26-27

#6 i.274.12-14 preti āha = S16 vv.28-32

- #7 i.274.14-15 athāyusmān = **S16** v.33
 #8 i.275.1-3 tena khalu = **S16** v.34
 #9 i.275.3-5 tato buddhā = **S16** vv.35-37
 #10 i.275.5 nālada āha = **S16** v.38-39
 #11 i.275.5-6 tatrāhaṃ pretīm = **S16** vv.40-42
 #12 i.275.7-9 āha ca = **S16** vv.43-49○
 #13 i.275.10-11 kiṃ tayā = **S16** vv.50-51
 #14 i.275.12-13 bhagavān āha = **S16** vv.52-53
 #15 i.275.14-15 bhūtapūrvam = **S16** v.54
 #16 i.275.15-16 tena sadṛśāt = **S16** v.55
 #17 i.275.16-17 tasya krīdato = **S16** v.56
 #18 i.275.17-276.2 sa kare = **S16** vv.57-63○
 #19 i.276.2-5 so 'putrah = **S16** vv.64-95◎
 #20 i.276.5-10 asti caiṣa = **S16** vv.96-104○
 #21 i.276.11 tasyaivam = **S16** vv.105-110
 #22 i.276.12 tena sadṛśāt = **S16** v.111
 #23 i.276.12-13 sa tayā sārdham = **S16** vv.112-113
 #24 i.276.13-15 tayā hr̥ṣṭa- = **S16** vv.114-116
 #25 i.276.15-277.3 so 'py āttamanā- = **S16** vv.117-120
 #26 i.277.3-8 āpannasattvām = **S16** vv.121-123
 #27 i.277.9-11 tatas tasyāḥ = **S16** vv.124-127
 #28 i.277.11-12 kāmān khalu = **S16** v.128
 #29 i.277.12-13 tayā 'niṣṭa- = **S16** vv.129-131
 #30 i.277.13-15 tatas tayā = **S16** vv.132-139○
 #31 i.277.15-16 tato 'sau = **S16** vv.140-145
 #32 i.278.1-3 kiṃ manyase = **S16** vv.146-150
 #33 i.278.3-4 tasmāt tarhi = **S16** vv.151-157○
 #34 i.278.5-6 idam avocad = **S16** vv.158-185◎

以上の両者の対照から、SMRAM の本章**S16**は、その最初と末尾にある話の枠の部分（vv.1-4, 186-190）を除いて、Avś 第49章という原話を種本として話を展開していること、SMRAM が局所的に話を膨らませる場合にも、Avś の話の全体の流れを崩さないように配慮しながら再話していることが確認される。

ここで、上記の表において◎（大膨張）の印をつけた三つの膨張箇所について、なぜ膨張したのか、その理由を見てみよう。

Avś の#1の相当箇所において、そのAvś の内容がS16において (vv.5-18) 膨張している理由は、王舎城の竹林精舎に仏の説法を聞きに集まった大衆がどのようなグループから構成されるかを、マンダラの発想で平面的に順に記述しているからである。集会のこのような記述はSMRAMの他の章と共通するもので、真新しさは特に無い。

Avś の#19の相当箇所、Avś の内容がS16において (vv.64-95) 膨張している理由は、息子が生まれずに苦悩する夫を妻が励まし、いずれかの神の恩寵で子供を授かるうとして、夫婦が地上の聖霊たち (devatā) や天上の神々 (deva) への供養を行う懸命な空しい努力の様子が具体的に描かれているためである。

Avś の#34の相当箇所、Avś の内容がS16において (vv.158-185) 大きく膨張している理由は、種本の Avś には無かった、未来世の餓鬼女の救済に関する予言が、S16には話の最後に付け加えられているからである。Avś は小乗仏教・有部の業報文献として、業の恐るべき威力を語るだけで話を終えているが¹⁷⁾、それに対してS16は大乗仏教の信仰の土台の上に作られた再話文献であるため、種本の業報話の上に新たに付け加えた、仏と大菩薩への信仰の力による業の消滅を、話の締め括りとして説く。観音すなわち世自在 (Lokeśvara) 菩薩が¹⁸⁾、悪趣に堕ちた者たちを救済するため餓鬼界にもやって来る時、その時かの罪深い餓鬼女も菩薩に帰依し、三宝を憶念する功德によって救われ、阿弥陀仏のスカークヴァティー (極楽) に赴くことが釈尊によって予言される。悪趣の救済において、ちょうど中国・日本の民間信仰における地蔵菩薩が担う役割を、ここでは世自在菩薩が担っている。さて後期仏教の文献『サーダナ・マラー』 (Sāadhanamālā 成就法の花環) に説かれる観自在菩薩のタイプは BHATTACHARYA (1924) によれば15種類に分類されるが、その中に観自在菩薩のかなり特別な種類として、「餓鬼を満足させる世自在」 (Pretasamṭarpita-lokeśvara) ならびに「スカークヴァティー世自在」 (Sukhāvātī-lokeśvara) がある¹⁹⁾。S16の説話に出てくる世自在の活動は、それら二つのタイプの世

17 Avś 本章の並行文献であるパーリ聖典『餓鬼事』の第1品第6話のテキストでも、その餓鬼女の救済は語られないまま話が終わるが、聖典よりも後の時代に作られたアッタカター文献 (Paramatthadīpanī nāma Petavatthu-aṭṭhakathā) では、餓鬼女の救済の顛末までを語っている。パーリ上座部の伝統に基づくその餓鬼女救済の手段・経緯が、当然ながら、大乗的な SMRAM とは大きく違う点が注意される。アッタカターの英訳: U Ba KYAW & Peter MASEFIELD (1980): *Elucidation of the Intrinsic Meaning, So Named, the Commentary of the Preta-Stories*, London, pp. 36-40. 和訳: 藤本晃 (2007): 『死者たちの物語 — 『餓鬼事経』和訳と解説』、国書刊行会、50-53頁。

18 Lokeśvara は観自在菩薩の異名である。その古い典拠の一つとして、寂天の Bodhicaryāvatara 第2章第13頌がある。『荻原雲来文集』、253-254頁参照。

19 Benoytosh BHATTACHARYA (1924): *The Indian Buddhist Iconography*, London, pp. 50-51. 佐久間留理

自在の信仰と密接に関係している⁽²⁰⁾。この餓鬼救済の観自在は、Kāraṇḍavyūha にも説かれている⁽²¹⁾。阿弥陀浄土信仰と関連がある餓鬼救済型の世自在菩薩に対する信仰は、SMRAM などの仏教説話文献が作成されたネパールの中世・近世の時代にも、なお生きた信仰としての力を保っていて、説法師によってその菩薩による救済が熱く民衆に語られていたことがわかる。

※本研究は科研費（24520054）の助成を受けたものである。

<キーワード> Bodhisattvāvadānakalpalatā, Subhāṣitamahāratnāvadānamālā, Avadānanaśataka, Avadānamālā, Subhadrāvadāna, Hetūttamāvadāna, Pretikāvadāna

(九州大学大学院教授, Ph.D.)

子 (2011): 『インド密教の観自在研究』、山喜房仏書林、177-182頁。

20 本誌の前号(6号)に発表した拙稿中の SMRAM 第30章のテキストの第72詩節以下にも、この世自在 (Lokēśvara, Lokeśa) が出てくる。その第72詩節と第103詩節の翻訳で (pp. 233-234) 私は解釈を誤り、「世界主(仏)」と訳しているが、正しくは「世自在(菩薩)」と訳すべきであった。訂正したい。その SMRAM 第30章のテキストでは、世自在とスカーヴァティーとの密接な関係が明らかである。

21 P. L. VADYA (1961): *Mahāyānasūtrasaṃgraha*, Part 1, pp. 263-264 (Kāraṇḍavyūha, Sattvadhātu-parimokṣaṇaṃ tṛtīyaṃ prakaraṇaṃ). 佐久間留理子 (2011)、同上、178-179頁参照。SMRAM 第30章第74-75詩節で、世自在が手から (hastāt) 水流を流し注いで、餓鬼たちに水を与える描写は、佐久間が紹介する Kāraṇḍavyūha の第1部第3章の記述と合致する。